

平成 28 年度 病 院 年 報



三浦市立病院

三 浦 市 立 病 院 憲 章

基 本 理 念

三浦市立病院とその職員は、健康啓発、疾病の予防と治療、そして社会復帰に至るまでの医療全般にわたり、当院の持ち得る資源を最大限に活用して市民皆様に貢献します。

基 本 方 針

1 患者様中心の医療の実践

患者様の声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた医療サービスを提供するとともに、患者様の医療に関する権利を確保します。

2 救急医療への対応

地域中核病院として本市救急医療体制の中心的役割を担います。

3 安全で安心な医療の推進

安全かつ安心して医療を受けられる環境を整備します。

4 医療技術の向上

常に適切な医療技術を提供します。

5 人材の育成・確保

病院職員としての倫理を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心の医療を提供できる職員づくりに取り組みます。

6 地域連携の強化

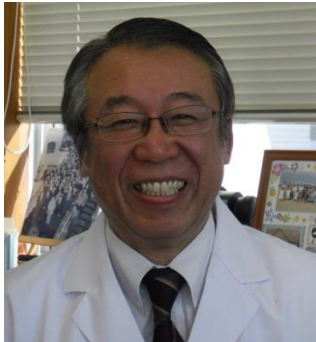
地域医療機関と連携し、地域医療体制を強化します。

7 療養環境の向上

快適な入院生活が送れるよう、医療行為はもちろんその他の部分も含めてきめ細やかな対応を図ります。

8 経営改善と安定経営

公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



はじめに

三浦市立病院総病院長 小澤幸弘

昨年度末の総務省からの「公立病院経営改革事例集」への掲載というこの上ないご褒美と時を同じくして、3月28日、横須賀共済病院への二人目の転院患者VRE陽性の報告を受けました。

三浦半島地区で広がり始めていたバンコマイシン耐性腸球菌に対する感染対策が当院でも本格化することになりました。とはいえ、院内への感染拡大は容易には押さえ込めずアウトブレイクとなり、7月28日、報道発表に至りました。鎌倉保健福祉事務所三崎センターや横浜市立大学や横須賀共済病院の指導・助言を受けながら、院内の感染対策の徹底化をはかり、ほぼ1年という時間を要し、翌年、3月14日、VRE感染沈静化の報道発表にこぎつけました。この間、ベッドコントロールの影響で入院患者数が減少し赤字経営となっていました。しかしながら、地域全体で情報共有し病院、介護施設、保健所などが一体となって感染対策に取り組んできましたし、横須賀市感染管理ネットワークにも参加し地域での情報交換も行っていました。院内での感染対策の経験も含め、今後の地域包括ケアシステムの構築に向けてこの上ない経験ができたものと考えています。

このようにVREに明け暮れた1年でしたが、職員採用の点では、久しくなかった医師1名を採用できたのをはじめ、看護師7名、理学療法士1名、放射線技師1名、地域医療科職員1名を採用できたことは大きな収穫でした。医師は地域医療科に属し、在宅医療の充実が図られました。

高齢化の進む三浦市としては、地域創生の一環として「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想を取り入れ「三浦版CCRC」を導入しました。その中で、予防医療を重視した社会基盤の充実に三浦市立病院が中心となって行政との協働を推進してきました。同時に医療と介護の連携も図ってきました。

また、三浦市医師会との協働で在宅医療ICTシステム「みうらホームケアネット」の運用を開始できたことは地域包括ケアシステムの構築に向けて大きな一歩を踏み出せたものと思います。

まさにVREに翻弄された一年でしたが、深い傷を負わず乗り越えることができたのは職員全員が真剣に取り組んでくれたおかげです。病院長として誇りに思います。それどころか、地域の医療・介護の連携を深めることができたのは、「三浦ならではの」地域医療の確立に向けて大きな財産になったものと思います。

三浦市立病院年報（平成 28 年度） 目次

三浦市立病院憲章

はじめに

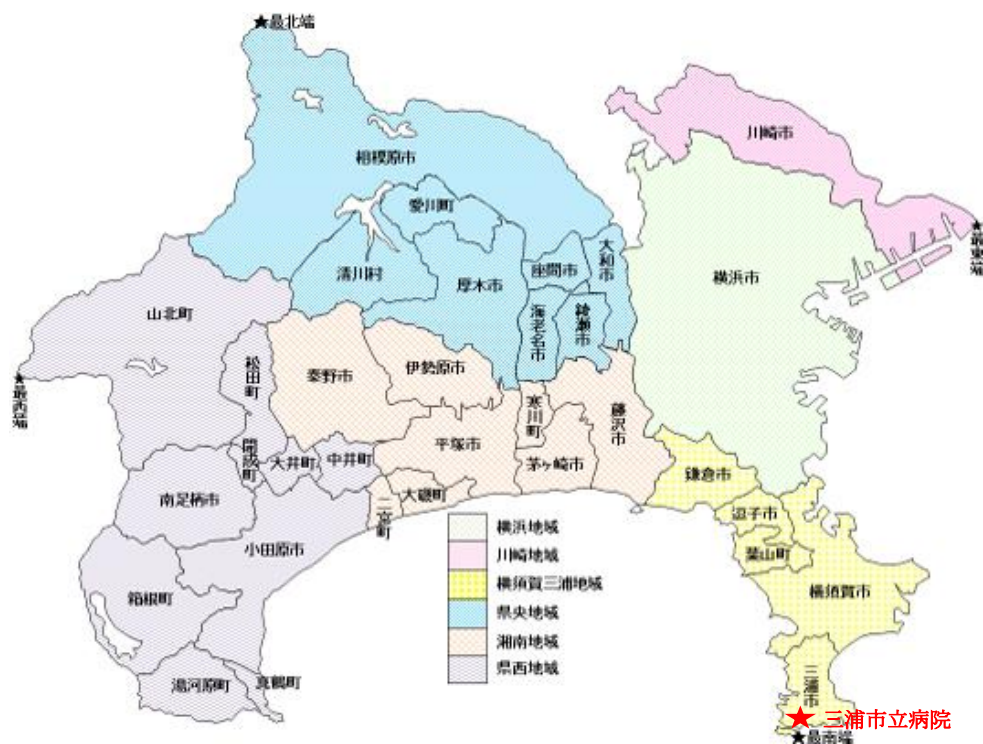
I 病院の概況	- 1 -
1 位置	- 1 -
2 沿革	- 3 -
3 施設の概要	- 8 -
(1) 土地・建物	- 8 -
(2) 設備	- 8 -
4 配置図	- 9 -
5 現況	- 12 -
6 施設基準	- 13 -
(1) 基本診療料	- 13 -
(2) 特掲診療料	- 13 -
7 組織及び職員配置状況	- 15 -
(1) 組織図	- 15 -
(2) 職員の状況	- 16 -
II 各科の活動状況	- 17 -
1 診療部	- 17 -
(1) 医局	- 17 -
(2) 内科	- 18 -
(3) 神経内科	- 20 -
(4) 外科	- 21 -
(5) 整形外科	- 25 -
(6) 産婦人科	- 27 -
(7) 眼科	- 29 -
(8) 小児科	- 31 -
(9) 耳鼻いんこう科	- 33 -
(10) 麻酔科	- 34 -
(11) 脳神経外科	- 35 -
(12) 泌尿器科	- 36 -
(13) 皮膚科	- 37 -
(14) 研修医	- 38 -
2 診療支援部	- 39 -

(1) 薬剤科.....	- 39 -
(2) リハビリテーション科	- 41 -
(3) 放射線科	- 45 -
(4) 臨床検査科.....	- 48 -
(5) 地域医療科.....	- 50 -
(6) 医療安全管理室	- 54 -
3 看護部	- 66 -
(1) 看護部.....	- 66 -
(2) 2階病棟	- 69 -
(3) 3階病棟	- 72 -
(4) 4階病棟	- 75 -
(5) 手術室.....	- 77 -
(6) 外来	- 79 -
(7) 看護教育室.....	- 82 -
4 事務局	- 91 -
(1) 総務課.....	- 91 -
(2) 医事課.....	- 93 -
(3) 栄養課.....	- 95 -
III 委員会の状況.....	- 97 -
1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会	- 97 -
2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）	- 102 -
3 三浦市立病院褥瘡対策委員会.....	- 115 -
4 三浦市立病院接遇向上委員会.....	- 120 -
5 三浦市立病院N S T委員会	- 124 -
6 三浦市立病院C S向上委員会.....	- 128 -
7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会.....	- 134 -
8 三浦市立病院薬事委員会	- 138 -
9 三浦市立病院情報処理委員会.....	- 140 -
IV 経営状況.....	- 144 -
1 決算概要	- 144 -
(1) 経常収益比較.....	- 144 -
(2) 損益計算書.....	- 145 -
(3) 貸借対照表.....	- 146 -
2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況	- 148 -
3 財務分析	- 153 -
V 各種統計資料.....	- 154 -

1	入院患者数実績	- 154 -
2	外来患者数実績	- 155 -
3	救急患者数実績	- 156 -
VI	スタッフ一覧.....	- 158 -
VII	編集後記.....	- 161 -

I 病院の概況

1 位置



※神奈川県ホームページ及びわが街がイトより画像転載

本市は、首都 60km 圏内にあたる三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれて気候温暖、農耕に適している。海岸線は 42.9km に及び、漁業のみならず、海洋レクリエーションなども盛んである。城ヶ島を天然護岸とし、昔から遠洋、近海及び沿岸漁業の基地として発展した全国的に有名な三崎漁港を有している。

市域面積	東西	南北	東経	北緯
32.16 k m ²	6.8 k m	9.4 k m	139° 37' 24"	35° 08' 27"

2 沿革

昭和26年	三崎町町議会にて、三崎町立国民健康保険病院の開設を議決する
昭和26年12月	初代院長 継 茂 就任
昭和27年 1 月	旧三崎町立伝染病院「南岬院」の建物を診療管理棟に増改築 病棟（30 床）新築工事着工
昭和27年 6 月	『三崎町国民健康保険直営病院』開設 内科・外科・産婦人科・眼科 4 科
昭和28年 2 月	第 2 病棟（28 床）看護婦宿舎（15 人）医師住宅（5 戸）新築工事着 工
昭和30年 1 月	『三浦市国民健康保険直営病院』と改称
昭和32年 2 月	第 3 病棟（35 床）伝染病棟（27 床）医師住宅（3 戸）新築第 1・第 2 病棟、看護婦宿舎増改築工事着工
昭和32年10月	小児科新設 5 科
昭和38年 5 月	基準寝具制度の実施
昭和38年 9 月	整形外科新設 6 科
昭和39年 4 月	『国民健康保険三浦市立病院』と改称
昭和39年10月	診療管理棟（鉄筋コンクリート地下 1 階、地上 3 階）新築工事着工
昭和40年 8 月	診療管理棟完成（完成後の病床数 一般 65 床、結核 18 床、伝染病 27 床、計 110 床）
昭和41年 6 月	国民健康保険三浦市立病院運営委員会設置
昭和42年 4 月	『三浦市立病院』と改称 地方公営企業法の財務規程を適用
昭和42年 9 月 1 日	未熟児指定養育医療機関となる
昭和43年10月	第 2 次整備事業として、病棟（地下 1 階、地上 3 階 150 床）伝染病 隔離病舎（27 床）看護婦宿舎（32 人）医師住宅 3 棟（10 戸）新築 工事着工
昭和44年10月	病棟・伝染病隔離病舎完成（完成後の病床数 一般 136 床、結核 14 床、伝染病 27 床、計 177 床）
昭和45年 3 月	看護婦宿舎、医師住宅完成
昭和47年 3 月	初代院長 継 茂 退職
昭和47年 4 月	初代院長 継 茂 名誉院長に就任 2 代院長 丸山 理一 就任
昭和47年 6 月	病院開設 20 周年記念行事実施
昭和49年	石油ショックによる人件費・材料費高騰、医療費改定の幅が小さく、 赤字増大する

昭和50年6月20日	三浦市救急医療体制「三浦方式」が発足し、当番制実施
昭和54年	病院事業経営健全化開始（5か年継続事業） 不良債務3億7,150万円の解消をはかる
昭和55年7月29日	救急指定病院 認可される
昭和55年12月1日	基準看護特2類 承認される（保険第3062号）
昭和56年4月1日	耳鼻いんこう科新設 7科
昭和56年5月1日	総合病院の認可（神奈川県指令医整第70号）
昭和57年4月1日	三浦半島広域病院群輪番制開始
昭和57年6月	開設30周年となる
昭和59年3月	病院事業経営健全化終了（5か年継続事業）
昭和59年9月3日	病院売店オープン
昭和60年9月	全身用C.T.設置される
昭和62年3月31日	名誉院長 継 茂 退任
昭和62年7月1日	三浦市立病院運営審議会設置
昭和62年10月19日	三浦市立病院運営審議会へ諮問「三浦市立病院の将来のあり方について」
昭和63年3月31日	2代院長 丸山 理一 退任
昭和63年4月1日	3代院長 五十嵐 捷介 就任
昭和63年7月	病棟に冷暖房機器整備される。
平成元年3月29日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」 中間のまとめが報告される
平成元年4月1日	坂本理事就任
平成元年11月17日	病院の経営診断を実施し、経営診断等結果報告書及び経営改善事業計画策定に関する報告書が完了
平成2年1月8日	院内に病院改善推進委員会を設置
平成2年2月23日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」答申される
平成2年4月1日	二次診療までを主体に救急24時間365日応需体制を開始する
平成2年5月25日	三浦市立病院運営審議会へ再諮問 「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」
平成3年8月19日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」中間のまとめが報告される
平成4年2月29日	病院の再整備計画を実施し、三浦市立病院再整備計画策定業務に関する報告書が完了
平成4年3月31日	看護婦宿舎1棟（6戸）完成
平成5年3月31日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行に

	ついて意見を伺う」答申される
平成 5 年 12 月 2 日	三浦市立病院運営審議会へ諮問
	1 新病院建設までの間における、当面の現施設のリニューアル及び効率的な病院運営について意見を伺う
	2 新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う（保健・福祉との連携、新病院建設場所の選定も含む）
	3 日常の病院経営・病院運営について審議会より常時建議して頂く
平成 7 年 3 月 10 日	付属棟完成
平成 7 年 3 月 23 日	坂本理事退職
平成 7 年 7 月 21 日	小児科外来を診療管理棟 3 階旧会議室に移転
平成 7 年 8 月 25 日	診療管理棟 2 階旧小児科に内科救急診療室及び内視鏡室新設
平成 7 年 11 月 29 日	三浦市立病院運営審議会より、平成 5 年 12 月 2 日付諮問に対する中間のまとめが報告される
平成 8 年 3 月 6 日	病院敷地内に三浦藤沢信用金庫現金自動設備及び附帯施設の整備
平成 8 年 4 月 1 日	神経内科新設 8 科
平成 8 年 12 月 2 日	病院へ京浜急行バスの運行
平成 9 年 12 月 5 日	C T 更新
平成 9 年 3 月 31 日	3 代院長 五十嵐 捷介 退任
平成 9 年 4 月 1 日	4 代院長 佐藤 實 就任
平成 9 年 4 月	整形外科・午後予約診療開始
平成 9 年 6 月	内科外来・膠原病の午後外来開始
平成 9 年 7 月	救急 24 時間 365 日応需体制の一部委託化（預り金制度廃止）
平成 9 年 9 月	薬局薬袋氏名のラベル化導入
平成 9 年 12 月	会計処理のシステム化（ポスシステム導入）
平成 10 年 2 月 10 日	三浦市立病院運営審議会より、「新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う」答申される
平成 10 年 3 月	適時適温給食の開始
平成 10 年 3 月 31 日	4 代院長 佐藤 實 退任
平成 10 年 4 月 1 日	5 代院長 大塚 尚之 就任
平成 10 年 6 月 1 日	新看護 2.5 : 1（A）看補 6 : 1 採用
平成 10 年 8 月 14 日	耐震診断調査委託実施
平成 10 年 10 月 23 日	病院建替えに係る基本調査委託実施
平成 11 年 2 月 1 日	新看護 2 : 1（A）採用
平成 11 年 6 月	消化器、肝臓病の午後外来診療開始
平成 11 年 8 月	ペースメーカー移植術
平成 11 年 12 月	内科外来予約診療開始

平成12年 3 月	三浦市立病院基本計画策定
平成12年 4 月	医療相談室設置
平成12年 5 月	検体・検査管理加算（1）認可（検1）第86号
平成12年 7 月	S P D（診療材料）システム導入
平成12年11月	インフルエンザ予防接種出張接種（施設）
平成13年 3 月	院外処方箋発行へ移行（全科）
平成13年 5 月	内科に第5診療室を設置
平成14年 3 月	第1病棟休止
平成14年 5 月	ウィン号マイクロ無料送迎バスの運行開始
平成14年 7 月	人間ドック無料送迎サービスの運行開始
平成14年 9 月	新病院（地下1階、地上4階）新築工事着工
平成15年 3 月31日	5代院長 大塚 尚之 退任
平成15年 4 月 1 日	6代院長 五十嵐 俊久 就任
平成15年 5 月	小児救急試行開始
平成16年 3 月17日	新病院開院（免震構造、病床数136床） オーダーリング・システム導入
平成16年 4 月 1 日	リハビリテーション科新設 9科
平成16年 8 月16日	運営懇話会 発足
平成16年 9 月30日	新病院完成（地上4階地下1階、免震構造、病床数136床、駐車場 約170台分）
平成17年 2 月22日	ドクターヘリ・シミュレーション実施
平成17年 4 月 1 日	麻酔科新設 10科
平成17年 8 月25日	経営懇話会 発足
平成19年 3 月31日	6代院長 五十嵐 俊久 退任
平成19年 4 月 1 日	7代院長 小澤 幸弘 就任
平成20年 4 月 1 日	病院給食業務の民間委託開始
平成20年10月 1 日	脳神経外科新設 11科
平成21年 3 月	三浦市立病院改革プラン策定
平成21年 3 月 1 日	SPD システム業務委託開始
平成22年 4 月 1 日	地方公営企業法全部適用 総病院長（病院事業管理者） 小澤 幸弘 就任
平成22年 4 月	地域医療科設置
平成22年 5 月	訪問診療開始
平成23年 7 月	皮膚科新設 12科
平成23年 7 月	泌尿器科新設 13科
平成24年 1 月	来院者駐車場用地の貸付開始

平成25年 9 月	介護保険指定居宅サービス事業者及び指定介護予防サービス事業者の指定 訪問リハビリテーション開始
平成25年10月	入院患者対象土曜リハビリテーション開始
平成25年10月 1 日	16 列型マルチスライスCTへ更新
平成26年 1 月13日	電子カルテシステム導入
平成26年 3 月15日	「在宅看取りを考える」シンポジウム開催
平成26年 4 月 1 日	医療安全管理室設置
平成26年 6 月22日	レスパイト健診開始
平成26年 9 月 1 日	地域包括ケア病棟 24 床開始
平成27年 1 月 1 日	横須賀共済病院、衣笠病院、聖ヨゼフ及び三浦市立病院による四病院連携会議発足
平成27年 3 月 7 日	「在宅療養を考える集い」シンポジウム開催
平成27年 3 月27日	タブレット端末により、院外にあって電子カルテシステムにアクセスする訪問診療等電子カルテ参照・記入システム導入
平成27年10月 4 日	三浦市民健康大学を 12 月まで開催
平成28年 3 月 5 日	「在宅療養を考えるつどい～地域で支える在宅療養を考える～」シンポジウム開催
平成28年 3 月10日	地域包括医療・ケア認定施設の認定
平成28年 3 月20日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年 3 月27日	奈良県西和医療センターとの病院相互連携に関する包括協定締結
平成28年 3 月31日	デジタルラジオグラフィーへ更新
平成28年 3 月31日	総務省が作成する「公立病院経営改革事例集」に当院の事例が掲載
平成28年 4 月 1 日	地域包括ケア病棟 28 床へ増床
平成28年 7 月 1 日	三浦市派遣型救急ワークステーション開始
平成28年 9 月30日	災害資機材倉庫設置
平成28年10月	小児を対象とした外来リハビリテーション開始
平成28年10月23日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年11月 1 日	「みうらホームケアネット」供用開始

3 施設の概要

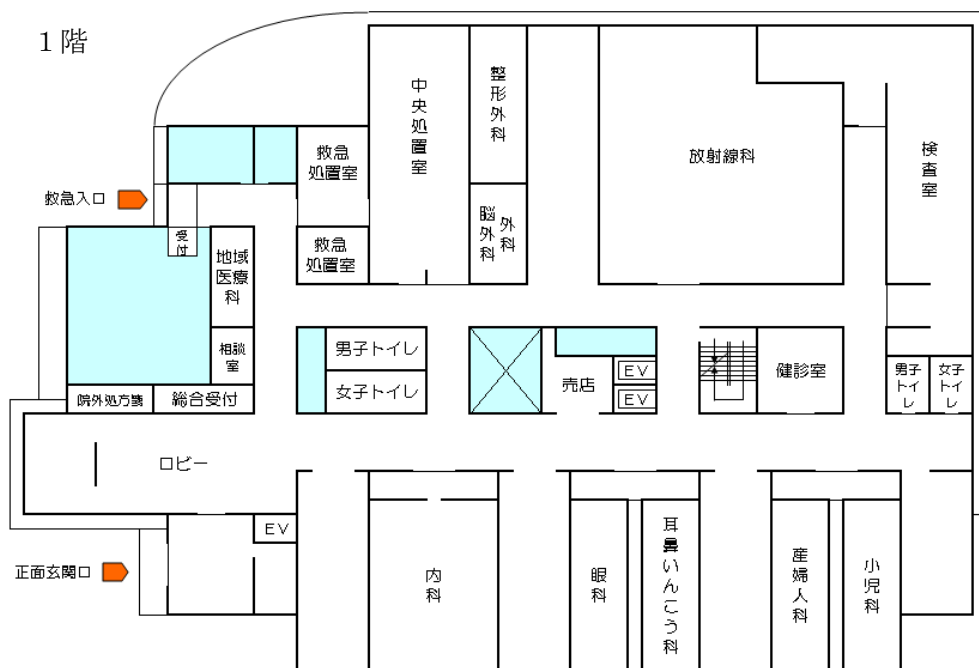
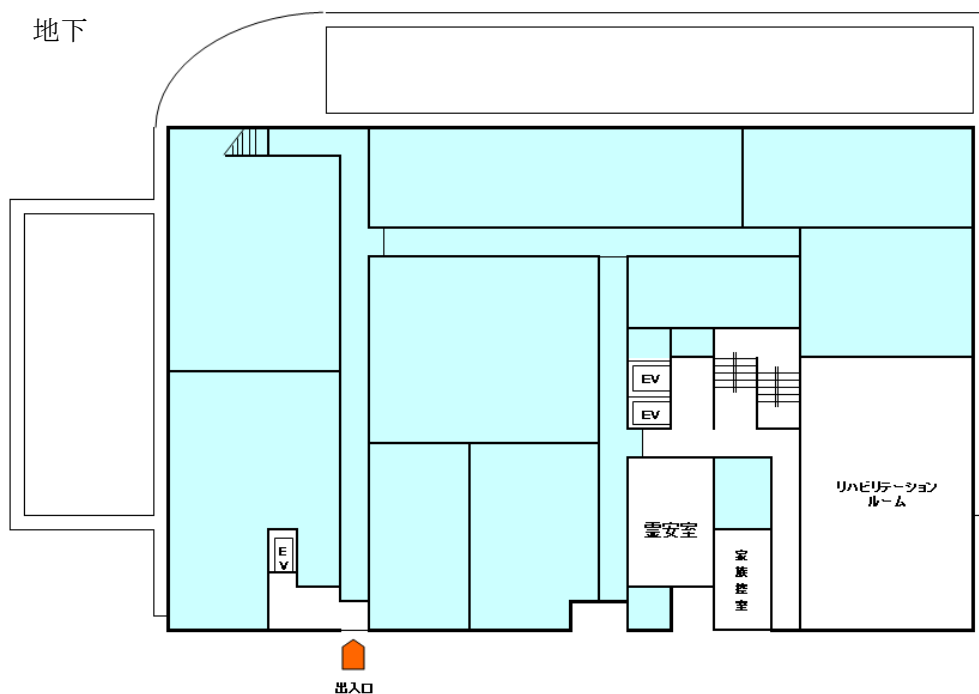
(1) 土地・建物

＜土地＞	13,756.53 m ²
＜建物＞	3,080.96 m ²
病院（地下1階、地上4階、免震構造）	2,870.32 m ²
キャノピー（1）	92.89 m ²
キャノピー（2）	12.98 m ²
ブロー室（地上1階）	15.91 m ²
マニホールド室（地上1階、空気機械室）	18.80 m ²
付属棟（地上2階、作業室、図書室）	70.06 m ²

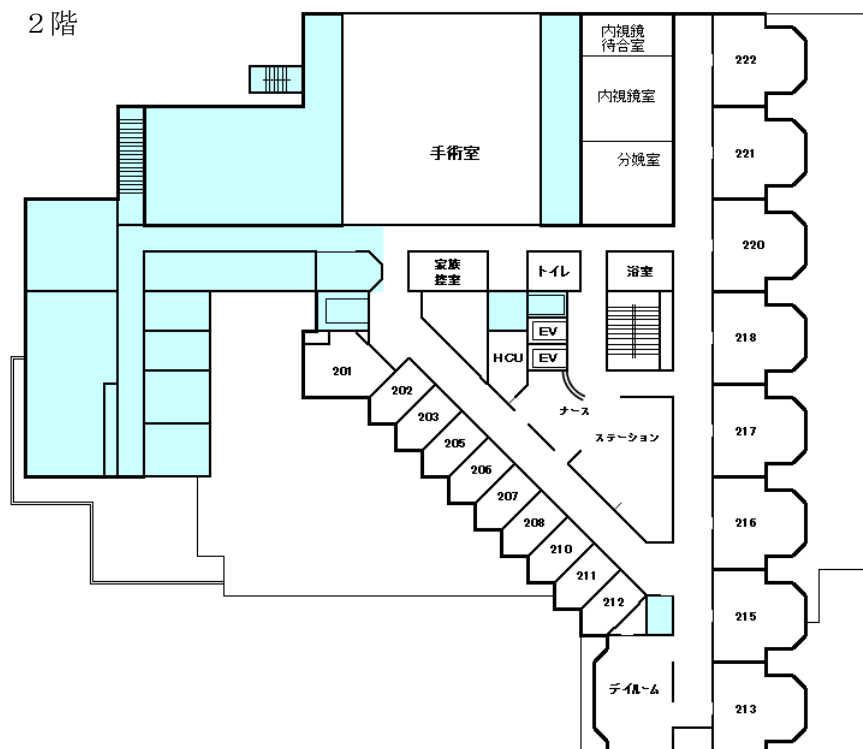
(2) 設備

＜電気設備＞	845KW 受電、負荷容量 2,000KVA
＜蓄電池設備＞	10 分間蓄電池
＜無停電設備＞	瞬断バックアップ方式（手術室、HCU、乳児室）
＜弱電設備＞	インターホン、ナースコール、ITV 設備、TV 共聴設備電気時計設備、院内 LAN
＜電話設備＞	蓄積プログラム方式、一般内線 162 台、院内 PHS72 台、ナースコール対応 PHS12 台
＜自家用発電機＞	自動始動発電機、開放保護形自己通風三相交流発電機 500 KVA カスタムエンジン発動機、単純開放サイクル軸式、自己空冷式、灯油、燃料、燃料オイルタンク 30,000ℓ
＜消火設備＞	消火器設備 10 型 40 箇所、20 型 6 箇所、スプリンクラー設備、特殊消火設備電気室、発電機室、ボイラー室
＜医療ガス設備＞	酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引、余剰ガス排出
＜昇降機設備＞	5 基（寝台用 3 基、乗用 1 基、配膳・荷物用 1 基）
＜給水設備＞	上水入水槽 55 m ³ 、雑用水入水槽 144 m ³ 、緊急用浄水ろ過装置
＜自動火災報知設備＞	自動火災報知設備、防火扉閉鎖設備、ガス漏れ警報設備
＜空調設備＞	冷暖房、水熱源ヒートポンプシステム（補助熱源貫流ボイラー） ファンコイルユニット 188 基、パッケージ方式 55 基
＜消毒設備＞	オートクレーブ 2 基、簡易滅菌装置 3 基
＜給排水衛生設備＞	給水設備、給湯設備、浄化槽設備
＜免震設備＞	南関東地震対応、国土交通大臣認定 鋼材型ダンパー 3 基・鉛ダンパー 6 基・オイルダンパー 12 基

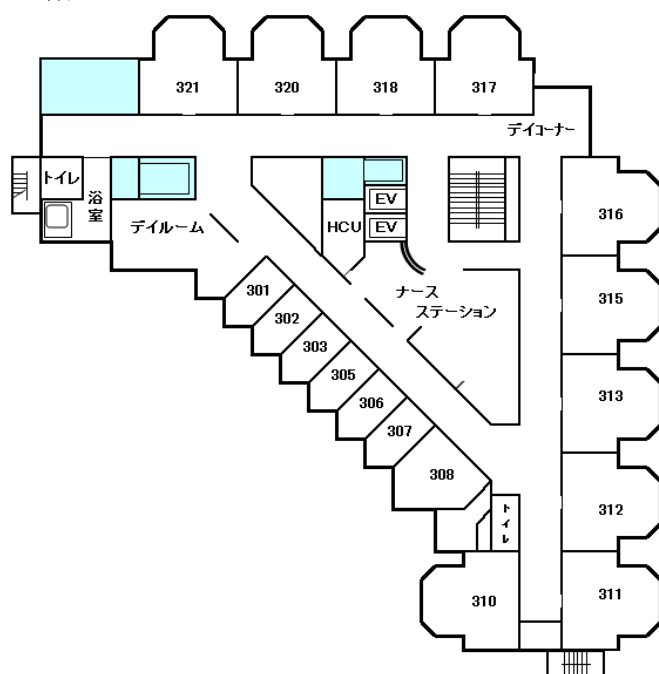
4 配置図

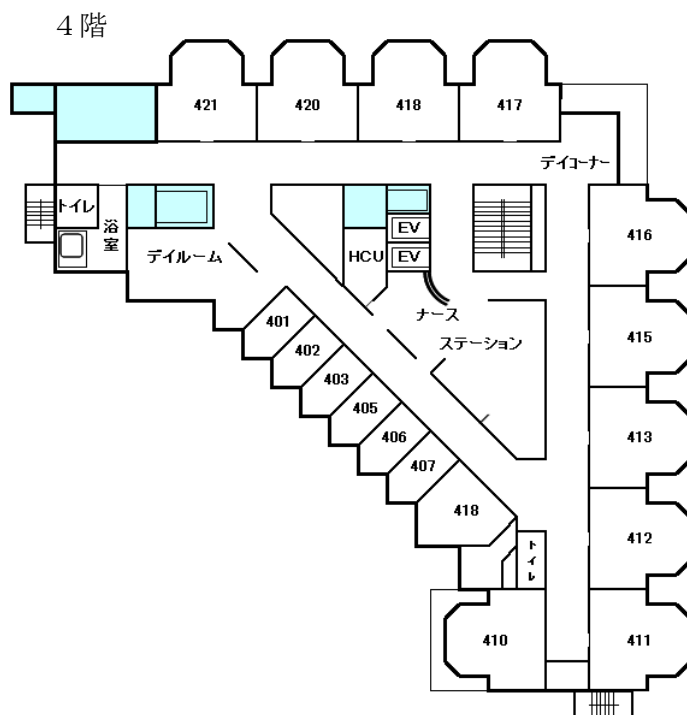


2階



3階





5 現況

施設名	三浦市立病院
開設者	三浦市長 吉田 英男
管理者	総病院長 小澤 幸弘
所在地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号
開設年月日	昭和27年6月4日
診療科目	13科（内科、神経内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科）
病床数	一般病床 136 床
地方公営企業法全部適用	平成 22 年 4 月 1 日
敷地面積	13,756.53 m ²
建物面積	建築面積 3,080.96 m ² 延べ床面積 9,392.75 m ² （附属棟 136.08 m ² 含む）
指定等	保険医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定、労災指定、船員保険法指定、救急告示病院、身体障害者福祉法指定医、母体保護法指定医等

6 施設基準

平成 29 年 3 月 31 日現在

(1) 基本診療料

一般病棟入院基本料 (10 対 1)
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
一般病棟看護必要度評価加算 2
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2 (50 対 1)
療養環境加算
退院支援加算 1
地域包括ケア病棟入院医療管理料 I
データ提出加算 1
感染防止対策加算 (1)
感染防止対策地域連携加算
患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算 1
地域加算 6 級地
病棟薬剤業務実施加算
A D L 維持向上等体制加算
認知症ケア加算 2

(2) 特掲診療料

がん性疼痛緩和指導管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
H P V 核酸検出及び H P V 核酸検出 (簡易ジェノアタイプ判定)
検体検査管理体制加算 (I)
検体検査管理体制加算 (II)
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)
運動器リハビリテーション料 (I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
輸血管理料及び輸血適正使用加算

在宅療養支援病院（「第 14 の 2」の 1 の（1）に規定する在宅療養支援病院〔機能強化〕）

在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料

在宅がん医療総合診療料

病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制

遠隔画像診断による写真診断（送信側）

糖尿病合併症管理料

がん患者指導管理料 1

外来リハビリテーション診療料

夜間休日救急搬送医学管理料

喘息治療管理料

糖尿病透析予防指導管理料

院内トリアージ実施料

C T 撮影及びMR I 撮影

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

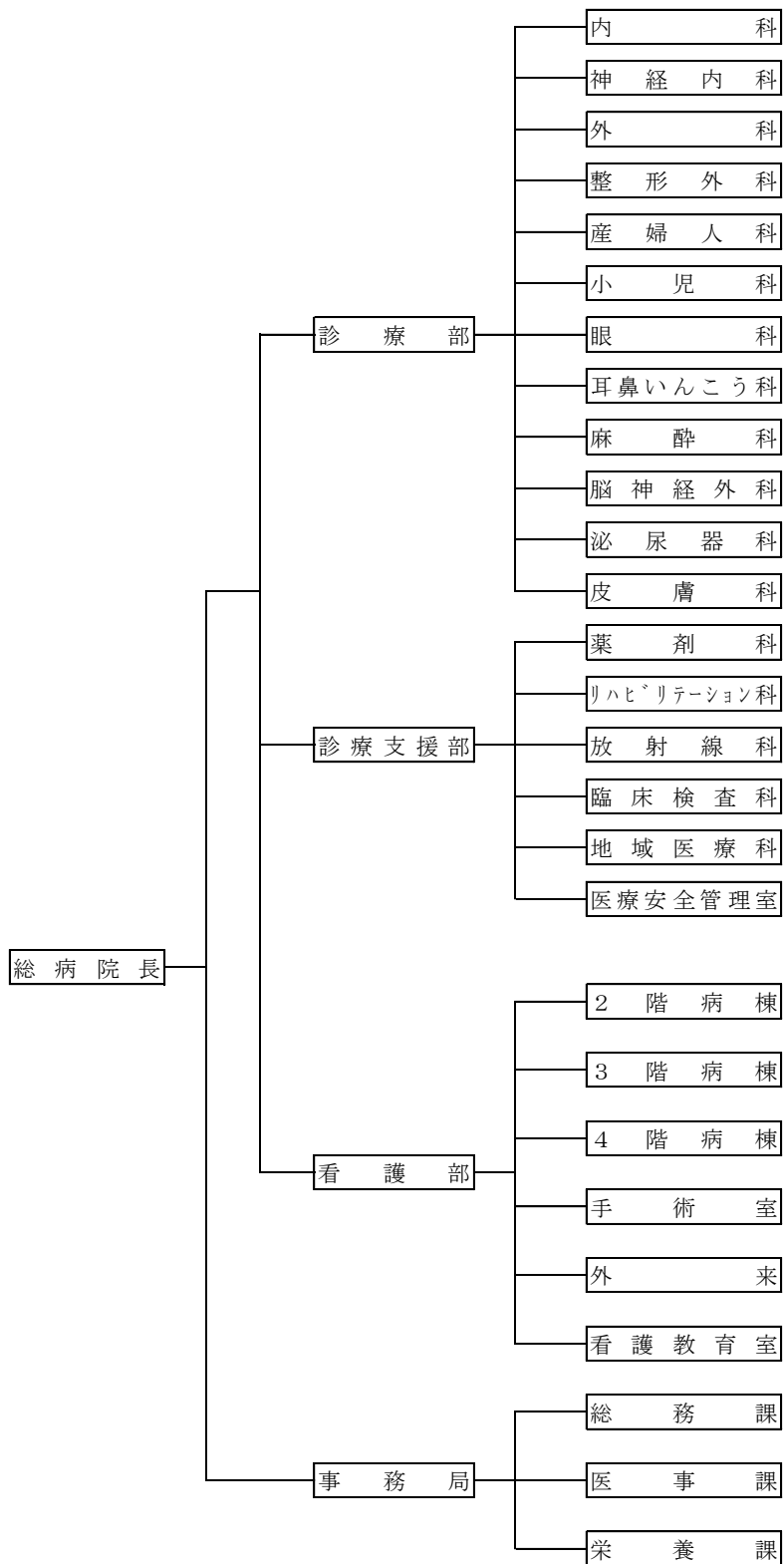
胃瘻造設術

造血器腫瘍遺伝子検査

応用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

7 組織及び職員配置状況

(1) 組織図



(2) 職員の状況

(単位：人)

職 名	平成 27 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 28 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 29 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数
管 理 者	1	1	1
医 師	13	13	14
看 護 師 准 看 護 師	(1) 80	(1) 79	(0) 78
医 療 技 術 員	(0) 30	(0) 29	(1) 30
事 務 員	9	9	9
そ の 他	(1) 0	(0) 0	(0) 0
計	(1) 133	(1) 131	(1) 132

() は、外書きで、再任用短時間勤務職員

Ⅱ 各科の活動状況

1 診療部

(1) 医局



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

医局内の人事は、林路子医師が内科（地域医療科）へ平成 28 年 4 月より赴任されて 1 名増員となった。

(2) 業務実績

区分	H24	H25	H26	H27	H28
内科	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真
	来田 亮二	来田 亮二	来田 亮二※	兒玉 康史	兒玉 康史
	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史	堀内 俊治	堀内 俊治
	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治	森 琢磨	森 琢磨
	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨		
(地域医療科)	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末
					林 路子
外科	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一
	和田 博雄	和田 博雄	佐々木一喜	和田 博雄	和田 博雄
	青山 徹	青山 徹	和田 博雄	川邊 泰一	川邊 泰一
整形外科	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健
	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太
小児科	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三
眼科	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至
産婦人科	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰
麻酔科	欠	欠	欠	欠	欠

※H26.11.30 退職

(2) 内科



医長 齊藤 真

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 外来診療

午前是新患及び予約のない再診外来と予約一般外来を行っている。午後の外来は主に専門医による専門外来を行っている。平成 28 年度は引き続き循環器外来、呼吸器外来、糖尿病外来及び健診結果外来を設け診療にあたった。

イ 入院患者の疾患分類

平成 28 年度の入院患者数は前年度に比べ減少した。当院の特徴として、入院患者の半数以上が高齢者であるため、肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多くなっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 業務実績

平成 28 年度は平成 27 年度に比べ外来患者数が減少した。今後も専門外来に力を入れ、様々な疾患に対応していきたい。

(イ) 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	33,090	32,278

イ 入院患者

(ア) 業務実績

平成 28 年度は平成 27 年度と比べ入院患者数が減少した。肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多いので、疾患分類に対応した診療をしていきたい。

(イ) 入院患者

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度
入院	20,853	19,986

(3) 神経内科



○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では毎週月曜・火曜・木曜・金曜日の午後に横浜市立大学の応援を得て、パーキンソン病、脳血管疾患及び神経難病の患者の診療にあたっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 28 年度の外来患者数は 1,772 人、平成 27 年度の外来患者数は 1,950 人、平成 26 年度は 2,007 人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	2,007	1,950	1,772

(4) 外科



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア スタッフ

平成 28 年度はスタッフの移動がなく、昨年度と同様に和田博雄医師と川邊泰一医師と私（木谷勇一）の 3 人体制で診療を行った。

イ 診療範囲

頸部、胸部（心臓は除く。）、腹部、骨盤及び下肢に至るまでの範囲で、診断・治療（主として手術）・後療法を行った。当院の外科と整形外科を合わせた全身麻酔を週 4 回横浜市大麻酔科に依頼していたが、人員不足もあり週 3 回に減少となった。水曜日の外科の手術日に麻酔科が来院できなくなったため、金曜日の午後の整形外科手術日に少し早めに来院してもらい、整形外科の手術の前の午前中に全身麻酔の小手術をさせて頂いている。このため金曜日の外科外来診療は約半分となっている。ハッピーマンデイの為月曜日が休日になることもあり、手術をこなすため月曜日は縦 2 列で手術することも多く、関係部署に多大のご迷惑をおかけしている次第である。

診療面では、大腸ステントを導入し、大腸イレウスの当科での救急の加療が可能となった。

(2) 業務実績

ア 年度別外科手術件数

(単位：件)

区分	術式	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
甲状腺	甲状腺切除	1	1	0
	甲状腺切除＋頸部リンパ節廓清	0	0	0
	頸部リンパ節廓清	0	0	0
乳腺	B t ＋ Ax	5	5	4
	Bp ＋ Ax	1	2	3
	Bp	2	3	1
	Bt	2	0	1

(単位：件)

区分	術式	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
肺	開胸肺葉切除	5	4	0
	開胸肺部分切除	0	0	0
	開胸ブラ切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下ブラ切除	0	1	0
食道	胸部食道切除術	0	0	0
	食道バイパス術	0	0	0
	アカラシア手術	0	0	0
胸壁	胸壁腫瘍摘出術	0	0	0
胃	幽門側胃切除	5	2	4
	胃全摘術	4	4	1
	単開腹	0	0	1
	残胃全摘	0	0	1
	胃空腸吻合	0	0	1
	局所切除	1	0	0
	腹腔鏡審査	0	1	0
十二指腸潰瘍 穿孔	穿孔部閉鎖、大網被覆	1	0	0
	Nissen 噴門形成術	1	1	0
肝癌	経皮ラジオ波焼灼術	0	0	0
	開腹ラジオ波焼灼術	0	1	0
	区域切除	0	1	0
	葉切除	0	0	0
	腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	1	0	0
	部分切除	0	0	1
胆管	総胆管切除	0	0	0
	肝管空腸吻合術	0	0	0
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	8	8	5
	開腹胆嚢摘出術	6	3	5
	総胆管結石採石術	7	1	2
膵	幽門輪温存膵頭十二指腸切除術	1	0	0
	膵体尾部切除	2	2	0

(単位：件)

区分	術式	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
小腸	イレウス解除術	5	3	2
	小腸部分切除	2	6	1
	腸吻合・腸縫合	3	1	0
結腸	結腸切除	21	18	15
	腹腔鏡補助下結腸切除	0	0	0
結腸	人工肛門造設	2	2	3
	人工肛門閉鎖	0	2	1
虫垂	虫垂切除	8	1	15
	腹腔鏡下虫垂切除	5	0	0
直腸	高位前方切除	1	1	2
	低位前方切除	2	5	4
	直腸切断術	5	2	1
	ハルトマン手術	2	1	0
	経肛門的切除	2	3	0
	G a n t－三輪法	0	0	0
	痔核根治術		2	0
ヘルニア（鼠径）	鼠径ヘルニア根治術	32	30	23
（大腿）	大腿ヘルニア根治術	0	1	2
（小児鼠径）	小児鼠径ヘルニア根治術	1	2	0
（臍）	臍根治術	0	0	0
（腹壁瘢痕）	腹壁瘢痕ヘルニア根治術	2	1	1
（閉鎖孔）	閉鎖孔ヘルニア根治術	0	0	0
体表	植皮	2	0	1
	皮下埋め込み型 CV ポート設置	16	23	21
	リンパ節生検	4	2	0
その他	皮下腫瘍	3	11	4
	その他	3	2	3

イ 年度別外科インターベンション数

(単位：件)

区分	術式	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
EMR	食道癌	1	0	0
	胃癌	3	2	2
	大腸癌	5	7	5
ステント	食道ステント	4	1	2
	十二指腸ステント	1	2	3
	胆道ステント	2	4	3
	大腸ステント	0	0	3
	経肛門のイレウス管	0	4	0
経皮経肝ドレナージ	P T C D	6	7	3
	P T G B D	1	1	2
	P T A D	0	1	0
	肝嚢胞ドレナージ	2	0	0
血管造影	腹部血管造影	0	0	0
	T A C E	2	0	0
	T A I	1	1	0
食道静脈瘤	食道静脈瘤 E V L	1	1	1
	食道静脈瘤硬化療法	4	1	1
内視鏡的ブジー	G F バルーンブジー	0	3	0
	C F バルーンブジー	1	1	3
その他内視鏡的治療	P E G	4	7	7
	G F 止血術	1	1	2
	G F A P C 止血術	0	0	1
	G F エタノール注入	0	1	0
	G F 異物除去	3	3	1
	C F 異物除去	0	0	0
	S 状結腸捻転解除	2	1	0
	E R C P / E S T	10	19	12

(5) 整形外科



科部長 内川 健

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

三浦市立病院整形外科は医師 2 名にて外来診療、病棟業務、救急対応及び手術を行っている。ひとつひとつのことを丁寧に確実に誠意をもって診療にあたりたいと考えている。

平成 28 年度も大きな事故なく、無事に仕事をする事ができたのも病院の方々のおかげと感謝している。

(2) 業務実績

ア 手術実績

(単位：件)

区分	計
(休)関節脱臼非観血的整復術（肩）	1
(時)関節内骨折観血的手術（足）	1
(時)鋼線等による直達牽引	1
(時)骨折非観血的整復術（前腕）	1
(乳)関節脱臼非観血的整復術（肘）	1
(時)関節脱臼非観血的整復術（肩）	1
腱縫合術	1
腱縫合術（指）	2
骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	1
骨盤骨折観血的手術（腸骨翼及び寛骨臼骨折観血的手術を除く）	1
四肢切断術（足・指）	2
四肢切断術（下腿）	1
関節脱臼非観血的整復術（股）	1
関節脱臼非観血的整復術（指・足）	1
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	2
関節脱臼非観血的整復術（肩）	5

(単位：件)

区分	計
関節内骨折観血的手術（足）	1
関節内骨折観血的手術（膝）	1
関節内骨折観血的手術（肘）	2
陥入爪手術（簡単なもの）	5
鋼線等による直達牽引	1
骨折観血的手術（鎖骨）	1
骨折観血的手術（下腿）	6
骨折観血的手術（上腕）	1
骨折観血的手術（前腕）	5
骨折観血的手術（足）	1
骨折観血的手術（大腿）	41
骨折観血的手術（膝蓋骨）	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	1
骨折非観血的整復術（足・その他）	1
骨折非観血的整復術（肩甲骨）	1
骨折非観血的整復術（手）	3
骨折非観血的整復術（前腕）	17
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	2
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	8
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	1
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	2
骨内異物（挿入物）除去術（足）	2
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	1
人工骨頭挿入術（股）	8
腱縫合術（切創等の創傷により）	2

イ 患者数実績

(単位：人)

区分	一日平均患者数	合計
外来患者数	108	26,303
入院患者数	31	11,493

(6) 産婦人科



科部長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 外来診療

平日午前中は新患・一般外来・ドック検診を行っている。火曜・金曜日の午後は三浦市のがん検診を、それ以外の午後は予約患者の診療を行っている。毎月第 2 土曜日はこれまで市の子宮がん検診を行っていたが、あらたに土曜ドック検診も併せて行うことになった。

年間 12～14 回、市役所合同庁舎など市内各所を会場にして行われる集団健診や介護施設入居者の健診、流行シーズン到来前の成人ワクチン接種も当科医師が担当して行っている。これらを午前中に実施する日は婦人科外来診療は休診としている。

イ 産科診療

当院で分娩取扱いを休止して 10 年が経過した。産科診療では妊婦と胎児の 2 人を対象にして診るうえ、妊婦・胎児の状態は予兆なく短時間で大きく変化する可能性が常にある。一般の人には理解しにくいことだが、健康な妊婦・良好状態と思われた胎児が突然病的状態に陥ることは比較的まれでなく起こりうる。そのため産科医や小児科医、助産師などの多職種で急変に対応する体制が 24 時間機能する必要がある、産科を続けるにはその不斷の努力を長年月にわたり維持しなければならないところが難しい点と考えられる。

(2) 業務実績

ア 子宮がん検診業務

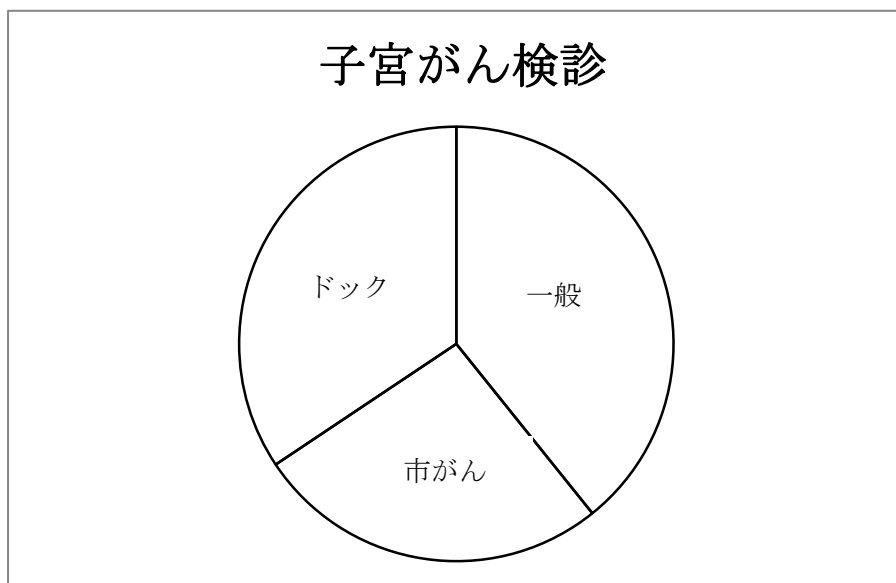
(ア) 業務実績

平成 28 年度の子宮がん検査受診者は 803 人であった。総数では前々年の 714 人、前年度の 756 人より年々増加している。

(イ) 分類

	人数	
一般	315 人	そのうち体がん検査も受けた人＝44%
市がん	212 人	そのうち体がん検診も受けた人＝57%

ドック 276 人 そのうち体がん検診も受けた人＝57%



(7) 眼科



医師 望月 至

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 外来診療

眼圧を測定する眼圧計が新規のものとなり、測定方式が接触式から非接触式になり、患者の満足度向上に繋がった。

イ 手術

白内障手術が主体となっている。手術顕微鏡が新規なものとなり、手術時間短縮及び患者の満足度向上に繋がった。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 外来・入院患者数

外来患者数は減少傾向である。視能訓練士が不在だが、抜本的な診療体系の改革をし、医療提供の質を保ちつつ、待ち時間を減らすことが、今後の課題である。

白内障手術件数が減ったことにより、入院患者数は減少傾向にある。

(イ) 入院・外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	6,477	5,681
入院	134	104

イ 手術業務

(ア) 白内障手術件数

手術件数は減少傾向である。理由として、やはり外来患者数の減少が、予想される。手術顕微鏡が新規なものとなったため、白内障手術時の術中合併症の減少及び術後の満足度の更なる向上が得られる。前述同様、待ち時間を減らし、白内障手術希望者を獲得する事が、今後の課題である。

(イ) 手術件数

(単位：件)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度
白内障手術	342	321
その他	0	2
合計	342	323

(8) 小児科



科部長 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 外来業務

平成 24 年 4 月、小児科常勤医として、五味渕が着任。今までの診療体制を引き継ぎ、午前中は一般外来、午後は予約外来として、月曜日及び木曜日はぜんそく外来、火曜日及び水曜日は予防接種外来を行っている。また、行政機関の依頼による結核接触者健診並びに福島県外避難者県民健康管理調査も受諾している。

イ 地域との連携

現在、常勤医 1 名であり、小児の入院受入れは行っていないため、周辺の医療施設との連携が必須となる。そこで、市内の医院からの患者紹介を受け、そこで入院適応のある場合には、横須賀市立市民病院、横須賀市立うわまち病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学付属病院などに紹介するようにしている。

(2) 業務実績

ア 院外活動

(ア) 業務実績

院外活動として、三浦市の児童虐待対策や乳児健診などにも携わっている。特に児童虐待対策については、神奈川県、鎌倉保健福祉事務所三崎センター、三浦市の児童虐待対策会議に参加している。児童虐待対策は、早期発見が重要な社会的な課題であるため、今後は地域で児童虐待対策チームなどを立ち上げ、活動していく必要性を感じている。

(イ) 業務実績

近年は、医療の進歩などにより、慢性疾患の子どもたちが、思春期～成人期を迎えることも多くなったため、小児科から成人診療科への継続的な移行が必要である。そこで、どうすれば、患者が安心して、小児科から成人診療科へ移行できるのか？この疑問を解決する糸口として、週一回の内科初診外来を担当して 2 年あまりになった。小児と成人では、診療への考えが異なることを経験し、現在は、小児から成人へと成長していく患者たちを継続して診療すること

に非常に役立っている。このような機会を与えてくれた病院と診療面で、大変お世話になっている内科医師をはじめ、関連のスタッフのみなさんに、この場を借りて深謝したい。

(9) 耳鼻いんこう科



○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・木曜日の午後に横浜市立大学及び横須賀共済病院の応援を得て、耳鼻いんこう科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は、平成 26 年度は 3,490 人、平成 27 年度の外来患者数は 3,098 人、平成 28 年度は 3,175 人であった。平成 27 年度から平成 28 年度にかけて外来患者数は増加した。今後も、患者から信頼される診療をしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	3,490	3,098	3,175



(10) 麻酔科

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・金曜日の午後に横須賀共済病院及び横浜南共済病院の応援を得て、麻酔科を実施している。手術前の患者に手術の説明から術中覚醒までの麻酔管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 平成 28 年度麻酔実施状況

平成 28 年度は局所麻酔の件数が 363 件、全身麻酔が 131 件、全麻・硬麻は 46 件、腰椎麻酔が 10 件、硬膜外 0 件、伝達麻酔 1 件という実績であった。

イ 麻酔件数表

(単位：件)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
全麻・硬麻	2	3	4	4	3	4	3	3	7	3	5	5	46
全身麻酔	6	12	12	10	15	8	11	18	9	15	7	8	131
硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎麻酔	1	0	0	0	0	0	1	4	2	1	0	1	10
伝達麻酔	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
局所麻酔	27	31	34	39	21	27	34	25	31	34	31	29	363
計	36	46	51	53	39	39	49	50	49	53	43	43	551

(11) 脳神経外科



○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では、毎週水曜・金曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、脳神経外科外来を実施している。また脳ドックの読影についても実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は平成 26 年度 1,700 人、平成 27 年度 1,695 人、平成 28 年度 1,773 人であった。平成 27 年度から平成 28 年度にかけて外来患者数は増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	1,700	1,695	1,773

(12) 泌尿器科



○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・水曜・木曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、泌尿器科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 27 年度から平成 28 年度にかけては外来患者数は増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	2,431	2,441	2,565

(13) 皮膚科



○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

当院では、毎週火曜日・金曜日午後に横須賀共済病院の応援を得て、皮膚科外来を実施している。また、病棟における入院患者の皮膚疾患管理も担っている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 26 年度の外来患者数は 2,311 人で、平成 27 年度の外来患者数は 2,568 人、平成 28 年度の外来患者数は 2,534 人であった。今後も三浦市ならではの診療ができるようにしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来	2,311	2,568	2,534

(14) 研修医



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

平成 28 度は、横須賀共済病院より 11 名、横浜市大病院より 2 名、奈良県の西和医療センターより 1 名研修医が来院された。

地域医療の研修の目的は、全体に限りある医療資源をいかに有効に使用するかに尽きる。そのため当院のような地域の病院で、医師、パラメディカル、その他のスタッフがどのように働くかを身近に見て頂いたことは、今後の医師の診療に有意義になる研修と考える。

(2) 平成 28 年度研修医一覧

平成 28 年度	奥山 智輝	遠藤 由佳		
	以上横浜市立大学附属市民総合医療センターより			
	上野 浩嗣			
	以上奈良県西和医療センターより			
	郷 真知	佐々木 恵吾	笹本 真覇人	坂井 洋
	青木 惇	清水 亜希子	工藤 孝迪	小澤 達志
	吉田 健太	井上 雄介	道下 貴弘	
	以上横須賀共済病院より			

2 診療支援部



(1) 薬剤科

科長 今村 里絵

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 病棟薬剤業務加算算定

平成 26 年度から加算可能となり、月平均 459 件、459,000 円の算定となった。薬物療法の有効性・安全性向上のため医師・看護師等との連携を図り、適切な薬物治療の推進に努めている。

イ 院内医薬品在庫管理

棚卸資産減耗費はここ数年、毎年十数パーセントの削減となり経費削減に繋がっている。次年度も引き続き、各科定数配置薬の品目、数量の見直しを図り、更なる在庫管理を進めていく所存である。また後発医薬品の導入推進を行い、医療費削減と医療資源の有効活用に努めていきたい。

ウ 6 年生薬学生実務実習（11 週間）

横浜薬科大学より 1 名受け入れた。当院では実施していない業務においては他の医療機関の協力をいただいている現状であるが、薬学生を指導することにより職員の更なる知識及び技術の向上並びに意識改革に繋がっていると考えている。

(2) 業務実績

ア 調剤業務

区分	処方箋枚数			調剤数		院外処方
	外来		入院	外来	入院	疑義照会
	院内処方	院外処方				件数
年間	2,506	58,495	19,076	4,112	47,737	3,206

イ 薬剤管理指導業務

区分		内科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	小児科	耳鼻科	計
服薬指導患者数		82	251	68	0	0	0	0	401
総服薬指導件数		163	515	160	0	0	0	0	838
算定件数	380 点	75	330	70	0	0	0	0	475
	325 点	25	41	29	0	0	0	0	95
麻薬加算件数									48
退院時薬剤情報加算件数									156

ウ 注射剤混合業務

区分	無菌調剤処方件数		無菌調整件数（中心静脈）	調整本数
年間	1,896		1,055	1,136
	化学療法	入院	283	523
	調整	外来	0	

エ 麻薬管理業務

区分	処方箋枚数		
	内服	外用	注射
年間	265	77	1,605

オ 血液製剤管理業務

区分	件数
年間	46

カ 院内製剤業務

区分	件数
年間	164

キ 持参薬管理業務

区分	件数
年間	1,804

(2) リハビリテーション科



技師長 清水 隆人

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア ADL 維持向上等体制加算の運用について

平成 28 年 10 月より、ADL 維持向上等体制加算の運用開始に伴う専従・専任の理学療法士を 2 階・3 階病棟に配置した。

イ 小児を対象としたリハビリテーションの展開

平成 28 年 10 月より、小児を対象とした外来リハビリテーションを開始した。

背景には、障がいを抱える児童及びその家族が三浦市内で享受する事の出来る資源の不足がある。

私たちは、地域の幼稚園や保育園、小中高等学校、放課後等デイサービスなど、当該児及びその家族が関わる様々な施設やサービスとの連携を通じて、生まれ育ったその地域に長く住み続けられることのできる“まちづくり”の土台形成までを目指しており、その一助となるよう今後も精進していきたい。

ウ 介護予防啓発事業「三浦市民健康大学オープンキャンパス」の開催について

平成 28 年 10 月 23 日、介護予防啓発事業「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を YMCA 三浦ふれあいの村にて開催した。

(2) 業務実績

ア 入院

(ア) 業務実績

新患者数は 744 件と昨年度よりも増加し、延べ患者数、実施単位数及び 1 件当たりの平均実施単位数は、同程度であった。

作業療法士が中心となり実施した摂食嚥下能力の低下した患者への対応は、昨年度よりも大幅に増加した。

(イ) 実績表

		平成28年度	平成27年度	前年度比
新患数 [件]	理学療法	620	483	1.28
	作業療法	124	157	0.79
	計	744	640	1.16
延べ件数 [件]	理学療法	15,549	15,313	1.02
	作業療法	2,628	3,582	0.73
	計	18,177	18,895	0.96
単位数 [単位]	理学療法	29,108	26,665	1.09
	作業療法	4,982	6,502	0.77
	計	34,090	33,167	1.03
平均単位数 [単位]	理学療法	1.9	1.7	1.08
	作業療法	1.9	1.8	1.04
	計	1.9	1.8	1.07
退院前訪問実施件数 [件数]		78	98	0.80
摂食嚥下対応患者数 [患者数]		163	57	2.86
摂食嚥下延件数 [件数]		1,716	1,132	1.52

イ 外来

(ア) 業務実績

外来の新患数は 286 件、実施延べ患者数は 8,195 件、実施単位数は 9,370 単位であった（前年比 新患数 0.93 倍、延べ患者数 0.94 倍、単位数 0.99 倍）。
また、1 件当たりの単位数は、1.14 単位であった（前年比 0.99 倍）

(イ) 実績表

		平成28年度	平成27年度	前年度比
新患数 [件]	理学療法	184	199	0.92
	作業療法	102	109	0.94
	計	286	308	0.93
延べ件数 [件]	理学療法	5,990	6,330	0.95
	作業療法	2,205	2,343	0.94
	計	8,195	8,673	0.94
単位数 [単位]	理学療法	6,490	6,528	0.99
	作業療法	2,880	2,912	0.99
	計	9,370	9,440	0.99
平均単位数 [単位]	理学療法	1.1	1.0	1.05
	作業療法	1.3	1.2	1.05
	計	1.1	1.1	1.05

ウ 地域包括ケア病床

(ア) 業務実績

平成 28 年 4 月より地域包括ケア病床の病床数が 24 床から 28 床へ増床となり、

月平均のリハ実施患者数、年間の総実施単位数とも昨年度より増加を認めた。

(イ) 実績表

	平成28年度	平成27年度	前年度比
月平均患者数 [人]	49.8	39.6	1.26
総実施単位数 [単位]	18,965	15,718	1.21
平均実施単位数 [単位]	2.17	2.15	1.01

エ ADL 維持体制等向上加算

(ア) 業務実績

平成 28 年 10 月より加算の運用を開始し、月平均の加算取得件数は 633 件、年間の加算総取得件数は 3,795 件であった。

オ 小児を対象とした外来リハビリテーション

(ア) 業務実績

平成 28 年 10 月より小児を対象とした外来リハビリテーションを開始し、実施延べ件数は 10 件、実施単位数は 27 単位であった。

カ 訪問リハビリテーション

(ア) 業務実績

訪問リハビリテーションの実施延べ件数は 1,565 件、実施単位数は 4,626 単位であった（前年比 延べ患者数、単位数、新規件数 1.1 倍 終了件数 1.8 倍）。

(イ) 実績表

	平成28年度	平成27年度	前年度比
件数 [件]	1,565	1,427	1.10
単位数 [単位]	4,626	4,157	1.11
新規件数 [件]	25	22	1.14
終了件数 [件]	22	12	1.83

キ 実習生の受入れ

本年度の実習生は、下記の理学療法士養成校1校より2名を受け入れた。

学校名	テーマ	期間	実習生
横浜リハビリテーション専門学校	臨床実習（4年生）	平成28年4月4日～5月29日	1名
	臨床実習（4年生）	平成28年6月6日～7月30日	1名

ク 研修会・学会等での発表

本年度は、下記の内容を外部にて発表した。

演者	テーマ	学会等	期日
作業療法士 竹内 晃雄	リハビリテーション介入が 転倒状況に及ぼす影響	第50回 日本作業療法学会	平成28年 9月9日-11日

ケ 介護予防啓発事業（三浦市民健康大学オープンキャンパス）の開催

本事業は、地域在住高齢者への介護予防や未病を治す取組などの健康意識の啓発を図ることを目的とし、神奈川県立保健福祉大学、三浦市高齢介護課、三浦市社会福祉協議会、市内外の事業所とともに実行委員会を編成し平成27年度より実施している事業である。本年度は、特別企画として落語の独演会を実施し、その他体操教室・個別相談・福祉用具展示などを、当科スタッフや事務局・管理栄養士が担当した。本事業への参加者数は102名であり、昨年度の68名よりも34名の増加となった。また、市内外より10代未満から90代までの幅広い年齢層の方々に参加していただいた。開催後、報告書を作成し関係各所へ配布するとともに病院ホームページに掲載した。



(3) 放射線科



技師長 久保 隆

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

前年度 3 月に更新した一般撮影系 (FPD システム) の構築を行った。撮影条件・画像処理・オーダーとの 1 対 1 の対応等を行い、撮影時間・被ばく線量減少・人的ミス軽減へと向上した。ただし、IG (インテリジェントグリッド: グリッド無撮影時の画像処理での散乱線除去) 処理については画像処理部分で引き続きの検証が必要。

また、4 月からの放射線技師 1 人増員に伴い、全検査予約枠の見直し (拡大) を行った。当院での診療の特徴を踏まえ、当日飛び込みでの検査希望にも、より柔軟に対応出来るようになった。放射線科全体での検査人数は、感染症による入院数の減少に伴い前年度比 0.99 倍と僅かながら減少した。

(2) 業務実績

ア 一般撮影

(ア) 外来での検査は増加。入院は減少。個々の検査 (胸部・腹部、骨部、MMG 等) 毎での差異はなく、一般撮影総検査人数に応じて一律に減少し、前年度比 0.95 倍。

(イ) 一般撮影実績

(内数)

区分	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
胸部	7,874	829	8,703	8,703
腹部	1,755	742	2,497	2,497
骨部・他	5,259	2,496	7,755	9,426
(体幹)	(2,965)	(2,251)	(5,216)	(6,544)
(四肢)	(2,294)	(245)	(2,539)	(2,882)
(ポータブル)	(366)	(1,475)	(1,841)	(2,370)
乳房	986	0	986	986
合計	15,874	4,067	19,941	21,612

イ X線TV検査

(ア) 血管造影検査は減少。消化器検査は、人間ドック等健診での胃バリウム検査が増加。その他の検査では、外来で行う検査（胃瘻交換・ED-tube 交換等）も入院で行う各種検査（PTCD・ERCP・ED-tube 等）も増加。X線TV検査全体では、前年度比 1.08 倍。

(イ) X線TV検査実績

	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
心 血管	0	7	7	7
消化器	477	70	547	548
泌尿・生殖器	1	0	1	1
その他	92	119	211	211
合計	570	196	766	767

ウ X線CT検査

(ア) 一度の検査で行う部位や、撮影後の各種画像処理出力（MPR・3D 等）が増加。外来での検査は増加するものの、入院の造影検査が減少。CT検査全体では 0.99 倍。

(イ) X線CT検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	1,230	145	1,375	1,438
	躯幹	2,161	451	2,612	2,839
	四肢	74	5	79	83
	小計	3,465	601	4,066	4,360
造影	頭部	0	0	0	0
	躯幹	445	112	557	640
	四肢	0	1	1	1
	小計	445	113	558	641
合計		3,910	714	4,624	5,001

エ MRI 検査

(ア) 造影検査は増加するものの、外来での検査が減少。MRI 検査全体では、前年度比 0.93 倍。

(イ) MRI 検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	832	75	907	907
	躯幹	568	181	749	792
	四肢	107	31	138	139
	小計	1,507	287	1,794	1,838
造影 (単+造含)	頭部	13	2	15	15
	躯幹	18	4	22	22
	四肢	1	0	1	1
	小計	32	6	38	38
合計		1,539	293	1,832	1,876

（４）臨床検査科



技師長 鈴木 正芳

○活動状況

（１）平成 28 年度のトピックス

ア 検体検査

（ア）平成 28 年 7 月から入院時 VRE 検査の実施開始。

イ 生理機能検査

（ア）平成 28 年度も毎週水曜日の週 1 回、脳ドックの患者の MRI 検査を実施する。

＊平成 28 年度実施者数は 368 人（全脳ドック患者の 24%相当を実施）

（２）業務実績

ア 検体検査部門

区分	一般	血液	細菌	生化学	血清	輸血	外注検査	合計
件数	28,273	52,097	4,455	76,445	18,916	1,606	13,594	195,386
点数	899,436	990,102	361,987	6,400,892	1,655,840	62,494	2,518,560	12,889,311

	H26 年度		H27 年度		H28 年度	
	点数	件数	点数	件数	件数	点数
院内検査	11,190,182	207,780	11,065,833	11,190,182	207,780	11,065,833
外注検査	2,669,762	13,604	2,676,385	2,669,762	13,604	2,676,385
合計	13,859,944	221,384	13,742,218	13,859,944	221,384	13,742,218

・過去 2 年と比べて院内検査数は減少した。

イ 生理機能検査部門

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
件数	15,575	16,438	16,228	16,164	16,257
点数	3,875,742	4,297,402	4,190,948	4,181,520	3,964,504

- ・昨年度と比べると若干ではあるが検査数が増加した。

ウ 検査部門総評

- ・臨床検査科総収入は、診療報酬点数の減額や入院数減少等による厳しい状況が続
き、平成 19 年度から続いていた毎年の収益が前年度を上回る状況が途切れ、初の
減少となり、収益は 2 億 219 万円（昨年度－4.7%）となった。
- ・利益率は 55% となり、昨年と比べて 2% 減となった。

＊総収入に占める経費の内訳

- ・試薬代・保守点検代を含めた経費率＝22%（昨年度－2%）
- ・人件費率＝20%（昨年度＋1%）
- ・高齢化率の高い三浦市は、これから人口減に伴う患者数の減少が考えられる。
今後検査数の増加のみを求めていくことは厳しいと思われる中、「三浦ならではの
地域医療の確立」という病院の方針の基、地域のニーズにあった検査の提供を更
に進めていく方針である。また、今年度厳しい人員配置の中で、院内で VRE スク
リーニング検査を実施できたことは、院内感染対策の上でも非常に有意義なこと
と考える。実施に当たって中心となって活動した主任技師を筆頭に、全臨床検査
科職員に敬意を表したい。

（５）地域医療科



科長（H29.3.31 現在） 原 美智子

○活動状況

（１）平成 28 年度のトピックス

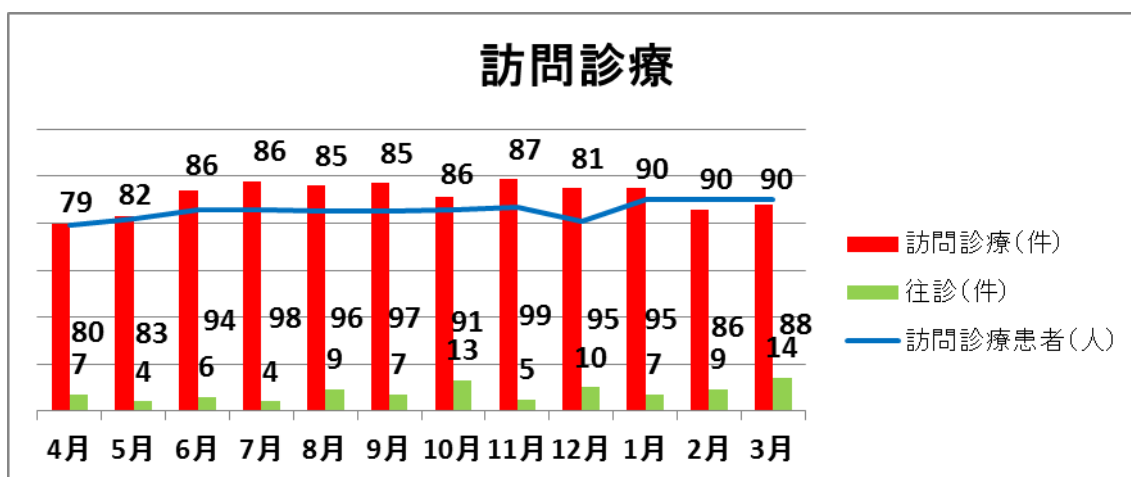
地域包括ケア病床を設置して１年６カ月が経過。高度急性期からの後方支援では在宅及び療養先に戻る際の ADL 回復目的のリハビリ支援、地域の開業医からの後方支援、在宅患者の急性増悪時のバックベット機能及び医療依存度の高い患者のレスパイト入院機能があり、連携・支援・調整を行った。

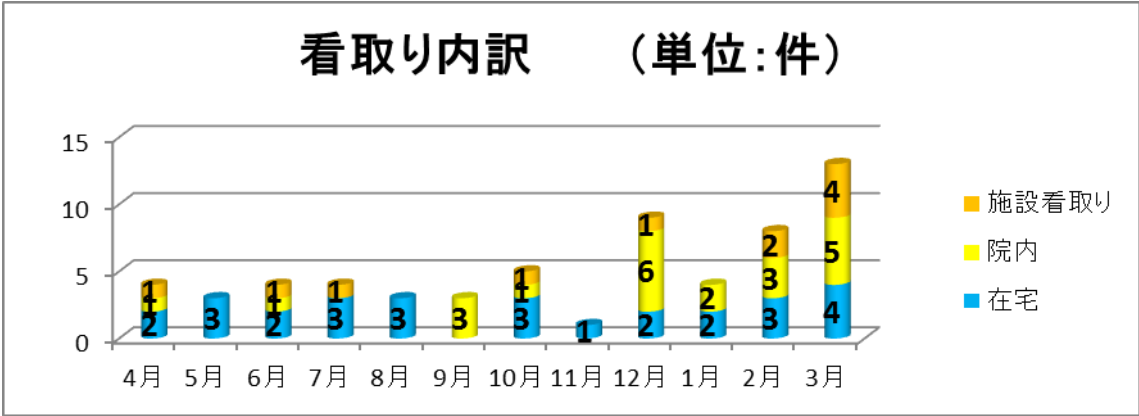
平成 28 年度より退院支援加算 1 を算定。入院 3 日以内の情報収集、7 日以内に病棟看護師とカンファレンス開催するなど、早期より退院支援に着手し、シームレスな地域への移行に取り組んだ。また、病院、在宅、施設間でのトライアングルの関係を構築し、「顔の見える関係」から「こころのわかる関係」に近づけたと感じている。

（２）業務実績

ア 在宅医療

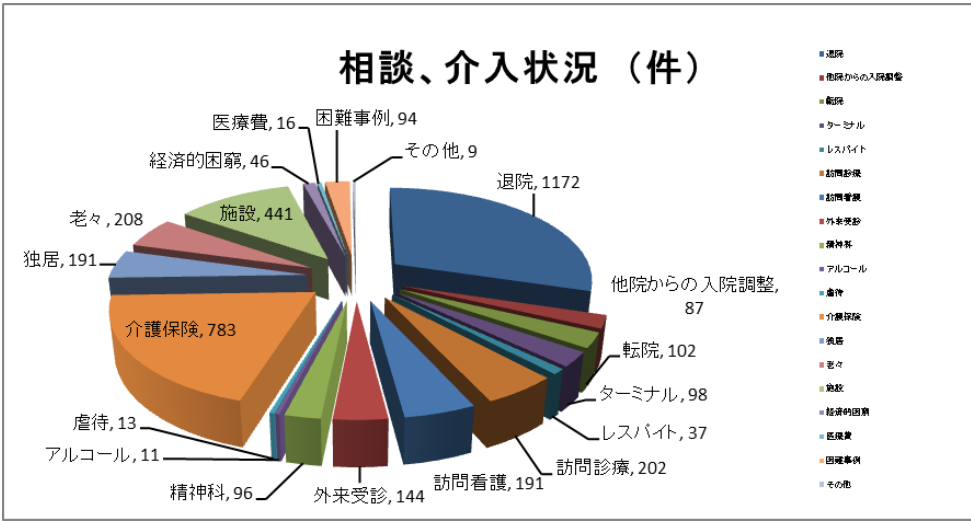
機能強化型在宅療養支援病院として訪問診療を実施した。28 年度の訪問診療件数は 1,041 件、往診 93 件、訪問看護 10 件となっており、訪問診療、往診ともにやや減少しているが、在宅療養を進める上で充実性を求めた結果と考える。また、在宅看取りは 25 件、施設看取り 9 件実施。これからも在宅看取りや、高齢者の病状についての公開講座を実施することで、「看取り」に対しての不安を減少し、在宅・施設看取りに繋げていけるのではないかと感じている。





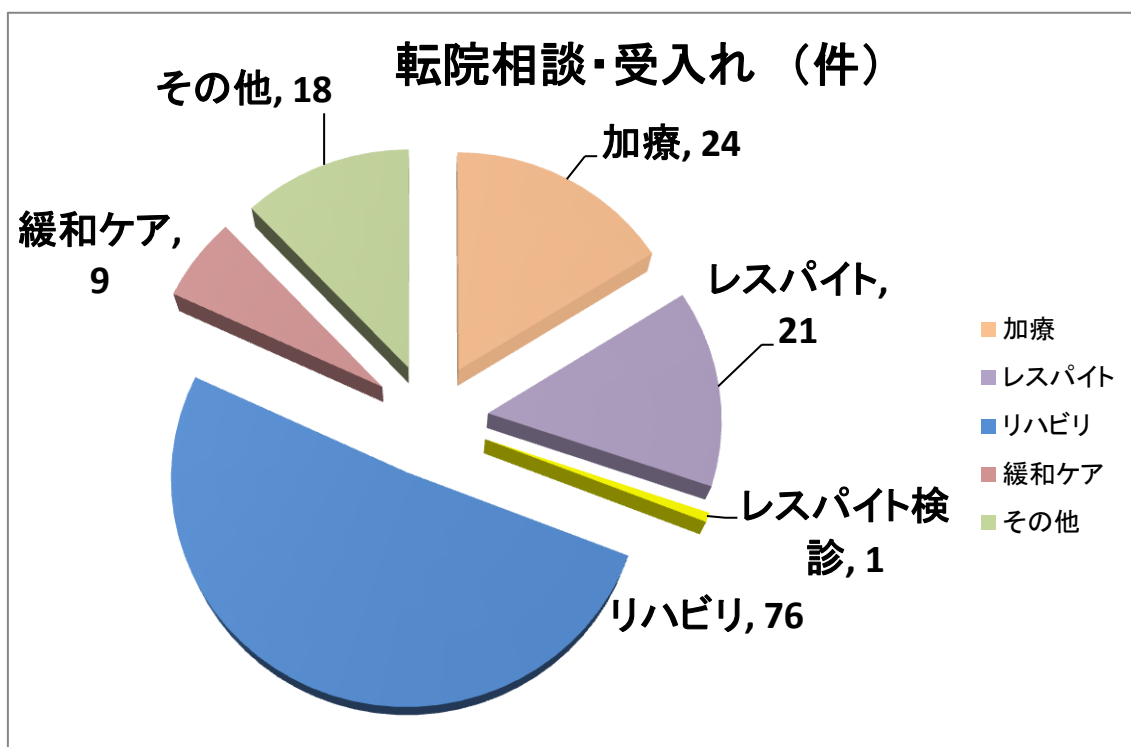
イ 退院支援・調整

入院3日以内に行政やケアマネジャーなど関係者へ連携し、ADL、介護環境、介護保険状況等の情報収集及びスクリーニングを行い早期介入につなげた。独居や老々世帯、医療依存度の高い症例であっても、本人・家族との面談、退院前訪問、ケア会議を経て訪問診療を導入するなど、地域医療へのシームレスな移行に繋げた。



ウ リンパ浮腫外来

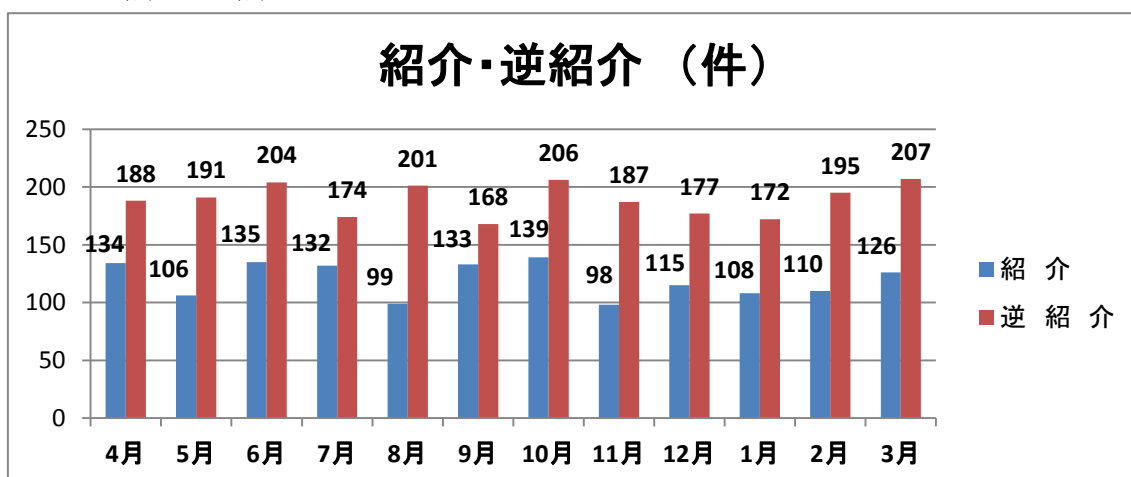
術後二次的に起こるリンパ浮腫は早期からケアを開始する事で重症化を防ぎ、QOLを維持させることができる。また、終末期に於いて発症したリンパ浮腫に関しても、緩和ケアの一環としてケアを導入し、最期まで自分らしく過ごせるお手伝いを担うことができた。ケア導入後、軽度でも症状が改善することで“患者の心を元気に”に導けたと感じている。



オ レスパイト検診

ご家族の介護をされている介護者の健康を守るためのレスパイト検診が前年度と同様1件と少ない。介護者の健康維持のため、広める努力をしていく。「安心して介護に専念できる」レスパイト支援は、地域に定着しつつあり、介護者が自分のリズムを保ちながら介護に当たれるよう受入れ調整を図った。

カ 紹介・逆紹介



(6) 医療安全管理室



室長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

設置から 3 年目を迎えた平成 28 年度は、新たに作業療法士が室員となり、より幅広い視点でリスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業が進められ、平成 27 年度に引き続き実施したリスクマネジメント担当と感染管理担当の院内合同ラウンドのほか、全職員対象の研修の出席率向上のための取組、電子カルテを利用した患者情報の迅速かつ効果的な情報共有等を実施し、医療安全管理室としての取組を発信することができた。

引き続きリスクマネジメントの視点と感染管理の視点を効果的に取り入れた多職種連携を具現化するための組織として、様々な課題に取り組んでいきたい。

(2) 業務実績

ア ミーティングの開催

医療安全管理室ミーティングは、リスクマネジメント担当と感染管理担当のそれぞれの所掌事項についての 1 か月の実績及び今後の予定を報告し、必要な情報共有及び協議を行う場である。医療安全管理室は、院内の感染対策及びリスク管理についてトータル的なマネジメントを行う組織であり、医療安全管理室が所掌する感染対策委員会及びリスクマネジメント委員会において必要な協議調整を行う。

イ ミーティングの概要

(ア) 第 1 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 28 年 4 月 28 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・研修について
- ・接遇向上委員会への提案について
- ・ホームページ更新について

●感染管理担当からの報告

- ・診療報酬上の疑義解釈について
- ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について

- ・インフルエンザの流行状況について
- ・VRE の対応について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・平成 28 年度の目標について
- c 出席人数 10 人

(イ) 第 2 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 5 月 24 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・接遇向上委員会への提案について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・医療安全月報について
 - ・インシデントレポートのデータベースについて
 - ・ADL と転倒調査研究について
 - ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会の報告
 - 感染管理担当からの報告
 - ・VRE の対応について
 - ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
- c 出席人数 10 人

(ウ) 第 3 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 6 月 28 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・アクシデント事例について
 - ・レベル分類及び要因分類の見直しについて
 - ・転倒転落に関する調査研究について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・VRE 検査結果について
 - ・VRE の対応について

- ・感染対策講習会について
 - ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - ・VRE 説明会について
- c 出席人数 9 人

(エ) 第 4 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 7 月 26 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ランドについて
 - ・接遇向上委員会への提案について
 - ・研修について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・VRE の対応について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・6 月のインシデント等について
 - ・転倒予防策の実施について
- c 出席人数 8 人

(オ) 第 5 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 8 月 23 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・接遇向上委員会への提案について
 - ・ホームページの更新について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・研修について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・在宅医療 ICT システムについて
 - ・転倒予防策の実施について
 - ・日本作業療法士学会での発表について
 - ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・VRE の対応について

- ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
- c 出席人数 8 人

(カ) 第 6 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 9 月 27 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・接遇向上委員会への提案について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・研修について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - ・医療監視について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・マニュアルの一部改正について
 - ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
 - ・大口総合病院の事件に伴う対応について
 - ・転倒調査及び予防策について
- c 出席人数 9 人

(キ) 第 7 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成 28 年 10 月 25 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・接遇向上委員会への提案について
 - ・研修について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・診療支援部・事務局における病室業務時の注意事項について
 - ・苦情対応について
 - ・転倒予防策について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・針刺し切創について
- c 出席人数 9 人

(ク) 第8回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成28年11月22日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・接遇向上委員会への提案について
- ・研修について
- ・合同ラウンドについて

●感染管理担当からの報告

- ・針刺し切創の続報について
- ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・苦情対応に関する続報について
- ・無断離院の発生について
- ・インシデント事例分類について
- ・転倒調査報告書について
- ・転倒予防策について
- ・苦情対応報告について

c 出席人数 7人

(ケ) 第9回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成28年12月27日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・研修について
- ・合同ラウンドについて
- ・年報について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・造影MRI説明書・同意書及びMRI予約・問診票について
- ・苦情対応について
- ・無断離院について

●感染管理担当からの報告

- ・患者の感染症情報の電子カルテ上での運用について
- ・医療機器等の予算要求について

c 出席人数 8人

(コ) 第 10 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 29 年 1 月 24 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・研修について
- ・年報について
- ・患者の感染症情報の電子カルテ上での運用について

●感染管理担当からの報告

- ・院内のインフルエンザの状況について
- ・医療機器等の予算要求について
- ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・CT 検査時における被爆に関する苦情について
- ・インシデント件数等の公表について
- ・転倒予防策について

c 出席人数 7 人

(サ) 第 11 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 29 年 2 月 28 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・研修について
- ・患者の感染症情報の電子カルテ上での運用について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・医療事故等の公表基準について
- ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
- ・医療安全研修の実施について
- ・転倒予防策について

●感染管理担当からの報告

- ・院内のインフルエンザの状況について
- ・VRE の対応について
- ・新型インフルエンザ等整備費補助事業について

c 出席人数 8人

(シ) 第12回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成29年3月28日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・研修について
- ・患者の感染症情報の電子カルテ上での運用について

●感染管理担当からの報告

- ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について
- ・VREの沈静化について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・L字柵の購入について
- ・平成28年度のインシデント・アクシデントについて

c 出席人数 7人

ウ リスクマネジメント業務

(ア) 医療安全講習会院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月18日	新人看護師	医療安全について	6名
11月11日 11月28日	全職員	平成28年度第1回医療安全講習会 「転倒転落と薬について」	計153名
12月15日 1月19日	教育ラダーⅢ	リスクマネジメントについて、インシデント分析・対策立案	計10名
2月17日 2月24日	看護助手	医療安全とは「事例を通じて考える」	計14名
3月22日 3月24日	全職員	平成28年度第2回医療安全電講習会 「認知症とインシデント事例について、 当院におけるインシデント数」	計164名

(イ) インフォメーション

医療安全の観点から週4日午前中にインフォメーションを担当し、併せて、医療相談やご意見（賞詞含む。）の窓口となり、病院利用者の生の声を聞いて各部署と連絡調整を図り、適切な業務執行に寄与した。

(ウ) 医療安全ラウンド

週4日院内各所のラウンドを実施し、リスク回避等の助言を行った。

(エ) レポートについて

リスクマネジメント委員会、リスクマネジメント看護部会等を通じ、レポート作成の重要性を周知するとともに、各部署から提出されたレポートのチェックを行い、分析、対策及び再発防止についての指導及び助言を行い、再発防止対策の評価、修正を行った。

また、12月からはインシデント事例分類を新たに制定し運用を開始した。

(オ) 神奈川県七市公立病院医療安全管理者交流会の参加

平成26年4月から転倒転落に関する調査研究を行ってきたが、平成28年度は転倒予防を目的とした取組を開始した。内容は、次のとおりである。

- ・4階の地域包括ケア病床において転倒予防策を実施

＊主な予防策（多職種間で協力の下）

「リスクの把握」・「情報の共有」・「環境面の改善」

エ 感染管理業務

(ア) 感染対策講習会 院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月6日 12日 15日 20日 21日 25日 26日	新人看護師	標準予防策 感染経路別予防策・PPE着脱 真空管採血・安全機能付留置針 針刺し切創血液曝露について① 針刺し切創血液曝露について② 流行性ウイルス性疾患等対策 バルンの基礎知識・実技演習	各5名
5月13日 16日	看護部・清掃委託職員	VRE勉強会・ルビスタ使用説明	計36名
5月19日 20日	看護助手	正しい感染対策の知識を身につける	計15名
6月8日	ラダー感染コースⅡ	感染症法について	3名
7月12日 15日	病院全職員	慢性期医療における感染予防大作戦（ライブ研修）	計86名

日時	対象者	テーマ	参加人数
7月19日 20日 21日	病院全体研修	VRE 説明会	計 153 名
7月28日	ラダー感染コースⅢ	抗菌薬 基礎編	3 名
9月13日	ラダー感染コースⅢ	新興・再興感染症	2 名
10月13日 14日	看護助手	インフルエンザの予防と対策	計 14 名
10月27日	ラダー感染コースⅢ	抗菌薬について	3 名
10月31日	ラダー感染コースⅡ	ノロウイルス対策	6 名
11月8日 9日 11日 18日 30日	看護部	セーフティーSV セット説明会	計 34 名
11月29日	ラダー感染コースⅢ	抗菌薬について 2	3 名
1月30日 31日 2月1日	病院全職員	感染対策ここだけは押さえない 【ノロ&Ful】（ライブ研修）	計 168 名

（イ）感染対策公開講座

日時	テーマ	院外参加人数	院内参加人数	参加人数合計
10月7日	ワクチン接種について	7 名	8 名	15 名
12月2日	耐性菌と抗菌薬について	14 名	1 名	15 名
2月3日	肝炎と結核について	7 名	4 名	11 名

（ウ）感染対策 健康宅配便

日時	テーマ	対象者	参加人数
6月8日	VRE 感染に伴う標準的予防策・VRE を知る	啓生会職員	72 名
6月16日	食中毒の発生予防とまん延防止	ルナランド職員	10 名

日時	テーマ	対象者	参加人数
6月28日	食中毒の発生予防とまん延防止	ルナランド職員	11名
7月13日	VRE 感染症についての勉強会	介護老人保健施設なぎさ職員	8名
7月29日	VRE 感染に伴う標準的予防策・VREを知る	南湘南地区福祉施設連絡会関係者	34名
12月7日	VRE について	豊夢三浦海岸	9名
12月8日	VRE 感染症についての勉強会	油壺マリーナヒルズ職員	27名
12月21日	VRE 感染症について	ソノラス・コート油壺職員	27名

(エ) コンサルテーション

依頼部署/施設	件数
2階病棟	1
3階病棟	1
手術室	1
内科医師	2
地域医療科	2
リハビリテーション科	1
診療材料検討委員会	1
院外（大和市立病院）	3
院外（平塚市民病院）	2
院外（小田原市立病院）	2
院外（茅ヶ崎市立病院）	1
院外（厚木市立病院）	1
院外（藤沢市民病院）	1
院外（油壺マリーナヒルズ）	1
計	20

(オ) 感染症患者報告（入院）

感染症名	報告数
インフルエンザ A	37
インフルエンザ B	1
結核（疑い例）	8
結核（確定例）	1
感染性胃腸炎 （原因不明の下痢症含む）	6
VRE（保菌）	3
VRE 尿症	1
アメーバ赤痢の疑い	1
結核の同室者 （他院からの情報）	3
計	61

(カ) 感染症患者報告（訪問診療/外来）

感染症名	報告数
病原性大腸菌 0121 トキシン（+）	1
結核の疑い	1
ノロウイルス陽性	1
計	3

(キ) 感染症職員報告

感染症名	報告数
インフルエンザ A	7
溶連菌感染症	3
感染性胃腸炎	3
マイコプラズマ肺炎	1
計	14

(ク) リスク・感染合同ラウンド

リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業として、院内合同ラウンドを行った。内容は、ラウンドチェック表に基づく環境ラウンドを中心として、年4回の間隔で実施した。ラウンド実施部署は、病棟及び外来以外の部署

においても実施できるよう調整した。

(ケ) 院内研修の措置

リスクマネジメント担当・感染管理担当でそれぞれ年2回以上の院内研修を実施しており、参加率を向上させるための取組として、参加できない職員の措置をそれぞれ実施し、80%以上の参加率を確保することへつなげた。

3 看護部

(1) 看護部



看護部長 嘉山 静子

○活動状況

看護部総勢 128 名、看護職員 99 名（常勤看護師 82 名）でスタート。昨年度よりほぼ変わらない人員での始まりであったが、産休・育休者がさらに増え各部署への配置数は少ない状況で、働く環境は決して改善された状況とはならなかった。いきいきと働ける環境を整えるために、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、早期復帰できる体制を整えることが重要である。

感染管理の問題から、一時病棟編成もあり人事異動も余儀なくされたが、感染管理に関しては課題を多く確認でき、改善に導いた項目も多くピンチをチャンスに変える機会となった。多くのことを学び、多くのことを取得できた経験から今後は感染管理に対しては強みとしていきたい。

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 「三浦ならではの」地域包括ケアシステムの構築

(ア) 重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・生活支援が包括的に確保される体制を構築していくために、連携の強化と顔の見える関係の継続を行った。

(イ) 地域包括ケア病床を 24 床から 28 床に増床し、退院調整の強化を行いながら望む場所へ退院できる支援を行った。

イ 病院相互連携研修

研修を通して、地域における看護の現状・人材育成・地域包括ケアに関する課題について理解し、担当領域での活用に資することを目的に実施。

(ア) 職員交流研修受入れ

奈良県立病院機構奈良県西和医療センター、看護師長 1 名

期 間：平成 28 年 7 月 19 日から 7 月 29 日までの 9 日間

(イ) 職員交流派遣研修

派遣場所：奈良県立病院機構奈良県西和医療センター 看護師長 1 名

期 間：平成 28 年 10 月 30 日から 11 月 11 日までの 9 日間

(2) 看護職員状況

ア 看護職人員確保（平成 28 年度）

（単位：人）

	看護師 常勤	看護師 非常勤	准看護師	看護助手 非常勤	合計
採用	8	3	1	0	12
退職	6	3	0	3	12

イ 職別構成（平成 28 年 4 月 1 日現在）

（単位：人）

区分	看護 部長	主幹	看護 師長	主任 看護師	看護師	准看護師	看護 助手	産休 育休	合計
職員	1	2	6	11	57	0	0	5	82
非常勤	0	0	0	0	11	6	29	0	46
計	1	2	6	11	68	6	29	5	128

ウ 年齢別構成（平成 28 年 4 月 1 日現在）常勤

（単位：人）

区分	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55 歳以上	平均年齢
看護師	9	9	5	11	20	11	9	8	40.1

(3) 看護部の目標と評価

ア 医療安全・接遇・倫理観

(ア) 安全・安楽な療養環境を整え、患者中心の看護の提供

昨年より継続し分析データをもとに転倒の多い時間・時期・病状期に対しての対策を実施。転倒リスクの件数は大きな減少は見られなかったが、職員の意識や危険予知対策は強化できた。

(イ) 人権を尊重し、心地よい対応を提供する

「やさしさと思いやり、あたたかい看護」の提供を心がけ、賞詞も多くいただけるようになった。謙虚なところで接し安心できる環境を提供し、市民に必要とされいつまでも愛される病院として継続できるようにしたい。

イ 経営参画

(ア) 受入れ態勢の強化に努め予算目標達成に最善を尽くす

(イ) 多職種・多施設との連携を行い、地域とともに支え合う体制を整える

機能分化の強化を図り受入れ態勢を整えていたが、一時病棟編成を行い運営したことで予算目標に届かない状況となってしまった。今後はどんな状況でも予算目標

に近づけるための対策、今自分たちは何が出来るかを常に考えながら実践していきたい。

ウ 人財育成・教育

(ア) 誰でも、どこでも出来る看護師を育成し、リリーフ体制の構築を図る

(イ) 「個」の力が最大限に発揮出来るよう教育体制を整え、成長を承認していく

リリーフ体制は確立でき、受入れ態勢の強化やケアの充実に繋げることができた。看護教育においては、クリニカルラダーが順調に進み、スタッフ「個々」が意欲的にレベル取得に向かう姿勢が多くみられるようになった。成長を承認しつつ次のステップに進めるようにし、「看護の質の」向上に繋げたい。

(2) 2階病棟



看護師長 山本 浩文

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

特色

H28 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 16 名
非常勤看護師 3 名 非常勤看護助手 5 名
H29 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 14 名
非常勤看護師 1 名 非常勤看護助手 5 名

外科系急性期病棟 42 床 (HCU 2 床)

入院対象は主に外科・整形外科の急性期・眼科手術目的(白内障)

外科系疾患は主に胃癌・胆道系疾患・ヘルニア・乳癌・イレウス・化学療法目的・大腸癌・外傷・急性腹症など 897 名であった。

今年度、大腸内視鏡検査入院は、約 245 名、日帰り化学療法は、242 名であった。

整形外科入院 240 名中、大腿骨頸部骨折・胸腰椎圧迫骨折が、殆どであった。

眼科入院 289 名は、全て白内障手術目的であった。

内科 54 名の入院があった。

(2) 業務実績

H28 年度総入院数は、1,497 名(月平均患者数は 131 名)で、うち、外科 805 名(53.77%)、整形外科 240 名(16.03%)、眼科 289 名(19.31%)、内科 163 名(10.89%)であった。

1,497 名中、100 歳以上 3 名(0.2%)、90 歳以上 93 名(6.21%)、80 歳以上 461 名(30.79%)、70 歳以上 498 名(33.27%)、60 歳以上 307 名(20.51%)であった。

昨年同様 60 歳以上が、1,362 名(90.98%)と大幅に占めており、昨年より 2%上昇みられている

また、今年度は「VRE」の蔓延にて、当病棟にてすべての緊急入院を担っていたため(8月・9月の2か月間)内科の入院数の増加、大腸内視鏡・眼科手術の減少がみられている。

(単位：人)

区分	10歳 以上 20歳 未満	20歳 以上 30歳 未満	30歳 以上 40歳 未満	40歳 以上 50歳 未満	50歳 以上 60歳 未満	60歳 以上 70歳 未満	70歳 以上 80歳 未満	80歳 以上 90歳 未満	90歳 以上 100歳 未満	100歳 以上	計
内科	1	3	4	2	9	24	35	67	17	1	163
外科	2	10	6	26	38	204	297	195	27	0	805
整形外科	0	1	6	3	14	17	47	105	45	2	240
眼科	0	0	0	2	8	62	119	94	4	0	289
計	3	14	16	33	69	307	498	461	93	3	1,497

(3) 病棟目標評価

ア 安全・安楽な統一した看護・ケアを提供する。

- ① 毎朝のチームカンファレンス・ワークシートを有効活用・1回/週の定期カンファレンスを行い、患者情報を共有できる。
- ② 各セクションからの応援体制がスムーズに行えるよう、マニュアル・指導内容の統一を図る。

<評価>

- ① メモを使用せずに、ワークシートを活用することができてきた。カンファレンスも定期的開催でき、病棟全体で情報共有することができた。
- ② 病棟の業務、大腸内視鏡入院等のマニュアル見直し、修正を行い統一化を図った。

イ 個々の責務を果たし、病棟運営に参画する。

- ① 各病棟内係における目標を達成する。
- ② 受入れ態勢、ベットコントロールを確実にし、急性期病棟として緊急入院の受入れ100%を達成する。

<評価>

- ① 病棟内係は定期的に活動し、目標を達成できた。
- ② ベットコントロールを行い、緊急入院の受入れは、満床を除いては100%受け入れることができた。

ウ 急性期看護師としてのキャリアアップを行う。

- ① 分散教育(外科・整形領域看護)を1回／月以上を行う。急性期看護における知識・技術の共有・向上に努める。
- ② 積極的に院内及び院外研修に参加し（2回/年以上）知り得た知識を共有していく。

<評価>

- ①分散教育は定期的に行い、知識・技術の向上に努めた(主に化学療法)。
- ②院外研修の参加率は100%達成でき、今後も知識・技術の共有を図っていく。

(3) 3階病棟



看護師長（H29.3.31 現在） 市川 夏実

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

特色

内科系急性期病棟として常に入院を受け入れ、治療・ケアを提供し、病状や症状が落ち着き ADL の拡大や退院支援・調整が必要になった場合は、慢性期病棟（地域包括病床）へ移行できる院内での機能分化が定着している。

今年度はバンコマイシン耐性腸球菌の感染が蔓延し、一時病棟編成や感染担当専従看護師体制を導入し、感染対策の徹底を図った。感染管理認定看護師と共に感染対策に努め、感染の沈静化にこぎつけることができた。

職員構成は看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 18 名 非常勤看護助手 7 名

病床数 : 47 床 (HCU 2 床 個室 6 床 特室 1 床 4 人部屋 40 床)

入院対象 : 急性期内科 (24 時間救急患者入院対応)
ベットコントロールにて外科・整形患者の受入れも実施

看護方式 : 固定チームナーシング : A・B 2 チーム制、継続受け持ち看護方式
を取り入れ、準夜・深夜ともに看護師 3 名体制で質の高い看護を提供

(2) 業務実績

ア 入院患者の状況

区分	H28	
	入院患者数(人)	構成比(%)
内科	780	84.97%
外科	85	9.26%
整形	13	1.41%
眼科	40	4.36%
合計	918	100.0%

イ 入院患者の年齢別状況

(単位：人)

区分	9歳 以下	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 以上	合計
内科	0	4	9	6	12	30	76	185	318	131	9	780
外科	0	0	0	2	3	2	21	28	25	4	0	85
整形	0	0	0	0	0	2	2	3	5	1	0	13
眼科	0	0	0	1	0	0	7	12	20	1	0	41
合計	0	4	9	9	15	34	106	228	368	137	9	919

(ア) 主な疾患

肺炎・脳梗塞・心不全・糖尿病・尿路感染症・脱水・腎盂腎炎・肝機能障害・
肺癌・急性扁桃炎・肝癌・イレウス・胆石・胆のう炎

(イ) 対象手術

永久ペースメーカー挿入術・MR I ポート挿入術・胃瘻造設術・大腸ポリー
プ切除術

ウ 平成 28 年度 3 階病棟看護目標

患者・家族が安心できる入院生活の提供とやりがいを持ち働きやすい職場環境を
目指す。

(ア) 安全・安楽な療養生活の提供を行う。

- a 毎日の昼カンファレンスを徹底し、看護計画に沿った個別性の看護を立案し、
個別性の看護を提供する。
- b 優しく丁寧な言葉使いで接する
受持ち性看護の導入をし、各自が責任を持って取り組むことができた。接遇
委員を中心に「優しい言葉使い」「身だしなみチェック」を日々実施し看護業務
で実践した。

(イ) 常に入院対応できる体制作りを行う。

- a 急性期内科病棟の特性と役割を理解し、お互いに協力し合える関係性作りに
各自努力し、入院の受入率 100%を目指す。
- b 多職種と合同カンファレンスを行うなど積極的な連携を図れるように計画調
整する。

- ・ 日々のベッドコントロールを活かし急性期病棟として入院受け入れは、ほぼ100%に近づけた。リハビリテーション科との合同カンファレンスは毎週1回の関係が定着し、お互い情報交換ができ同じ方向に向かって退院支援へつなげる事ができた。

(ウ) キャリアアップを目指す。

- a 院内・院外研修の積極的な参加として、院外研修は1回/年以上、院内研修は5回/年以上の参加を目指す。
- b 個々の得意分野を共通理解できるよう病棟内で分散教育研修会を実施する。
- ・ キャリアラダーの年間教育計画に沿い目標を設定し取り組み、個々のキャリアアップに努めた。教育担当の協力で院外研修・院内研修・長期研修に積極的に参加できた。

(4) 4階病棟



看護師長(H29.3.31 現在) 鈴木 三恵子

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

特色

平成 28 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 14 名
看護助手 9 名 (うち看護学生 2 名)

平成 29 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 13 名
看護助手 9 名 (うち看護学生 2 名)

慢性期病棟 47 床 (うち地域包括ケア病床 28 床) 平成 28 年 4 月から 4 床増床

4 階病棟では、院内外からの急性期治療が終了した患者の受入れと、地域包括ケア病床への患者の受入れ及びレスパイトを目的とした患者の受入れを行っている。

(2) 統計

平成 28 年度総入院患者数は 600 名で、うち内科は 292 名 (49%)、外科は 86 名 (14%)、整形外科は 222 名 (37%) であった。入院患者は 70 歳以上が 80%以上を占め、地域包括ケア病床の占床率は 89.0%であった。在宅復帰率は 84.1%であり、その内訳は、自宅が 65.8%、施設 (居住形態) が 18.3%であった。

3 月末日現在数 (単位: 人)

区分	20 ~29 歳	30 ~39 歳	40 ~49 歳	50 ~59 歳	60 ~69 歳	70 ~79 歳	80 歳 ~89 歳	90 歳 以上	合計
内科	0	0	0	11	35	78	115	53	292
外科	0	1	2	9	11	33	25	5	86
整形外科	0	1	4	12	19	46	89	51	222

(3) 病棟看護目標

患者・家族が日常生活の場に安心して戻れるよう支援します
「安心できる暮らしへ」

ア 患者・家族の思いを大切にする

(評価)

日々、接遇に留意し患者対応を心がけた。患者や家族から感謝の言葉やお礼の手紙をいただくこともあったが、看護師の言葉や態度についての苦情もあり、その都度、内容を振り返り、患者や家族の立場に立った行動ができる組織作りに取り組んだ。

イ 安全で安心できる療養環境を提供する

(評価)

インシデント報告件数は、53 件であった。そのうちレベル 3b は 2 件であった。項目別では、薬剤に関するインシデント件数は全体の 15%で、前年度より減少したが、転倒、転落に関連したインシデント件数は全体の 40%で、前年度と同様であった。転倒、転落については、病棟全体で患者情報の共有が上手くできていない場面もあったので、今後、対策を強化していく必要がある。

ウ 看護の立場で病院経営に貢献する

(評価)

平均占床率は、85%であった。予定入院以外にも検査入院、社会的入院、安静目的の入院の受入れをして自部署の役割を果たすことができた。地域包括ケア病床の平均占床率は、89%で目標値を達成することができなかったが、前年度と比較すると 7.4%増加した。

エ 看護の質の向上を図ることができる

(評価)

院内キャリアラダーには、9 名が参加し、ほぼ全員が目標とするレベルを取得することができた。それぞれがキャリアアップを目指して計画的に取り組むことができた。今後も一人ひとりの強みを見出して、やる気を引き出すキャリア支援を行っていきたい。

4 階病棟では、平成 28 年 4 月から地域包括ケア病床を 24 床から 28 床に増床し、その運用を開始した。患者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるように、多職種と協働しながら患者の在宅復帰を支援している。家庭環境の多様化により複雑な問題が絡むケースなど退院困難事例は少なくない。

高齢化率が高い三浦市では、退院支援の重要性がさらに高まってくることが考えられ、その役割を担う病棟看護師の役割はますます重要になる。患者、家族とそれまでの暮らしや、患者が望む退院後の生活などの情報を共有し、退院後も安心して療養生活が送れるように患者を支えるための取組を続けて行きたい。

(5) 手術室



看護師長 (H29.3.31 現在) 下地 福子

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 患者・家族が安心して手術に臨めるような体制

(ア) 患者・家族・職員に笑顔であいさつをする。

(イ) 他部門との情報共有

a 術前訪問 100%維持と術前チェックリストでの再確認

b 術後チェックリストに沿った術後訪問の検討と実行で、情報共有により患者中心の看護が提供できる。

評価:緊急手術以外入院患者に対し 100%の術前訪問ができた。また、術前訪問時、手術の流れ説明に対し“事前の説明で安心して手術に臨めた”とお褒めの言葉が目安箱内に多々あった。来年度も更なる接遇向上に努める。

また、術前訪問の時間で術後患者へ挨拶・声掛けを時間の範囲で行っている。患者の思いや言葉がきけ、周術期の看護の振り返りと訪問により他患者へも還元できた。

(ウ) 手術が安全に遂行するよう点検・整備

a 始業前・始業後チェックリストでダブルチェックをする。

b 機材異常時、速やかに報告・対応する。

イ スタッフが安全・円滑に働ける職場環境を整える

(ア) 手術が円滑に流れるようお互いが声を掛け合い、ミーティング時情報共有で、各人の動きがわかるようにする。

(イ) コスト意識を持ち、材料費削減・材料の予備を最小限にとどめ無駄のない業務をする。

(ウ) 各人は年 1 回以上の研修に行き中材・手術室のキャリアアップをする。

評価:時間の有効活用、事前のイメージトレーニングと、声の掛け合いにより

安全な手術展開となった。件数調整・時間・人数調整をし、研修参加ができる様努力する。

(2) 業務実績

ア 手術室・中央材料室

(ア) 業務実績

平成 28 年度の手術件数は 551 件で、内訳は外科 136 件、整形外科 92 件、眼科 343 件、内科 0 件で前年度より 97 件減であった。

今年度は、麻酔器及びベッドサイドモニターを更新した。

中央材料室では院内で使用する医療機器の洗浄から滅菌まで一括業務を行っている。また、単包化により滅菌有効期限の延長が向上した。

職員構成は、看護師長 1 名、看護師 3 名、看護助手 1 名の 5 名体制である。

日々医療機器・備品点検を行い安全に手術が行えるよう、また緊急手術にも備えている。術前訪問を実施し、患者の不安軽減に努めている。術前訪問は 100% 実施できている。

(イ) 手術件数状況

a 科別

(単位：件)

区分	外科	整形外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
手術	136	92	323	0	0	0	551
緊急手術	14	0	1	0	0	0	15

b 年齢別

(単位：件)

区分	0~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計
外科	0	2	4	8	7	31	49	35	136
整形外科	1	2	1	3	7	17	9	52	92
眼科	0	0	1	2	6	69	130	115	323
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	4	6	13	20	117	188	202	551

(6) 外来



看護師長 (H29.3.31 現在) 中條 郁代

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 診療科：内科（循環器科 呼吸器科 糖尿病） 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 小児科 神経内科 脳神経外科 泌尿器科 皮膚科
内視鏡 フットケア外来 リンパ浮腫外来

イ 救急外来：24 時間体制（地域医療科・手術室・病棟師長の応援体制あり）

ウ 人員： 看護師長 1 名（看護部主幹兼務）
主任看護師 3 名
看護師 7 名
非常勤看護師 7 名
非常勤准看護師 6 名
非常勤看護助手 8 名 （合計 32 名）

(2) 業務実績

ア 患者数 81,360 人／年
平均患者数 334 人／日

イ 健診業務：ドック 905 件
国保・なごみ・特定・一般健診 669 件
市職・船員・その他事業所等の健診 1,078 件
集団健診 903 件
土曜日健診（毎月第 2 土曜日）癌検診と国保等健診を行う。

ウ 予防注射：インフルエンザ（院内）950 件
インフルエンザ（出張）129 件
破傷風・HB ワクチン 158 件
肺炎球菌ワクチン 234 件

エ 平成 28 年度科別患者数

(単位：人)

区分	内科	神経 内科	外科	整形 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	脳神経 外科	泌尿 器科	皮膚科
4 月	2,555	166	670	1,481	112	169	541	200	157	184	263
5 月	2,603	154	630	1,547	148	190	507	258	133	196	238
6 月	2,503	206	730	1,617	184	243	593	301	151	191	267
7 月	2,592	157	645	1,656	124	280	483	240	147	204	294
8 月	2,667	169	752	1,637	145	245	514	255	136	212	291
9 月	2,683	152	802	1,576	121	216	403	263	146	221	200
10 月	2,590	165	669	1,563	186	277	538	326	132	263	236
11 月	2,726	151	748	1,508	157	288	505	276	138	219	229
12 月	2,627	167	709	1,488	166	258	508	262	130	256	198
1 月	2,657	159	693	1,494	140	249	400	255	144	230	232
2 月	2,509	139	703	1,412	167	230	441	278	131	196	177
3 月	2,661	161	658	1,653	151	232	459	348	157	264	205
計	31,373	1,946	8,409	18,632	1,801	2,877	5,892	3,262	1,702	2,636	2,830

オ フットケア外来

第 1 木曜日、第 2 第 4 火曜日の 3 日／月

H28 年度は 191 件であった。

カ 内視鏡

上部内視鏡 : 1,865 件／年

下部内視鏡 : 835 件／年

その他 (ERCP・ステント留置等) : 24 件／年

(3) 外来目標及び評価

『患者様に満足していただける外来にします』

ア 挨拶は、職員間でもしっかりしよう。

「日常生活における挨拶をします。」

日々の仕事の基本となる事、お互いに声掛けが出来ているか、今後も継続して行く。

イ 他職種の専門性をお互いに尊重しよう。

「お互いの役割を理解、協力、コミュニケーションエラーを防ぎ患者さんに満足いく医療を提供します。」

患者さんを中心に各役割を果たし、協力し、エラーが起きないコミュニケーションに心がけ継続して行く。

ウ チーム医療を充実させ、患者さんに満足のゆく医療を提供しよう。

「他職種・他施設との連携を強化し患者さんに満足ゆく看護を提供します。」

施設職員などの電話連絡時、相手の状況を考え応対を行い、情報の共有が統一して行う事ができるよう、継続して行く。

(7) 看護教育室



看護師長（H29.3.31 現在） 舘林 美加子

○活動内容

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 公開講座 6 コース

- (ア) 感染管理講座
- (イ) 薬剤講座
- (ウ) リハビリテーション講座
- (エ) 救急処置講座
- (オ) 尿路感染講座
- (カ) 地域連携講座
- (キ) トピックス（口腔ケア）

イ キャリアラダー選択コース 導入（リンパ浮腫コース がん看護）

(2) 業務実績

ア 院内研修

(ア) 新採用職員研修及び新人看護師研修

	月 日	内容	受講者
新採用者研修	28 年 4 月 1 日	・オリエンテーション ・辞令交付式・職務義務 ・看護部の概念・体制・組織について・職員紹介 ・新人の心構え・服装について ・総病院長講話 ・人事諸制度①（給料・服務・福利厚生）	新採用 7 名
	4 日	・情報セキュリティー ・市長講和 ・災害について 災害通路確認 ・免震構造について	新採用 5 名
	5 日	・防災について ・地域財政制度と本市の財政状況の地理と歴史 ・市の施設見学	

新採用者研修	月 日	内 容	受講者
	28 年 4 月 6 日	・感染講義① ・点滴の技術 ・地域財政制度と本市の財政状況	新採用 5 名
	7 日	・ローテーション研修①	
	8 日	・接遇（マナーと実技） ・市の歴史等について	
	11 日	・ローテーション研修②	
	12 日	・感染管理②感染経路予防策 個人防護具 ・ローテーション研修③ ・口腔ケアについて	
	13 日	・電子カルテの基礎 ・薬剤管理 ・業務の決まりごと	
	14 日	・清潔操作の基本的知識から実践まで ・復命書 出張伝票の記載について ・バイタルサインの意義とアセスメントの実践 ・看取りについて	
	15 日	・点滴 注射の概念 ・注射実技① ・感染管理③	
	18 日	・固定チームナーシング ・医療安全について ・接遇について （当院の接遇マニュアルについて）	
	19 日	・ローテーション研修④	
	20 日	・感染管理④ ・倫理綱領 ・救急蘇生法 ・コミュニケーションスキル	
	21 日	・フィジカルアセスメント ・看護必要度について ・シリンジ 輸液ポンプについて	
	22 日	・ローテーション研修⑤	
	25 日	・記録について キャリアラダーについて ・電子カルテについて	

新採用者研修	月 日	内 容	受講者
	4 月 26 日	・ バルン管理について ・ モニター管理について	新採用 5 名
	5 月 12 日	・ 看護フェスティバル	
	6 月 17 日	・ 3 ヶ月フォローアップ研修 現在の思いについて 夜間のリーダー業務 急変の看護 3 ヶ月振り返り	
	9 月 12 日	・ 6 ヶ月フォローアップ研修 ナラティブ① 看護過程の概念	
	12 月 14 日	・ 9 ヶ月フォローアップ研修 呼吸器の基礎知識 看護過程の展開 多重課題	
	29 年 3 月 2 日	・ 12 ヶ月フォローアップ 2 年目に向けての課題 日々のリーダーの役割 ナラティブ②	
	3 月 27 日	・ 1 年の振り返り 発表	

(イ) キャリアラダー

レベル	研修講座名	内 容	受講者
I－II	28 年 6 月 16 日	ケースレポート導入講義	7 名
	28 年 9 月 8 日	卒後 2 年目 呼吸器勉強会	7 名
	28 年 11 月 17 日	看護観 心に残った看護 GW	7 名
	29 年 3 月 17 日	ケースレポート報告会	9 名
	29 年 3 月 29 日	発表	9 名
I－III	28 年 6 月 2 日	再構成導入講義	10 名
	28 年 9 月 30 日	自分の心に残った看護場面の再構成	10 名
	28 年 10 月 14 日 11 月 4 日	レポート発表	10 名
	29 年 1 月 31 日	再構成を終えて Or 私の看護間レポート提出	10 名
	29 年 2 月 17 日	リーダーシップ GW	5 名
II	28 年 6 月 1 日	看護研究 導入講義	12 名
	28 年 7 月 4 日	看護研究計画書提出	12 名
	28 年 9 月 6 日 20 日	看護理論①ナイチンゲール	17 名
	28 年 11 月 24 日 25 日	看護理論②発表	3 名
	28 年 3 月 9 日	発表原稿検討会	9 名

レベル	研修講座名	内 容	受講者
Ⅱ	29 年 4 月 28 日	発表	8 名
Ⅲ	28 年 7 月 14 日	看護倫理①	12 名
	28 年 9 月 15 日	トリアージ①	
	28 年 10 月 6 日	看護倫理②	
	28 年 12 月 15 日	インシデント分析①	
	29 年 1 月 19 日	インシデント分析②	
	29 年 3 月 7 日	看護倫理③	

(ウ) 選択コース

コース	日程	受講者
感染Ⅱ	①28 年 6 月 8 日感染症について②10 月 31 日ノロウイルス対策 ③12 月 7 日感染症と人権を考える GW④感染症と人権についてレポート提出	6 名
感染Ⅲ	①28 年 6 月 23 日洗浄・消毒・滅菌の基礎②7 月 28 日抗菌薬について基礎 1 ③9 月 13 日新興・再興感染症について④10 月 27 日抗菌薬について基礎 2 ⑤11 月 29 日感受性・耐性とは耐性菌について ⑥12 月 16 日感染対策教育の指導演習 ⑦レポート提出	5 名
看取り	①28 年 5 月 26 日看取りの看護②10 月 26 日エンゼルメイク講義 ③29 年 1 月 12 日エンゼルメイク実習④2 月 28 日看取りレポート提出	5 名
がん看護 (28 年導入)	①28 年 6 月 22 日がん疾患の理解②10 月 26 日周術期・治療期の看護 ③10 月 12 日ギアチェンジ後の看護④12 月 1 日エンドステージの看護 ⑤29 年 1 月 31 日レポート	5 名
災害看護	①28 年 5 月 31 日災害医療と看護 ②28 年 9 月 29 日災害看護の専門的知識・技術習得・トリアージ ③11 月 10 日災時、看護の役割対策・訓練について ④29 年 2 月 16 日災害看護の振り返り	3 名
退院支援	①28 年 6 月 30 日看護がつなぐ退院支援②10 月 20 日疾患別退院支援 ③29 年 1 月 26 日終末期における退院支援	6 名
リンパ浮腫 (28 年導入)	①28 年 7 月 27 日リンパ浮腫の定義②11 月 30 日リンパマッサージについて ③29 年 2 月 22 日リンパバンテージの実践	5 名

(エ) 公開講座

コース	日程	内容	受講者
感染管理	28 年 10 月 7 日	ワクチン摂取について	15 名
	28 年 12 月 2 日	耐性菌と抗菌薬について	15 名
	29 年 2 月 3 日	結核と肝炎 HIV など	11 名
薬剤講座	28 年 7 月 5 日	睡眠薬って？(作用副作用を知ろう)	16 名
リハビリテーション 講座	28 年 9 月 7 日	リハビリにも効果がある介助技術	18 名
	29 年 3 月 1 日	リハビリテーション科の取り組み	3 名
尿路感染講座	28 年 10 月 21 日	高齢者に多い尿路感染症について	26 名
救急処置講座	28 年 6 月 17 日	一般救急蘇生法 心肺蘇生法	32 名
		吸引の手技を学ぼう	16 名
地域連携	28 年 6 月 27 日	自宅のできる医療処置①	26 名
	28 年 9 月 1 日	自宅のできる医療処置②	27 名
	29 年 3 月 16 日	終末期の退院支援について	35 名
トピックス	28 年 7 月 22 日	口腔ケアスキルアップ	15 名

(オ) 院内研修会・伝達講習会

	月 日	研修内容	受講者
院内 研 修 会	28 年 4 月 21 日	NST	24 名
	28 年 5 月 16 日	アルコール依存症	57 名
	28 年 6 月 10 日	看護必要度研修①診療報酬改定	9 名
	28 年 6 月 24 日	看護必要度研修②診療報酬改定	19 名
	28 年 6 月 29 日	看護必要度研修③診療報酬改定	9 名
	28 年 7 月 27 日	看護必要度研修④診療報酬シミュレーション	18 名
	28 年 8 月 24 日	看護必要度 全体研修	51 名
	28 年 9 月 9 日	災害における在宅酸素の取り組み	26 名
	28 年 9 月 29 日	褥瘡の栄養 (ライブ研修)	11 名
	28 年 10 月 14 日	チェストドレーン管理	11 名
	28 年 10 月 18 日	フェントステープの取り扱い	10 名
	28 年 10 月	人工呼吸 トリロジー 各階 3 回実施	23 名
	28 年 10 月 4 日	認知症加算について 伝達講習	22 名
	28 年 11 月 9 日	イレウスについて レントゲン	11 名
	28 年 11 月 25 日	イレウスについて CT	13 名
	28 年 12 月	褥瘡対策 耐圧管理について 3 回実施	30 名

院 内 研 修 会	月 日	研修内容	受講者
	28 年 12 月 20 日	抗がん剤について	9 名
	29 年 2 月	栄養評価と栄養管理の基礎	25 名
	29 年 2 月 8 日	大腿骨頸部骨折の基礎知識	16 名
	29 年 3 月 2 日	呼吸器勉強会	9 名

(カ) 助手研修

助 手 研 修	月 日	研修内容	受講者
	28 年 5 月 19 日 20 日	正しい感染対策の知識を身に着ける	8 名
	28 年 10 月 13 日 14 日	ノロウイルス・インフルエンザ	14 名
	28 年 12 月 15 日 16 日	災害対策について	18 名
	29 年 2 月 16 日 17 日	医療安全対策について	14 名

イ 院外研修

(ア) 出張研修・参加状況

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
28 年 5 月 25 日	平成 28 年度 がんばれ新人ナース	神奈川県総合医療会館 5 階	6 名
28 年 7 月 8 日 9 日	インターネット配信 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	神奈川県総合医療会館	1 名
28 年 7 月 15 日	潜在職員再就職支援事業における病院対象の説明会	神奈川県総合福祉会館	1 名
28 年 8 月 14 日 17 日 30 日	神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	キャリア支援センター藤沢	3 名
28 年 10 月 13 日 14 日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②	神奈川県総合医療会館	2 名
29 年 1 月 17 日 18 日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③	神奈川県総合医療会館	1 名

(イ) 神奈川県看護協会 教育研修 A 群～D 群

研修テーマ	開催場所	受講者
看護協会教育研修 A 群	神奈川県総合医療会館	3 名
看護協会教育研修 B 群	神奈川県総合医療会館	5 名
看護協会教育研修 C 群	神奈川県総合医療会館	9 名
看護協会教育研修 D 群	神奈川県総合医療会館	4 名

(ウ) 看護管理研修会

期間	研修テーマ	開催場所	受講者
28 年 6 月 25 日	平成 28 年度七市公立病院 看護師長研修会	キャリア支援研修セ ンター藤沢	嘉山 静子 原美智子 園田 恵美 下地 福子 鈴木三恵子 市川夏実 山本浩文 館林美加子
28 年 10 月 31 日～ 11 月 11 日	職員派遣交流研修	奈良県西和医療セン ター	館林美加子

(エ) 全国自治体病院協議会研修

日時	研修テーマ	開催場所	受講者
28 年 9 月 29 日 30 日	臨床実習研修会	東京都市センターホテル	池田安弘
28 年 11 月 9 日～11 日	接遇トレーナ研修	東京都市センターホテル	渡辺みゆき
28 年 11 月 30 日 12 月 1 日 2 日	平成 28 年度看護管理研修	東京都市センターホテル	山崎静枝

(オ) 院外講師

月 日	研修テーマ	講師
29 年 2 月 7 日 8 日	H28 年度看護協会 教育研修 D 群 1 災害看護実務編	原美智子

ウ 院内発表会

(ア) 新人看護師発表者 29 年 3 月 23 日

テーマ	発表者
「1 年間を振り返って学んだこと 2 年目の課題」	本沢志織 伊藤愛 氏家弘之 渡辺俊孝 飯島悠介 鳴海芽衣

参加者 15 名

(イ) ラダーⅠ－Ⅱ ケースレポート発表会 29 年 3 月 29 日

所属	発表者	テーマ
2 階	飯島紗彩	化学療法を受ける患者 ～セルフケア向上に向けた患者教育～
2 階	君島直美	乳癌の手術を受ける患者との関わりを通して～自分の経験から学んだこと～
3 階	高橋宏美	終末期を迎える A 氏との関わりを通して学んだこと
3 階	松崎彩	食欲低下のある患者との関わり
手術室	三浦朋夏	術前・術後を通しての患者の関わり

所属	発表者	テーマ
2 階	藤平麻衣子	胃癌術後における食事指導を通して学んだこと
4 階	立川弥主子	消化管内視鏡検査における内視鏡看護のあり方
4 階	吉田美智子	終末期に揺れる家族への関わりを通して
4 階	水野佳苗	終末期にある患者とその家族がもっている力を支える看護

参加者 19 名

(ウ) ラダーⅡ 看護研究発表会 平成 28 年度部署別看護研究発表会

所属	発表者	テーマ
外来	立川弥主子	救急外来に求められるトリアージ ～トリアージの現状把握と課題の明確化～
2 階	大林嬢子	化学療法における看護師の曝露泰作に関する意識調査
3 階	長谷川嘉寛	気管吸引に頼らないガイドラインに沿った排痰
3 階	萩原京子	口腔ケアに関する実態調査
4 階	渡辺みゆき	看護処置コストもれに関する実態調査
4 階	原かおり	退院支援に関する看護師の意識調査～アセスメントスコアシートを使用した早期介入
手術室	安田佳恵	当院における全身麻酔下手術時の四肢固定方法の検討
手術室	長田泰代	ハンマートゥによる足趾、屈曲の予防を考える

参加者 28 名

(エ) 看護研究 院外発表

日程	開催地	テーマ	発表者
28 年 10 月 11 日	第 56 回全国国保地域医療学会研究発表	終末期でもあきらめない退院支援	石川智子
28 年 11 月 19 日	神奈川県看護協会横須賀支部看護・介護研究発表会	終末期でもあきらめない退院支援	石川智子

エ 職場体験

職場体験日	体験者数
28 年 5 月 26 日 27 日	長井中学校 5 名
28 年 11 月 17 日 18 日	衣笠中学校 7 名
28 年 1 月 13 日 14 日	三崎中学校 10 名
29 年 1 月 19 日	初声中学校 3 名
29 年 2 月 1 日 2 日	南下浦中学校 4 名

才 1 日看護体験

職場体験日	体験者数
28 年 7 月 29 日	高校生 10 名
28 年 7 月 30 日	高校生 8 名
28 年 7 月 31 日	高校生 6 名

力 神奈川歯科大学短期大学部看護学科実習

実習日	期間	受入れ人数
28 年 8 月 29 日～9 月 8 日 老年期看護実習学	8 日間	5 名
28 年 9 月 26 日～10 月 6 日 老年期看護実習学	8 日間	4 名

4 事務局



(1) 総務課

総務課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 経営状況

三浦市立病院改革プランに基づき各種経営効率化の取組を実施した。しかしながら VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）のアウトブレイク対応等のため入院患者数が減少し、収益が減少した影響等により、単年度資金収支の黒字化は達成できたものの、経常損益は赤字を計上した。

イ 職員確保

職員確保については、医師 1 人、看護師 8 人、診療放射線技師 1 人、理学療法士 1 人及び社会福祉士 1 人を採用した。採用した医師は訪問診療を担当し、同診療の強化を図った。引き続き必要な職員の安定確保に努めていく。

(2) 業務実績

ア 経理

(ア) 業務実績

本年度の事業収益は、2,465,523,764 円で、これに対して事業費用は、2,512,342,953 円となり、収入、支出差引き 46,819,279 円の赤字である。

事業収益 2,465,523,764 円の内容は、医業収益 2,338,786,955 円、医業外収益 126,736,719 円である。

一方、事業費用 2,512,342,953 円の内容は、医業費用 2,374,936,164 円、医業外費用 130,084,412 円、特別損失 7,322,377 円である。

(イ) 事業収益に関する事項

区分	平成 28 年度
医業収益	2,338,786,955 円
医業外収益	126,736,719 円
事業収益	2,465,523,674 円

(ウ) 事業費用に関する事項

区分	平成 28 年度
医業費用	2, 374, 936, 164 円
医業外費用	130, 084, 412 円
特別損失	7, 322, 377 円
事業費用	2, 512, 342, 953 円

イ 医療機器等

(ア) 業務実績

医療機器等については、眼科用手術顕微鏡、臨床検査科用超音波画像診断装置、セントラルモニター等の整備を図った。

(イ) 器械備品及び車両取得の概況

購入年月日	品名	金額 (円)	購入先
平成 28 年 6 月 30 日	ベットパンウォッシャー	1, 041, 120	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 7 月 28 日	臨床検査科用超音波画像診断装置	7, 506, 000	メディカルサイエンス (株)
平成 28 年 10 月 1 日	眼科用手術顕微鏡	25, 817, 400	協和医科器械 (株) 横浜支店
平成 28 年 12 月 22 日	手術室麻酔器	3, 456, 000	メディカルサイエンス (株)
平成 28 年 12 月 26 日	眼圧計	1, 760, 400	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 12 月 27 日	セントラルモニター	7, 091, 064	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 12 月 28 日	手術室用ベッドサイドモニター	3, 171, 960	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 29 年 1 月 18 日	病院業務医療情報システム給食管理システム追加	1, 172, 016	都築電気 (株) 神奈川支店
平成 29 年 3 月 18 日	介護浴槽	2, 322, 000	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 29 年 3 月 30 日	外科用超音波画像診断装置	5, 641, 920	協和医科器械 (株) 横浜支店

(2) 医事課



医事課長 石塚 真司

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

ア 三浦を元気にするリビングラボラトリーの運営協定

平成 27 年度、三浦市民健康大学オープンキャンパスを開催し、継続開催ができるよう平成 28 年 6 月に実行委員を設立した。平成 28 年 10 月に YMC A 三浦ふれあいの村で「学ぶ・遊ぶ・笑う」をテーマに三浦市民健康大学オープンキャンパスを開催した。総参加数は 102 名であり、昨年度の 68 名より 34 名増となった。

イ 健診業務（土曜健診に向けて）

平成 27 年に市民要求を実現する会より、「人間ドックの受付人数が平日 5 名のため、申込みから受検まで時間がかかりすぎるので土曜日などに人間ドックの枠を設けて、受検人数を増やす取組をしてほしい。」と要望があり、平成 28 年 4 月より、毎月第 2 土曜日に実施している土曜健診にドック枠 6 名を増やし実施した。土曜健診全 9 日間の実受検者数は 89 件で、内ドックの件数は 38 件となった。

ウ 神奈川県医師会在宅医療 ICT システム構築モデル事業参入

平成 28 年 11 月より、三浦市医師会が中心となり神奈川県医師会在宅医療 ICT システム構築モデル事業として「みうらホームケアネット」の運用が開始され、当院は基幹病院として役割を担うこととなった。開始から 1 ヶ月間の集計では、10 事業所、対象患者 16 名の参加であったが、平成 29 年 3 月末では 14 事業所、対象患者 36 名の参加となった。

(2) 業務実績

ア 健康診断

(ア) 三浦市集団健診

本年度は、三浦合同庁舎、南下浦市民センター及び初声市民センターの各会場に赴き、三浦市国民健康保険の特定健診を実施した。

三浦合同庁舎 6 回、南下浦市民センター 4 回及び初声市民センター 2 回合計 12 回実施し、延べ 1,377 名の方が受診した。

(イ) 出張健診

市内医療介護福祉関係施設延べ3施設で実施し、延べ528人の方が受診し入居者の方々と勤務されている方々を効率的に健診は受けられるよう配慮して実施した。

(ウ) 出張予防接種

インフルエンザ予防接種について官庁1件、96名の出張予防接種を実施した。

イ 施設基準

平成28年度中届出した施設基準

- (ア) 基本診療料 地域包括ケア入院医療管理料1「変更」
- (イ) 基本診療料 看護必要度2「変更」
- (ウ) 基本診療料 ADL維持向上等体制加算「新規」
- (エ) 基本診療料 退院支援加算1「新規」
- (オ) 基本診療料 認知症ケア加算2「新規」
- (カ) 特掲診療料 運動器リハビリテーション料Ⅰ「変更」
- (キ) 特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ「変更」
- (ク) 特掲診療料 在宅療養支援病院「変更」
- (ケ) 特掲診療料 コンタクトレンズ検査料「辞退」

(3) 栄養課



栄養課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 28 年度のトピックス

平成 28 年 4 月から入院時食事療養費の患者負担額が 260 円から 360 円へ増額したが、食事内容への苦情等、大きな問題はなく食事提供できている。これは患者満足度を高めるための取組が継続できている成果であり、今後も患者ひとりひとりに合わせた食事提供を心掛けたい。

栄養食事指導については、平成 28 年診療報酬改定で新たに、がん、摂食嚥下機能低下及び低栄養の患者に対する治療食の指導が可能となった。高齢化率が高い三浦市においては、摂食嚥下機能が低下した方へのサポートの重要性が増している。入院中から在宅まで適切な食形態の食事が継続できるよう、多職種及び地域との連携を強化することが今後の課題である。

(2) 業務実績

ア 栄養食事指導実績数表

(単位：件)

区分 \ 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
入院患者	60	48	53
外来患者	150	124	80
合計	210	172	133

イ 年度別食数表

(単位：食)

年度 区分		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
患者給食数	一般食	71,696	69,286	73,365
	特別食	20,176	23,651	21,574
	経管栄養	2,464	3,181	2,496
	小計	94,336	96,118	97,435
患者外給食数		2,321	2,286	2,459
合計		96,657	98,404	99,894

(ウ) 平成 28 年度 月別食数表

(単位：食)

区分 月	患者給食数				患者外 給食数	合計
	一般食	特別食	経管栄養	小計		
4 月	5,859	1,744	502	8,105	180	8,285
5 月	5,727	1,974	522	8,223	186	8,409
6 月	5,830	1,569	388	7,787	180	7,967
7 月	5,846	1,376	292	7,514	211	7,725
8 月	5,157	1,372	307	6,836	188	7,024
9 月	5,784	962	336	7,082	181	7,263
10 月	5,736	1,244	194	7,174	206	7,380
11 月	5,232	1,848	116	7,196	200	7,396
12 月	6,351	1,959	137	8,447	205	8,652
1 月	7,210	1,998	139	9,347	206	9,553
2 月	6,425	1,812	216	8,453	188	8,641
3 月	6,523	1,610	210	8,343	208	8,551
合計	71,680	19,468	3,359	94,507	2,339	96,846

Ⅲ 委員会の状況

1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 医療事故防止対策に関すること。
- イ 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- ウ 訴訟及び和解に関すること。
- エ その他医療事故に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 4 月 26 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・リスクマネージャーの変更について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・医療安全管理室で所管するマニュアルの協議
- c 参加人数 14 名

イ 第２回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 5 月 24 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・平成 27 年度 ADL と転倒について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・リスクマネジメントマニュアルの見直しの開始
- c 参加人数 13 名

ウ 第3回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年6月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ADLと転倒転落の調査研究について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 14名

エ 第4回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年7月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・転倒予防策についての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 11名

オ 第5回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年8月23日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13名

カ 第6回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年9月27日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・医療安全管理室で所管するマニュアルの協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12名

キ 第7回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年10月25日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容

- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- ・インシデント分類の変更について協議
- ・診療支援部及び事務局における病室業務における注意事項について協議
- ・医療安全管理室で所管するマニュアルの協議

c 参加人数 10 名

ク 第 8 回「リスクマネジメント委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 11 月 22 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

- ・苦情対処について報告
- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- ・ADL と調査研究について報告
- ・平成 28 年度第 1 回医療安全管理研修について報告

c 参加人数 13 名

ケ 第 9 回「リスクマネジメント委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 12 月 27 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

- ・新しい造影 MRI 同意書・説明書の協議
- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- ・医療事故等の公開基準について協議

c 参加人数 13 名

コ 第 10 回「リスクマネジメント委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 1 月 24 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

- ・三浦市立病院医療事故等公開基準について報告
- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議

c 参加人数 14 名

サ 第 11 回「リスクマネジメント委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 2 月 28 日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
 - ・平成 28 年度第 2 回医療安全管理研修について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13 名

シ 第 12 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 3 月 28 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・転倒予防策・環境面の改善及び L 字柵について協議
- c 参加人数 10 名

② 研修

ア 第 1 回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 11 月 11 日 三浦市立病院会議室
平成 28 年 11 月 28 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「転倒転落と薬について」
講師 エーザイ株式会社 大石和弘
- c 参加人数 153 名

イ 第 2 回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 3 月 22 日 三浦市立病院会議室
平成 29 年 3 月 24 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「認知症とリスクマネジメントについて」
講師 医療安全管理室主管 鈴木正芳、医療安全管理室職員 竹内晃雄
- c 参加人数 164 名

③ その他の活動

当院における、平成 28 年度のインシデント数は下記のとおりです。

平成28年度 月別 インシデント事例及びアクシデント報告数

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	2	2		1						1	2	9
1	2	5	4	8	4	6	4	6	3	7	7	6	62
2	10	6	7	4	2	4	4	7	7	8	5	2	66
3a	1		3				1				1	2	8
3b			1			1						2	4
4a													0
4b													0
5													0
合計	14	13	17	12	7	11	9	13	10	15	14	14	149

平成28年度 分類別 インシデント事例及びアクシデント報告数

事象区分／レベル	レベル								合計	構成比	備考
	0	1	2	3a	3b	4a	4b	5			
転倒転落		12	25	6	3				46	30.9%	
薬品・輸血	4	11	9	2					26	17.4%	
チューブ類管理		1	25						26	17.4%	
リハビリ		4	1						5	3.4%	
検査		5							5	3.4%	
食事・窒息・誤嚥		2							2	1.3%	
オーダー・指示出し等		2	2						4	2.7%	情報伝達も含む
療養関連	1	17			1				19	12.8%	
その他	4	8	4						16	10.7%	
合計	9	62	66	8	4	0	0	0	149	100.0%	

当院における、インシデント・アクシデントのレベル分類基準

(レベル 0 ～レベル 3 a はインシデントとし、レベル 3 b ～レベル 5 はアクシデントとする。)

レベル	傷害の内容		
	傷害の継続性	傷害の程度	具体的な内容
レベル 0	—	—	エラーや医薬品、医療用具等の不具合が見られたが、患者には実施はされなかった。
レベル 1	なし	—	患者への実害は、無かった場合。(何らかの影響の可能性は、否定できない)
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった場合。(患者観察の強化、V S の軽度変化等)
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な治療等の条件が生じた場合。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤投与等)
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した場合。(V S の高度変化、手術、入院日数延長、骨折等)
レベル 4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害等は伴わない場合。
レベル 4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害等が伴う場合。
レベル 5		死亡	事故が死因となった場合。

* V S = バイタルサイン (血圧・心拍数・体温・呼吸数・意識レベル)

2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（1）設置目的

当委員会は、医療安全管理室が所掌し、医療関連感染に対する感染防止対策に関し、組織を横断して行うべき施策の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため設置されているが、院内にとどまらず地域の感染防止対策にも注力し、次に掲げる任務を遂行している。

ア 院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応に関すること。

イ 院内感染の発生原因の分析、改善策の立案、実施及び見直し並びに病院職員に対する周知に関すること。

ウ 地域の医療機関、保健福祉施設等からの医療関連感染に関する支援に関すること。

エ 感染対策チーム（I C T）への助言及び支援に関すること。

オ その他感染対策に関すること。

当委員会の下部組織として、医療関連感染対策上の実践チームである感染対策チーム（I C T）及び臨床現場の役割モデルとしての感染対策リンクナース会を設置し、院内感染対策や職業感染防止などに関連する知識、技術等の職員への周知を実施している

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 4 月 13 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 3 月（2016 年）
- ・ インフルエンザ 3 月（2016 年）
- ・ VRE 検出経過
- ・ 抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 3）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H28. 3）
- ・ 抗菌薬使用量（H28. 3）
- ・ 感染症患者/職員報告

- ・平成 27 年度感染管理年間報告
- ・当院における VRE 保菌患者発生及びその対応について
- ・VRE フォローアップ検査について
- ・抗体獲得拡大プログラムに関する報告
- ・三浦市立病院感染管理体制組織図の一部改正について
- ・感染防止対策加算点数報告

c 出席人数 11 人

イ 第 2 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 5 月 11 日（水） 三浦市立病院 DPC 室

b 議事

- ・M 一覧 4 月（2016 年）
- ・インフルエンザ 4 月（2016 年）
- ・VRE 検出経過
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 4）
- ・使用制限抗菌薬使用患者リスト（H28. 4）
- ・抗菌薬使用量（H28. 4）
- ・感染症患者/職員報告
- ・当院における VRE 保菌患者発生及びその対応についての一部修正について
- ・VRE 対応方針について
- ・VRE フォローアップ検査の一部改正について
- ・麻疹（疑いを含む）患者対応フローチャート及び食中毒対応フローの一部改正について
- ・感染防止対策加算点数報告
- ・健康宅配便について

c 出席人数 10 人

ウ 第 3 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 6 月 3 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 5 月（2016 年）
- ・VRE 検出経過
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 5）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 5）

- ・抗菌薬使用量（H28. 5）
- ・感染症患者/職員報告
- ・VRE 対応に関する面会者向け掲示について
- ・VRE マニュアルの一部改正について
- ・VRE に関する鎌倉保健福祉事務所三崎センターとの意見交換について
- ・VRE 対応に関する病棟トイレの使用について
- ・健康宅配便について

c 出席人数 12 人

エ 第 1 回感染対策委員会臨時会

a 開催日及び場所

平成 28 年 6 月 22 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議 事

- ・VRE 対応方針について
- ・VRE 検出状況
- ・当院における VRE 陽性者の推移
- ・VRE 遺伝子解析の結果（速報）について
- ・VRE 対策における看護部等の今までの取組と改善等について
- ・VRE 対策に関する審議決定体制等について

c 出席人数 8 人

オ 第 4 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 7 月 12 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 6 月（2016 年）
- ・VRE 検出経過
- ・VRE 陽性者の推移
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 6）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 6）
- ・抗菌薬使用量（H28. 6）
- ・感染症患者/職員報告
- ・VRE 対策会議報告
- ・横須賀市院内感染対策ネットワーク合同カンファレンス報告
- ・横須賀共済病院によるラウンドの実施について
- ・VRE 対応方針について

- ・健康宅配便について
- c 出席人数 12 人

カ 第5回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 28 年 8 月 5 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議 事
 - ・M 一覧 7 月（2016 年）
 - ・VRE 検出経過
 - ・VRE 陽性者の推移/検査履歴
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 7）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 7）
 - ・抗菌薬使用量（H28. 7）
 - ・感染症患者報告/職員報告
 - ・結核患者接触者調査報告
 - ・感染管理情報（針刺し切創血液汚染）
 - ・地域連携相互評価及び VRE 対策ラウンドについて
 - ・VRE に関する報道及びルビスタの使用状況報告
 - ・VRE 対応方針について
 - ・平成 28 年度感染対策講習会出席状況報告及び欠席者への措置について
 - ・健康宅配便について
- c 出席人数 11 人

キ 第6回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 28 年 9 月 8 日（木） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - ・M 一覧 8 月（2016 年）
 - ・VRE 検出経過
 - ・VRE 陽性者の推移/検査履歴
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 8）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 8）
 - ・抗菌薬使用量（H28. 8）
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・VRE に関する対応について
 - ・病棟間での転棟の基準について

- ・手指消毒薬、ルビスタ及びペーパータオル使用状況報告
- ・平成 28 年度流行性ウイルス性疾患及び B 型肝炎ワクチン接種の実施について
- ・感染管理情報（針刺し切創）
- ・平成 28 年度感染対策講習会出席状況

c 出席人数 10 人

ク 第 7 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 10 月 7 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 9 月（2016 年）
- ・VRE 検出経過
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 9）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 9）
- ・抗菌薬使用量（H28. 9）
- ・感染症患者/職員報告
- ・感染管理情報（針刺し切創血液汚染）の続報
- ・VRE に関する対応について
- ・陰部洗浄ボトルの購入について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・高齢者介護施設における VRE 保菌者への対応の考え方
- ・平成 28 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく病院立入検査について
- ・新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
- ・平成 28 年度病院職員等インフルエンザワクチン接種について
- ・平成 28 年度感染対策講習会出席状況及び確認テスト正解率
- ・公開講座報について

c 出席人数 9 人

ケ 第 8 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 11 月 9 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 10 月（2016 年）
- ・VRE 検出経過
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 10）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 10）

- ・抗菌薬使用量（H28.10）
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・感染管理情報（針刺し切創血液汚染）の続報
 - ・VRE に関する対応について
 - ・VRE 検査の料金設定について
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・注射の準備マニュアルの制定について
 - ・新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
 - ・公開講座について
- c 出席人数 10 人

コ 第9回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 28 年 12 月 2 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- ・M 一覧 11 月（2016 年）
 - ・VRE 検出経過
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28.11）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H28.11）
 - ・抗菌薬使用量（H28.11）
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・VRE に関する対応について
 - ・トイレ清掃チェック表について
 - ・VRE 陽性疑い者及び判定保留者の管理について
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・口腔内及び鼻腔内吸引に使用する吸引チューブの単回使用について
 - ・感染対策研修会受講報告
 - ・公開講座及び健康宅配便について
- c 出席人数 9 人

サ 第10回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 29 年 1 月 6 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- ・M 一覧 12 月（2016 年）
 - ・VRE 検出経過

- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H28. 12)
- ・使用制限抗菌薬リスト (H28. 12)
- ・抗菌薬使用量 (H28. 12)
- ・感染症患者/職員報告
- ・VRE に関する対応について
- ・鎌倉保健福祉事務所三崎センターによる VRE に関するヒアリング報告
- ・インフルエンザ対応について
- ・インフルエンザマニュアルの改訂について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・公開講座及び健康宅配便について

c 出席人数 12 人

シ 第 11 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 2 月 3 日 (金) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 1 月 (2017 年)
- ・VRE 検出経過
- ・インフルエンザ 1 月 (2017 年)
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H29. 1)
- ・使用制限抗菌薬リスト (H29. 1)
- ・抗菌薬使用量 (H29. 1)
- ・感染症患者/職員報告
- ・VRE に関する対応について
- ・VRE に関する保菌調査報告の院内掲示及びホームページ掲載について
- ・横須賀市医療安全情報交換会報告
- ・インフルエンザ対応について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・平成 27 年度三浦市立病院感染対策委員会年報について
- ・感染対策講習会及び公開講座について

c 出席人数 11 人

ス 第 12 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 3 月 3 日 (金) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 2 月 (2017 年)
 - ・VRE 検出経過
 - ・インフルエンザ 2 月 (2017 年)
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト (H29. 2)
 - ・平成 28 年度抗インフルエンザ薬使用人数
 - ・使用制限抗菌薬リスト (H29. 2)
 - ・抗菌薬使用量 (H29. 2)
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・VRE に関する対応について
 - ・VRE 保菌患者対応専従化業務範囲の拡大について
 - ・インフルエンザの経過について
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
 - ・感染対策講習会欠席者への措置及び公開講座について
 - ・感染防止対策相互評価及び感染防止対策カンファレンスの実施について
- c 出席人数 12 人

② 研修

ア 院内全体研修

- a 平成 28 年 7 月 12 日 (火) 及び 15 日 (金)
「平成 28 年度 第 1 回 感染対策講習会」
対象者：病院職員
テーマ：「慢性期医療における感染予防大作戦」
講師：浜松医療センター 矢野邦夫先生 <ライブ研修>
参加者：86 名
- b 平成 28 年 7 月 19 日 (火)、20 日 (水) 及び 21 日 (木)
「平成 28 年度 感染対策講習会臨時研修会」
対象者：病院職員
テーマ：「VRE 説明会」
講師：ICT 島崎時朗、長谷川澄子、杉崎絵美
参加者：153 名
- c 平成 29 年 1 月 30 日 (月)、31 日 (火) 及び 2 月 1 日 (水)
「平成 28 年度 第 2 回 感染対策講習会」
対象者：病院職員

テーマ：「感染対策ここだけは押さえない！【ノロ&Flu】」

講師：浜松医療センター 矢野邦夫先生 <ライブ研修>

参加者：168 名

イ 感染対策公開講座

a 平成 28 年 10 月 7 日（金）

テーマ：「ワクチン接種について」

参加者：15 名（院内 8 名・院外 7 名）

b 平成 28 年 12 月 2 日（金）

テーマ：「耐性菌と抗菌薬について」

参加者：15 名（院内 1 名・院外 14 名）

c 平成 29 年 2 月 3 日（金）

テーマ：「肝炎と結核について」

参加者：11 名（院内 4 名・院外 7 名）

ウ 感染対策出張講座（健康宅配便）

a 平成 28 年 6 月 8 日（水） 会場：特別養護老人ホームはまゆう

対象者：啓生会職員

テーマ：「VRE 感染に伴う標準的予防策・VRE を知る」

参加者：72 名

b 平成 28 年 6 月 16 日（木） 会場：ルナランドデイサービス

対象者：ルナランド職員

テーマ：「食中毒の発生予防とまん延防止」

参加者：10 名

c 平成 28 年 6 月 28 日（火） 会場：ルナランドデイサービス

対象者：ルナランド職員

テーマ：「食中毒の発生予防とまん延防止」

参加者：11 名

d 平成 28 年 7 月 13 日（水） 会場：介護老人保健施設なぎさ

対象者：介護老人保健施設なぎさ職員

テーマ：「VRE 感染症についての勉強会」

参加者：8名

- e 平成28年7月29日（金） 会場：特別養護老人ホーム鎌倉清和由比
対象者：南湘南地区福祉施設連絡会関係者
テーマ：「VRE感染に伴う標準的予防策・VREを知る」
参加者：34名

- f 平成28年12月7日（水） 会場：豊夢三浦海岸
対象者：豊夢三浦海岸職員
テーマ：「VREについて」
参加者：9名

- g 平成28年12月8日（木） 会場：油壺マリーナヒルズ
対象者：油壺マリーナヒルズ職員
テーマ：「VRE感染症についての勉強会」
参加者：27名

- h 平成28年12月21日（水） 会場：ソノラス・コート油壺
対象者：ソノラス・コート油壺職員
テーマ：「VRE感染症について」
参加者：27名

③ その他の活動

ア 感染防止対策カンファレンス

- a 平成28年5月6日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院
- b 平成28年7月1日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院
- c 平成28年9月2日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

d 平成 28 年 11 月 4 日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

e 平成 29 年 1 月 13 日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

f 平成 29 年 3 月 29 日（水）「感染防止対策カンファレンス」

会場：三浦市立病院

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

イ 地域連携相互評価

a 平成 28 年 7 月 25 日（月）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：三浦市立病院

評価施設：横須賀共済病院

b 平成 29 年 3 月 10 日（金）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：横須賀共済病院

評価施設：三浦市立病院

ウ サーベイランス

a 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）全入院患者部門

目的：全入院患者を対象とし、主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生率に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における薬剤耐性菌による感染症の発生状況を明らかにする。

平成 28 年 薬剤耐性菌感染症患者及び罹患率（‰）

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
感染症患者数	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1
MRSA	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
VRE	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
MDRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	PRSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VRSA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	MDRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRSA 罹患率(‰)		2.85	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.68	0.00	0.00	3.23	0.00	2.83
VRE 罹患率(‰)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.14	0.00	0.00	0.00	0.00
対象医療機関													
MRSA 罹患率(‰)		3.27											
VRE 罹患率(‰)		0.00											

感染症患者＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

罹患率（‰）＝（新規感染症患者数）÷（総入院患者数－継続感染症患者数）×1000

対象医療機関 MRSA 罹患率（‰）及び VRE 罹患率（‰）は、平成 27 年 1 月～12 月における
全集計対象医療機関 806 施設の罹患率（‰）

b 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）SSI 部門

目的：術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における SSI の発生状況を明らかにする。

平成 28 年 対象医療機関との手術件数及び SSI 発生率の比較

手術手技 コード	手術手技	自施設		集計対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
APPY	虫垂の手術	0/4	0.0%	664/13,429	4.9%
BILI-L	胆道再建を行わない 肝切除	0/1	0.0%	385/5,036	7.6%
CHOL	胆嚢手術	0/4	0.0%	786/26,330	3.0%
COLO	大腸手術	0/4	0.0%	5,308/45,181	11.7%
GAST-D	幽門側胃切除	0/3	0.0%	656/9,914	6.6%
GAST-T	胃全摘	0/2	0.0%	567/5,434	10.4%
GAST-O	胃手術	0/1	0.0%	382/4,979	7.7%
HER	ヘルニア手術	0/6	0.0%	127/17,436	0.7%
REC	直腸手術	0/3	0.0%	2,347/16,048	14.6%
SB	小腸手術	1/1	100.0%	1,036/7,374	14.0%
FX	骨折の観血的整復術	0/36	0.0%	147/18,233	0.8%
BRST	乳房切除術	0/7	0.0%	88/6,752	1.3%

JANIS SSI 部門 2016 年 1 月～12 月年報をもとに作成

対象期間は、2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日

対象医療機関数は、730 施設

SSI 発生率（％）＝（集計対象医療機関の SSI 件数合計）÷（集計対象医療機関の手術件数合計）×100

エ VRE アウトブレイクの対応

三浦半島地域における VRE 感染拡大の状況も相まって、院内における VRE 検出状況の増加がみられたことから、手指衛生や環境整備を中心とした感染対策の強化を図るとともに、監視体制を整備した。

3 三浦市立病院褥瘡対策委員会



委員長 石田 良太（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

褥瘡の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報の共有及び実施のため、三浦市立病院褥瘡対策委員会を設置する。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 4 月 7 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況の確認
褥瘡発生状況報告
昨年度の振り返りと今年度の目標設定
- c 参加人数 7 名

イ 第２回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 5 月 6 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
今年度の目標設定と活動内容について
褥瘡発生状況報告
エアマットレスの使用状況の確認
- c 参加人数 9 名

ウ 第３回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 6 月 2 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容

褥瘡回診担当者の役割について
褥瘡発生状況報告
エアマットレスの使用状況の確認

c 参加人数 9名

エ 第4回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年7月7日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
褥瘡発生状況報告
エアマットレスの使用状況の確認
褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）
- c 参加人数 9名

オ 第5回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年8月4日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
褥瘡発生状況報告
エアマットレスの使用状況の確認
褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）
- c 参加人数 7名

カ 第6回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年9月1日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
褥瘡発生状況報告
エアマットレスの使用状況の確認
褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）
院内研修の企画検討
- c 参加人数 6名

キ 第7回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年10月6日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）

褥瘡の発生状況報告

院内研修の反省と課題

c 参加人数 9名

ク 第8回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年11月4日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）

院内研修の企画検討

c 参加人数 7名

ケ 第9回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年12月1日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡の発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

褥瘡回診（創部の評価、原因分析と対策報告）

院内研修の企画検討

c 参加人数8名

コ 第10回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年1月5日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡の発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

院内研修会企画検討

c 参加人数 8 名

サ 第 11 回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 2 月 2 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡の発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

c 参加人数 6 名

シ 第 12 回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 3 月 2 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

褥瘡の発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

公開講座の企画検討

今年度の反省について

c 参加人数 6 名

褥瘡持ち込みと褥瘡院内発生数・率

(単位：件)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
褥瘡持ち込み	0	6	14	7	3	4	9	6	4	4	3	3
褥瘡院内発生	0	4	5	3	0	3	0	2	2	2	0	2
合計	0	10	19	10	3	7	9	8	6	6	3	5
病床数全体	104.8	107.2	104.1	99.1	87.8	93.9	94.2	96.4	106.9	118.9	117.7	108.5
持ち込み率		5.5%	13.4%	7.0%	3.4%	4.2%	9.5%	6.2%	3.7%	3.3%	2.5%	2.7%
発生率		3.7%	4.8%	3.0%		3.1%		2.0%	1.8%	1.6%		1.8%

褥瘡持ち込み率 平均 5.1%

褥瘡発生率 平均 1.8%

② 研修

ア 第 1 回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成 28 年 9 月 29 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡と栄養～ガイドラインサルコペニアを踏まえて～」

講師 (株)大塚製薬工場

c 参加人数 11 名

イ 第 2 回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成 28 年 12 月 7 日、9 日、21 日 各病棟

b 活動内容

テーマ「褥瘡対策・体圧管理について」

講師 泉谷貴之

c 参加人数 30 名

ウ 第 3 回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成 28 年 12 月 6 日、13 日

b 活動内容

テーマ「褥瘡の分類と治療」

講師 白十字(株)

マルホ(株)

c 参加人数 52 名

③ その他

各病棟 褥瘡患者の回診

エアマットレスの使用状況の確認

a 開催日

第 1・3 月曜日 15 時 30 分～

b 場所

各病棟

c 活動内容

(a) 褥瘡のある患者の回診を行い、適切な治療が行われること。

(b) 記録を残し、情報を共有すること。

d 参加人数

医師 1 名 看護師 (各部署)

4 三浦市立病院接遇向上委員会



委員長 市川 夏実（看護師長）（H29.3.31 現在）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

接遇の向上に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院接遇向上委員会を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な審議、決定、情報交換及び施策を行う。

- ア 相手を大切に思う心を表す対応に関すること。
- イ 表情、言葉づかい、身だしなみ及び態度に関すること。
- ウ 信頼、安心感、納得及び癒しを満たす対応に関すること。
- エ 質の高いサービスに関すること。
- オ 接遇研修に関すること。
- カ その他接遇に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 28 年 4 月 20 日 地下食堂兼会議室
- b 活動内容
「三浦市立病院やさしい接遇マニュアル」改定案について審議
- c 参加人数 8 名

イ 第２回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 28 年 5 月 18 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
今年度の班分けについて（アンケート班・ポスター班・チェックリスト班）

各班から前年度の反省について
接遇マニュアルの改訂について
司会・書記について
院内ラウンドについて

c 参加人数 8名

ウ 第3回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成28年6月15日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

本日の院内ラウンドの評価

各班からの報告

接遇マニュアルの改訂

c 参加人数 7名

エ 第4回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成28年7月20日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

院内ラウンドの評価

各班からの報告

接遇マニュアルの改訂

c 参加人数 7名

オ 第5回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成28年9月21日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

やさしい接遇マニュアルについて

院内ラウンドの報告

接遇委員会院内研修について：議題「電話クレーム対応」

c 参加人数 11名

カ 第6回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成28年10月19日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
院内ラウンドの報告
接遇委員会後に院内研修
- c 参加人数 8名

キ 第7回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 11 月 23 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
- c 参加人数 8名

ク 第8回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 28 年 12 月 21 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアルの改訂について
- c 参加人数 8名

ケ 第9回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 1 月 20 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇研修 2 回目について検討
- c 参加人数 11 名

コ 第10回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 2 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアル内容の検討
- c 参加人数 8名

サ 第 11 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 3 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
- c 参加人数 7 名

② 研修

ア 第 1 回「電話対応とクレーム対応」

- a 開催日及び場所
平成 28 年 10 月 19 日 三浦市立病院会議室
- b 講師
三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）
吉田朱里
- c 参加人数 22 名

イ 第 2 回「電話対応とクレーム対応」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 2 月 15 日 三浦市立病院会議室
- b 講師
三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）
吉田朱里
- c 参加人数 23 名

イ 第 3 回「電話対応とクレーム対応」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 2 月 24 日 三浦市立病院会議室
- b 講師
三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）
吉田朱里
- c 参加人数 29 名

5 三浦市立病院NST委員会



委員長 和田 博雄（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施すること等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院NST委員会を設置する。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ① 適切な栄養管理法の選択に関すること。
- ② 適切かつ質の高い栄養管理の提供に関すること。
- ③ 早期栄養障害の発見及び早期栄養療法の開始に関すること。
- ④ 栄養療法による合併症の予防に関すること。
- ⑤ 疾患罹患率及び死亡率の減少に関すること。
- ⑥ 病院スタッフへの栄養管理に関する知識の啓蒙及び修得に関すること。
- ⑦ 医療安全管理の確立及びリスクの回避に関すること。
- ⑧ 栄養素材及び資材の適正使用による経費削減に関すること。
- ⑨ 在院日数の短縮及び入院費の節減に関すること。
- ⑩ 在宅治療症例の再入院及び重症化の抑制に関すること。
- ⑪ その他栄養管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年4月7日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

NST回診状況報告

摂食機能療法の運用について

昨年度の振り返りと今年度の目標設定

研修会の企画検討

c 参加人数 8人

イ 第2回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 5 月 6 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
昨年度の振り返りと今年度の目標設定
委員会メンバーの役割について
摂食機能訓練対象患者報告
- c 参加人数 7 人

ウ 第3回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 6 月 2 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
今年度委員会新メンバー紹介
委員会の役割について
摂食機能訓練対象患者報告
- c 参加人数 7 人

エ 第4回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 7 月 7 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
N S T 回診状況報告
N S T 回診の今後のあり方について
- c 参加人数 7 人

オ 第5回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 8 月 4 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
N S T 回診状況報告
- c 参加人数 10 名

カ 第6回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 9 月 1 日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
NST回診状況報告
摂食機能療法について
- c 参加人数 7人

キ 第7回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年10月6日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
(株)大塚製薬工場 乳脂肪製剤についての説明
NST回診状況報告
- c 参加人数 7人

ク 第8回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年11月4日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
NST回診状況報告
院外研修について
- c 参加人数 6人

ケ 第9回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月3日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
摂食機能療法の運用について
NST回診状況報告
事例検討ディスカッション
- c 参加人数 8人

コ 第10回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年1月5日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
NST回診状況報告
- c 参加人数 8人

サ 第 11 回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 2 月 2 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
研修会の企画検討
N S T 回診状況報告
- c 参加人数 8 人

シ 第 12 回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 3 月 2 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
N S T 回診状況報告
研修会の反省と今後の検討事項
今年度の編成と次年度の課題
- c 参加人数 8 名

② 研修

ア 第 1 回「NST 研修会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 4 月 21 日 地下食堂兼会議室
- b 活動内容
テーマ 「栄養療法の基礎」
講師 和田 博雄
- c 参加人数 24 名

イ 第 2 回「NST 研修会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 2 月 14 日、21 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ 「栄養評価と栄養管理の基礎」
講師 (株)大塚製薬工場
- c 参加人数 25 名

6 三浦市立病院CS向上委員会



委員長 五味 潤 一三（診療支援部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

Customer Satisfaction つまり、顧客満足を追求・実践することを目的として設置されている。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 6 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計、健康宅配便、みうら市民まつり、院内コンサート
についての協議

c 参加人数 8 人

イ 第２回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 7 月 2 日 資料配布による開催

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計についての報告

c 参加人数 11 名

ウ 第３回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 8 月 2 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

健康宅配便についての実施報告と今後の予定、みうら市民まつり、待ち時間
統計、院内コンサート、市民健康大学オープンキャンパスについての協議

c 参加人数 6 名

エ 第4回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年9月6日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
健康宅配便、ご意見箱、待ち時間統計及び院内コンサートについての協議
- c 参加人数 6名

オ 第5回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年10月4日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつりについての協議及び院内コンサート報告
- c 参加人数 6名

カ 第6回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年11月1日 三浦市立病院DPC室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつり、院内コンサートについての協議
- c 参加人数 10名

キ 第7回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月6日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計についての協議、みうら市民まつり及び院内コンサートについての報告
- c 参加人数 10名

ク 第8回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年1月10日 資料配布による開催
- b 活動内容
待ち時間統計、健康宅配便についての報告
- c 参加人数 11名

ケ 第9回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年2月7日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

待ち時間統計、院内における飲料水の提供及び近隣産科閉院についての意見交換

c 参加人数 11名

コ 第10回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年3月7日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計についての協議及び近隣産科閉院に伴う保険福祉部との意見交換結果報告

c 参加人数 8名

② 健康宅配便、ヘルスチェックキャラバン

ア 第1回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年6月8日 特別養護老人ホームはまゆう

b 活動内容

感染対策講習会「VRE感染に伴う標準的予防策・VREを知る」

c 参加人数 72人

イ 第2回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年6月16日 ルナランドデイサービス

b 活動内容

感染対策講習会「食中毒の発生予防とまん延防止について」

c 参加人数 10人

ウ 第3回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年6月23日 三浦市勤労市民センター

b 活動内容

「日常の健康管理について」

c 参加人数 29 人

エ 第4回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年6月28日 ルナランドデイサービス

b 活動内容

感染対策講習会「食中毒の発生予防とまん延防止について」

c 参加人数 11 名

オ 第5回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年7月13日 介護老人施設なぎさ

b 活動内容

感染対策講習会「VRE感染症についての勉強会」

c 参加人数 8 人

カ 第6回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成28年7月29日 特別養護老人ホーム鎌倉清和由比

b 活動内容

感染対策講習会「VRE感染症についての勉強会」

c 参加人数 34 名

キ 第1回「ヘルスチェックキャラバン」

a 開催日時及び場所

平成28年10月23日 YMCA三浦ふれあいの村

b 活動内容

三浦市民健康大学オープンキャンパス ヘルスチェック等

c 参加人数 102 名

ク みうら市民まつり

a 開催日時及び場所

平成28年11月20日 潮風アリーナ

b 活動内容

ボールプール、頸動脈エコー、ヘルスチェック、コスプレ撮影等

ケ 第7回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月7日 豊夢三浦海岸
- b 活動内容
感染対策講習会「VRE感染症についての勉強会」
- c 参加人数 9名

コ 第8回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月8日 油壺マリーナヒルズ
- b 活動内容
感染対策講習会「VRE感染症についての勉強会」
- c 参加人数 27名

サ 第9回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月21日 ソノラス・コート油壺
- b 活動内容
感染対策講習会「VRE感染症についての勉強会」
- c 参加人数 27名

③ 院内コンサート

ア 第1回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成28年9月24日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
ロビー民舞
- c 参加人数 58名

イ 第2回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成28年12月3日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
ロビー民舞
- c 参加人数 34名

オ その他

随時活動している内容として、1階玄関ロビーの生け花、市内小中学校児童・生徒の作品を9月から3月まで内科待合に展示している。

7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

地域が一体となった糖尿病の重症化及び合併症の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会を設置した。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ①糖尿病のミニマムデータセットを活用した糖尿病疾病診療体制の構築に関すること。
- ②診療所からの検体検査業務受託により得たデータに基づく当該診療所との糖尿病疾病診療に係る連携に関すること。
- ③その他地域が一体となった糖尿病疾病管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 4 月 19 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、外来、フットケア外来、リハビリ、栄養科、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

イ 第２回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 5 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
検査、外来、フットケア外来、栄養科、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

ウ 第3回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年6月21日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、外来、フットケア外来、栄養科、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 16名

エ 第4回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年8月16日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、外来、リハビリ、栄養科、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 13名

オ 第5回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年9月20日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、外来、フットケア外来、リハビリ、栄養科、病棟、薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 11名

カ 第6回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年11月15日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、フットケア、入院等各部門からの報告

c 参加人数 12名

キ 第7回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年12月20日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、外来、入院、リハビリ、栄養指導等各部門からの報告

c 参加人数 11 名

ク 第 8 回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 1 月 17 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、フットケア外来、外来、入院、リハビリ、栄養指導、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 14 名

ケ 第 9 回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 2 月 21 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、フットケア外来、外来、入院、リハビリ、薬剤科、栄養指導等各部門からの報告

c 参加人数 13 名

コ 第 10 回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 3 月 21 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

検査、外来、フットケア外来、リハビリ、栄養科、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 13 名

③ その他イベント

ア 第 1 回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 11 月 24 日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

栄養課が担当し、「糖尿病と食事」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約 5 人

イ 第2回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成28年12月1日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

薬剤科が担当し、「糖尿病と薬」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

ウ 第3回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成28年12月8日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

リハビリテーション科が担当し、「糖尿病と運動」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

エ 第4回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成28年12月15日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

看護部が担当し、「糖尿病と日常生活」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

オ 第5回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成28年12月22日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

看護部が担当し、「糖尿病とフットケア」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

8 三浦市立病院薬事委員会



委員長 堀内 俊治（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

- ア 院内における医薬品の適正な管理及び運用に関すること。
- イ 医薬品の採用及び削除に関すること。
- ウ 使用医薬品の適正な使用方法（厚生労働省発行の医薬品副作用情報の伝達等）に関すること。
- エ その他薬剤業務に関すること。
以上について必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 平成 28 年度第 1 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 28 年 4 月 22 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

委員の紹介

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科定数配置薬、配置数の見直しにより診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

5 名（欠席者：1 名）

イ 平成 28 年度第 2 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 28 年 7 月 22 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

4名（欠席者：2名）

ウ 平成28年度第3回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成28年10月28日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

7名（薬学実習生1名含む）

エ 平成28年度第4回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成29年1月27日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

6名

（単位：品目）

平成28年度採用・削除状況				
区分	内用	注射	外用	計
新規採用	14	4	2	20
削除	10	0	1	11
新規準採用	9	0	11	20
平成29年3月31日 採用状況				
区分	内用	注射	外用	計
採用薬品数	482(42)	337(42)	185(17)	1004(101)
準採用薬品数	514(14)	6	180(14)	700(28)

（ ）は後発品

9 三浦市立病院情報処理委員会



委員長 木谷 勇一（診療部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

I C Tに関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院情報処理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 病院業務医療情報システムの運用等に関すること。
- イ 診療録に関すること。
- ウ 画像記録に関すること。
- エ 諸記録に関すること。
- オ 疾病分類に関すること。
- カ その他診療録、院内の情報処理に関すること。

平成 26 年 5 月 15 日改正

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第 1 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 4 月 21 日 三浦市立病院副院長室

b 活動内容

- ・委員会構成員の変更について
- ・電カルサーバーの自動再起動について
- ・他院からの情報提供について

c 参加人数：11 名

イ 第 2 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 5 月 19 日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

- b 活動内容
- ・ I p a d について
 - ・ 内視鏡室の部門 P C が X P について
 - ・ ホームページ運用部会の設置について
 - ・ 週報会議 C T 件数報告について
 - ・ I C T システム構築モデル事業について
- c 参加人数：9 名
- ウ 第3回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 28 年 6 月 15 日 D P C 室
- b 活動内容
- ・ 同一患者の複数患者 I D の関連付けについて
 - ・ 電気設備点検について
 - ・ ホームページ運用部会の設置、報告について
- c 参加人数：9 名
- エ 第5回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 28 年 8 月 17 日 三浦市立病院 D P C 室
- b 活動内容
- ・ I p a d のバイタル表記について
 - ・ I C T システム構築モデル事業について
 - ・ ホームページ監視結果について
- c 参加人数：8 名
- オ 第6回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 28 年 9 月 21 日 三浦市立病院 D P C 室
- b 活動内容
- ・ ホームページ監視結果について
 - ・ I p a d のバイタル表記について
 - ・ I C T システム構築モデル事業について
- c 参加人数：8 名
- カ 第7回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 10 月 19 日 三浦市立病院D P C 室
- b 活動内容
- ・ 予約枠について
 - ・ 65 歳以上の方の緊急連絡先について
 - ・ 目標設定・支援管理料について
 - ・ 情報機器破損報告書について
- c 参加人数：11 名
- キ 第 8 回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 28 年 11 月 16 日 三浦市立病院D P C 室
- b 活動内容
- ・ 目標設定・支援管理について
 - ・ I C Tシステム構築モデル事業について
 - ・ ホームページ監視結果について
- c 参加人数：11 名
- ク 第 9 回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 28 年 12 月 21 日 三浦市立病院D P C 室
- b 活動内容
- ・ 電カルトップへのショートカット作成について
 - ・ I p a dについて
 - ・ 土日の心電図オーダーについて
- c 参加人数：11 名
- ケ 第 10 回「情報処理委員会」
- a 開催日時及び場所
平成 29 年 1 月 18 日 三浦市立病院D P C 室
- b 活動内容
- ・ 情報セキュリティラウンドについて
 - ・ ホームページ監視結果について
- c 参加人数：11 名
- コ 第 11 回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 2 月 15 日 三浦市立病院 D P C 室
- b 活動内容
 - ・リンパ浮腫外来の予約について
 - ・ドック予約枠について
 - ・サプライ品管理台帳について
- c 参加人数：9 名

サ 第 12 回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 3 月 15 日 三浦市立病院 D P C 室
- b 活動内容
 - ・ホームページ監視結果について
 - ・インフルエンザ薬の予防投与について
 - ・感染対策委員会から情報処理委員会への報告について
- c 参加人数 11 名

Ⅳ 経営状況

1 決算概要

(1) 経常収益比較

○事業収益に関する事項

区 分		平成28年度	平成27年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 収 益	入 院 収 益	円 1,350,172,883	円 1,448,394,484	円 △ 98,221,601	% △ 6.8
	外 来 収 益	666,619,392	692,947,482	△ 26,328,090	△ 3.8
	そ の 他 医 業 収 益	150,633,680	154,922,418	△ 4,288,738	△ 2.8
	他 会 計 負 担 金	171,361,000	171,782,000	△ 421,000	△ 0.2
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	69,554,000	76,704,000	△ 7,150,000	△ 9.3
	長 期 前 受 金 戻 入	22,069,287	22,484,274	△ 414,987	△ 1.8
	そ の 他	35,113,432	35,913,639	△ 800,207	△ 2.2
事 業 収 益		2,465,523,674	2,603,148,297	△ 137,624,623	△ 5.3

○事業費用に関する事項

区 分		平成28年度	平成27年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 費 用	給 与 費	円 1,471,536,144	円 1,479,480,060	円 △ 7,943,916	% △ 0.5
	材 料 費	279,624,771	288,424,356	△ 8,799,585	△ 3.1
	経 費	412,753,607	426,242,440	△ 13,488,833	△ 3.2
	減 価 償 却 費	183,161,314	172,337,377	10,823,937	6.3
	資 産 減 耗 費	2,448,208	5,233,739	△ 2,785,531	△ 53.2
	研 究 研 修 費	25,412,120	31,626,235	△ 6,214,115	△ 19.6
医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	47,521,451	50,586,952	△ 3,065,501	△ 6.1
	そ の 他	82,562,961	76,020,908	6,542,053	8.6
特 別 損 失		7,322,377	251,070	7,071,307	2,816.5
事 業 費 用		2,512,342,953	2,530,203,137	△ 17,860,184	△ 0.7

(2) 損益計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位:円)

1	医	業	収	益			
(1)	入	院	収	益	1,350,172,883		
(2)	外	来	収	益	666,619,392		
(3)	そ	の	他	医	業	収	益
(4)	他	会	計	負	担	金	
					<u>171,361,000</u>	2,338,786,955	
2	医	業	費	用			
(1)	給		与	費	1,471,536,144		
(2)	材		料	費	279,624,771		
(3)	経			費	412,753,607		
(4)	減	価	償	却	費	183,161,314	
(5)	資	産	減	耗	費	2,448,208	
(6)	研	究	研	修	費	<u>25,412,120</u>	<u>2,374,936,164</u>
	医	業	損	失			36,149,209
3	医	業	外	収	益		
(1)	受	取	利	息	配	当	金
(2)	他	会	計	負	担	金	
(3)	長	期	前	受	金	戻	入
(4)	そ	の	他	医	業	外	収
					<u>35,109,698</u>	126,736,719	
4	医	業	外	費	用		
(1)	支	払	利	息	及	び	企
(2)	患	者	外	給	食	材	料
(3)	貸	倒	引	当	金	繰	入
(4)	雑		損		失		
					<u>58,853,926</u>	<u>130,084,412</u>	<u>△ 3,347,693</u>
	経	常	損	失			39,496,902
5	特	別	損	失			
(1)	過	年	度	損	益	修	正
					<u>7,322,377</u>	<u>7,322,377</u>	<u>△ 7,322,377</u>
	当	年	度	純	損	失	46,819,279
	前	年	度	繰	越	欠	損
							<u>694,552,696</u>
	当	年	度	未	処	理	欠
							<u><u>741,371,975</u></u>

(3) 貸借対照表

(単位：円)

資 産 の 部			
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
イ	土 地	34,032,902	
ロ	建 物	1,947,659,995	
	建物減価償却累計額	<u>△613,241,207</u>	1,334,418,788
ハ	建物附属設備	1,708,547,153	
	建物附属設備減価償却累計額	<u>△560,223,121</u>	1,148,324,032
ニ	構 築 物	28,538,421	
	構築物減価償却累計額	<u>△17,697,850</u>	10,840,571
ホ	器 械 備 品	1,327,186,686	
	器械備品減価償却累計額	<u>△940,608,172</u>	386,578,514
ヘ	車 両	9,672,952	
	車両減価償却累計額	<u>△6,030,669</u>	3,642,283
ト	リ ー ス 資 産	4,531,000	
	リース資産減価償却累計額	<u>△4,403,950</u>	127,050
	有形固定資産合計		2,917,964,140
(2)	無 形 固 定 資 産		
イ	電 話 加 入 権	443,100	
	無形固定資産合計		443,100
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産		
イ	長 期 貸 付 金	67,200,000	
	貸倒引当金	<u>△35,130,000</u>	32,070,000
	投資その他の資産合計		<u>32,070,000</u>
	固 定 資 産 合 計		2,950,477,240
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		373,850,233
(2)	未 収 金		
イ	医 業 未 収 金	375,885,790	
	貸倒引当金	<u>△8,426,923</u>	367,458,867
ロ	医 業 外 未 収 金	79,702,044	
	貸倒引当金	<u>△635</u>	79,701,409
ハ	そ の 他 未 収 金		<u>130,490,916</u>
	未収金合計		577,651,192
(3)	貯 蔵 品		10,325,273
(4)	前 払 費 用		1,523,904
(5)	そ の 他 流 動 資 産		<u>1,006,746</u>
	流 動 資 産 合 計		<u>964,357,348</u>
	資 産 合 計		<u><u>3,914,834,588</u></u>

(単位：円)

負債の部			
3	固定負債		
(1)	企業債		
イ	建設改良費等の財源に充てるための企業債	2,412,132,750	
	企業債合計		2,412,132,750
(2)	引当金		
イ	退職給付引当金	80,808,000	
	引当金合計		80,808,000
	固定負債合計		2,492,940,750
4	流動負債		
(1)	企業債		
イ	建設改良費等の財源に充てるための企業債	243,183,759	
	企業債合計		243,183,759
(2)	未払金		
イ	医業未払金	132,179,877	
ロ	医業外未払金	2,313,102	
ハ	その他の未払金	35,800,431	
	未払金合計		170,293,410
(3)	前受金		4,272,292
(4)	引当金		
イ	賞与引当金	70,274,688	
ロ	法定福利費引当金	13,246,374	
	引当金合計		83,521,062
(5)	預り金		13,505,609
	流動負債合計		514,776,132
5	繰延収益		
(1)	長期前受金		
イ	受贈財産評価額	2,077,452	
ロ	寄附金	30,104,856	
ハ	国庫補助金	170,072,880	
ニ	県補助金	25,736,191	
ホ	市補助金	114,027,457	
	長期前受金合計		342,018,836
(2)	収益化累計額	△198,555,350	
	繰延収益合計		143,463,486
	負債合計		3,151,180,368
資本の部			
6	資本金		
(1)	固有資本金		67,852,672
(2)	繰入資本金	1,437,173,523	
	資本金合計		1,505,026,195
7	剰余金		
(1)	欠損金		
イ	当年度未処理欠損金	741,371,975	
	欠損金合計		741,371,975
	剰余金合計		△741,371,975
	資本合計		763,654,220
	負債資本合計		3,914,834,588

2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況

団 体 名		神奈川県三浦市					
プ ラ ン の 名 称		三浦市立病院改革プラン					
策 定 日		平成 21年		3月		25日	
対 象 期 間		平成 21年度		～		平成 25年度	
病院 の 現 状	病 院 名	三浦市立病院					
	所 在 地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号					
	病 床 数	一般病床136床					
	診療科目	内科 神経内科 外科 整形外科 眼科 耳鼻いんこう科 小児科 産婦人科 リハビリテーション科 麻酔科、脳神経外科					
公立病院として今後果たすべき役割 (概要) (注)詳細は別紙添付		・ 公立病院として地域医療の基幹的な役割を果たす 市内唯一の総合病院として、民間医療機関で担うことのできない高度・専門医療を提供するとともに、救急告示病院として、一次及び二次救急を担う。 ・ 自己完結型から地域完結型に転換 それぞれの医療機関や福祉施設が、得意分野を生かして機能や役割を分担するとともに、地域的なネットワークにより、医療、介護サービスを提供できるような仕組みを目指し、地域完結型医療への転換を図る。 ・ ネットワークで安全、安心の医療を提供 病々、病診の連携を強化し、地域のネットワークにより、安全、安心の医療を提供する。 ・ 市民全員の生涯的・統一的健康管理 健康管理データの一元化を図り、市民の生涯的・統一的健康管理を行う。					
一般会計における経費負担の考え方 (繰出基準の概要) (注)詳細は別紙添付		・ 救急医療の確保に要する経費(特別交付税措置分相当額＋所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・ 病院事業会計に係る共済組合追加費用の負担に要する経費の45％ ・ 地方公営企業職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費 ・ 保健衛生行政事務に要する経費のうち、医療相談等保健衛生派遣費用 ・ 高度医療に要する経費(高度医療に係る所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・ 研修研究費 ・ リハビリテーション医療に要する経費(所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・ 地方公営企業職員に係る児童手当に要する経費 ・ 病院事業債元利償還金の2/3(14年度以前分)ないし1/2(15年度以降分)相当額 ・ 病院の建設改良に要する経費の1/2(起債分を除く)					
経営 効 率 化 に 係 る 計 画	財務に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	経常収支比率	79.6	80.7	91.5	96.8	102.4	
	職員給与費比率	62.5	60.8	58.0	54.9	52.7	
	病床利用率	80.0	73.2	83.9	88.2	92.0	
	患者1人1日当たり診療収入(入院)	29,550	30,012	31,616	30,762	29,929	単位(円)
	患者1人1日当たり診療収入(外来)	5,528	5,553	5,786	6,014	6,035	単位(円)
上記目標数値設定の考え方		計画3ヶ年度目に当る平成23年度に経常黒字化を目指す。 任意項目としては、医療提供の内容を反映し患者単価に直接結びつく指標を選択した。 (経常黒字化の目標年度：23年度)					

公立病院としての医療機能に係る数値目標(主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	年延入院患者数	39,821	36,338	41,641	43,783	45,817	年間延べ件数
	年延外来患者数	114,615	108,926	120,711	124,313	126,910	年間延べ件数
	紹介件数	972	1,217	1,462	1,707	1,952	年間延べ件数
	逆紹介件数	1,032	1,277	1,522	1,767	2,012	年間延べ件数
数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期	民間的経営手法の導入	○平成2年4月1日から医事事務を完全委託化。 ○平成20年4月1日から病院給食業務の民間委託実施。 ○平成20年4月1日から、民間病院等経営経験の民間人を任期付き一般職員(事務長)として採用し経営改革に着手。					
	事業規模・形態の見直し	○平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。					
	経費削減・抑制対策	【人件費】 1.業務量及び業務内容を判断し、事務職員の適正配置を心がけ、最低限必要な人数で機能するよう非常勤職員の活用を積極的に図る。 2.(H20.7.1実施)平成20年度中の人事異動を進め、平成20年3月31日現在の12名の事務局職員を平成20年9月1日において8名とした。(年間効果額3,900万円) 3.(H20.7.1実施)看護師祝日勤務時間外勤務手当の振替休日シフト。(年間効果額1,200万円) 4.(H20.9.1実施)常勤医師確保による非常勤当直医師数の削減による影響額。(年間効果額2,080万円) 5.(継続的に)常勤医師確保による非常勤医師賃金の減(年間効果額約3,200万円) 【委託料】 1.(H20.5.1実施)医事業務委託の複数年契約(年間効果額380万円) 2.(H20.10.1実施)院内医事システムSE駐在委託の見直し(年間効果額460万円) 3.(H20.9.1実施)面会受付業務の見直し(年間効果額200万円) 4.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額2,600万円) 【SPD関連経費】 1.SPDシステムによる在庫管理を徹底するため、専門業者への委託化を進める。(年間効果額2,400万円)					
	収入増加・確保対策	1.(H20.7.1実施)良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、入院基本料7対1を実施(年間効果額4,500万円) 2.(H20.9.1実施)糖尿病教育入院の実施(年間効果額400万円) 3.(H20.8.1実施)亜急性期病床の算定実施(年間効果額2,400万円) 4.(H20.7.1実施)診療報酬精度調査による診療報酬請求の向上(実施効果額5,800万円) 5.(H20.10.1実施)脳神経外科外来の実施による、入院・外来の増(年間効果額1,800万円) 6.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額3,700万円) 7.(H20.9.1～実施)開業医との連携による検体検査受託(年間効果額3,600万円)					
	その他	○CS(患者満足度)、ES(職員満足度)の向上による職員の意識改革及びインフォームドコンセントの適切な対応、接遇向上による「信頼される病院」として接遇マニュアルの見直しを毎年実施 ○職員研修計画に基づき、認定看護師及び専門看護師の養成を目指し、院内における看護技術の向上を図る ○医療クラークの養成により、医師が診療に専念できる体制づくりを行う					
	各年度の収支計画	別紙のとおり					
その他の特記事項	病床利用率の状況	17年度	87.9%	18年度	90.0%	19年度	80.0%
	病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等	当面、亜急性期13床を含む136床で運営する計画。					

再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	当院が所在する神奈川県横須賀三浦保健医療圏には、公立病院が4病院所在。 (横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院(横須賀市840床)、国立病院機構久里浜アルコール症センター(横須賀市100床)、三浦市立病院(三浦市136床)※いずれも一般・療養病床の合計を記載)	
	都道府県医療計画等における今後の方向性	公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について検討を行う。	
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成21年度	<内 容> ○公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について、県及び関係市が協調して取り組む。 ○「県関係市連絡会議」等により県、関係市と協議等を進め、地域における検討(「地域検討会議」設置)の必要性について、結論を得る。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所)		
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所) 討中の場合は複数可)		
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成22年4月	<内 容> ・平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。また、平成23年度末において、24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	点検・評価・公表等の手段としては、 ア ホームページに掲載するとともに、意見募集ボタンを設定し閲覧者からの意見を集約する方法を取り入れたい。平成21年4月から運用開始できるよう、市統計情報課と協議しホームページ上の対応を実施していく。 イ 市議会の病院を審議する「都市厚生常任委員会」及び「財政健全化対策特別委員会」に報告し、意見等を集める方法を講じる。 ウ 市広報紙「三浦市民」を活用し、市民に公表するとともに意見等の募集窓口を知らしめ、電話・郵送による意見募集を行う。	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年8月頃	
その他特記事項		今後の収益の確保又は費用の削減について、計画を達成できない場合は、更なる費用の削減、繰入金増額等により、別紙1の「単年度資金不足額(※)」の水準(累積ベースの資金不足(別紙1の(H)の額)解消後(24年度以降)は、新たな単年度資金不足を発生させないこと)の達成を図ることとする。	

○事業計画に関すること

※計画はH20から

項目		単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
			決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算
入院	患者延数(退院含まず)	(A) 人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299	40,047	41,244	37,916
	1日平均患者数	(B) 人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7	109.7	112.7	103.9
	1日1人平均診療費	(C) 円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,278	33,352	35,287	35,118	35,610
病床利用率		(D) %	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2	80.7	82.9	76.4
外来	患者延数	(E) 人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038	99,395	92,442	89,073
	1日平均患者数	(F) 人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6	407.4	380.4	366.6
	1日1人平均診療費	(G) 円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688	7,064	7,496	7,484
職員数		(H) 人	136	121	114	96	114	116	133	133	131	132
	管理者	人	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
	事務	人	12	6	7	8	8	7	10	9	9	9
	医師	人	13	11	12	12	14	14	14	13	13	14
	看護師	人	76	75	70	56	72	73	78	80	79	78
	准看護師	人	10	9	7	4	4	2	1	0	0	0
	医療技術	人	25	20	18	15	15	19	29	30	29	30
	労務	人	0		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)
										0	0	0

○収支計画に関すること

項目		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算
経常損益(経常利益or経常損失)	(U)	△571,957	△562,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441	87,195	73,196	△39,496
純損益(純利益or純損失)	(V)	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991	4,268	72,945	△46,819
資本的収支差額	(Y)	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236	△217,592	△208,582	△97,782
単年度資金収支額	(Z)	△392,189	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394	73,345	70,565	86,224
地方財政法上の資金の不足額	(7)	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212	△514,724	△698,491	△784,715
解消可能資金不足額	(7)	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206	114,039	0	0
公立病院特例債残高	(エ)	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172	114,039	0	0
退職手当債残高	(オ)	0	0	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034	0	0	0
健全化法上の資金の不足額	(ハ) (7)-(7)	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418	△628,763	△698,491	△784,715

【計画達成のポイント】 H20年度作成の公営企業経営健全化計画(公立病院改革プラン収支計画)で、以下の3つのポイントを達成出来れば、計画が達成されたとみなされます。

- (a)、H20年度計画作成以降、毎年必ず単年度資金収支額(Z)を黒字とする。基準外繰入金が見込めないH23年度以降は苦しいが、それでも現金の資金収支は若干でも黒字とし、資金不足額を解消していく。その結果、健全化法上の資金の不足額(ハ)はH21年度に解消され、地方財政法上の資金の不足額(7)もH24年度に解消される。
- (b)、H23年度以降、経常損益(U)の黒字化。→「H23年度末において、H24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。」と記述。

公営企業経営健全化計画（三浦市立病院改革プラン収支計画）の概要 決算推移

項目		計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算	H26決算	H27決算	H28決算
入院	患者延数(退院含まず)	(A)	人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299	40,047	41,244	37,916
	1日平均患者数	(B)	人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7	109.7	112.7	103.9
	1日1人平均診療費	(C)	円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,276	33,352	35,287	35,118	35,610
病床利用率		(D)	%	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2	80.7	82.9	76.4
外来	患者延数	(E)	人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038	99,395	92,442	89,073
	1日平均患者数	(F)	人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6	407.4	380.4	366.6
	1日1人平均診療費	(G)	円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688	7,064	7,496	7,484
年度末職員数 ()は外書で 再任用 短時間勤務職員		(H)	人	136	121	114	96	114	116	133	133	131	132
	管理者		人	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
	事務		人	12	6	7	8	8	7	10	9	9	9
	医師		人	13	11	12	12	14	14	14	13	13	14
	看護師		人	76	75	70	56	72	73	78	80	79	78
	准看護師		人	10	9	7	4	4	2	1	0	0	0
	医療技術		人	25	20	18	15	15	19	29	30	29	30
	労務		人			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0	0	0

項目		計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算	H26決算	H27決算	H28決算
収益的収入(税抜)	収益的収入(税抜)	(I) (J)+(M)+(N)	千円	2,233,258	2,247,390	2,555,306	2,396,111	2,492,666	2,527,451	2,478,249	2,591,195	2,603,148	2,465,524
	医業収益	(J)	千円	2,115,411	1,941,284	2,083,186	2,067,763	2,340,435	2,367,568	2,332,695	2,427,724	2,447,716	2,317,867
	うち入院収益	(K)	千円	1,176,719	1,015,185	1,122,806		1,322,966	1,355,368	1,310,715	1,413,150	1,448,394	1,350,173
	うち外来収益	(L)	千円	633,604	586,580	620,216	625,886	696,046	703,534	709,178	702,116	692,947	666,619
	医業外収益	(M)	千円	117,847	137,088	134,588	144,076	152,231	159,883	145,554	162,333	155,432	147,657
	基準外繰入(特別利益)	(N)	千円	0	169,018	337,532	184,272	0	0	0	1,138	0	0
	収益的支出(税抜)	(O) (P)+(S)+(T)	千円	2,808,730	2,643,493	2,575,403	2,225,836	2,375,153	2,277,207	2,383,258	2,586,927	2,530,203	2,512,343
	医業費用	(P)	千円	2,643,971	2,477,293	2,427,809	2,081,339	2,248,490	2,175,187	2,259,115	2,374,519	2,403,344	2,374,936
	うち職員給与費	(Q)	千円	1,322,443	1,260,910	1,279,700	913,206	1,076,409	1,056,313	1,149,282	1,198,382	1,237,710	1,221,669
	(O)のうち退職手当除く	(R)	千円	1,248,474	1,118,892	1,057,659	865,898	1,017,890	1,048,920	1,128,629	1,150,975	1,155,706	1,178,944
収益的支出(税抜)	(O)のうち退職手当	(R)	千円	73,969	142,018	222,041	47,308	58,519	7,393	20,653	47,407	82,004	42,725
	医業外費用	(S)	千円	161,244	163,586	140,177	134,250	106,885	96,662	110,693	128,343	126,608	130,084
	特別損失	(T)	千円	3,515	2,614	7,417	10,347	19,778	5,358	13,450	84,065	251	7,323
	経常損益(経常利益or経常損失)	(U) ((I)+(M))-(O)-(R)	千円	△571,957	△582,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441	87,195	73,198	△39,496
	純損益(純利益or純損失)	(V) (I)-(O)	千円	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991	4,268	72,945	△46,819
資本的収入(税込)	資本的収入(税込)	(W)	千円	86,727	668,552	49,224	64,369	91,596	98,812	498,839	115,180	223,483	194,212
	資本的支出(税込)	(X)	千円	175,686	759,140	106,575	139,838	309,235	321,437	721,075	332,772	432,065	291,994
	資本的収支差額	(Y) (W)-(X)	千円	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236	△217,592	△208,582	△97,782
資金収支	単年度資金収支額	(Z)	千円	△392,189	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394	73,345	70,565	86,224
	資金の不足額	(7)	千円	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212	△514,724	△698,491	△784,715
	地財法	(7)	%	26.5	40.8	31.2	18.5	8.7	△4.2	△11.8	△21.2	△28.5	△33.9
	資金不足比率	(7) (7)/(I)	%										
	解消可能	(7)	千円	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206	114,039	0	0
	資金不足額	(7)	千円	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172	114,039	0	0
	退職手当償残高	(7)	千円	0	206,800	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034	0	0	0
	健全化法	(7)	千円	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418	△628,763	△698,491	△784,715
	資金不足比率	(7) (7)/(I)	%	26.5	11.9	△5.7	△18.7	△17.3	△22.9	△23.8	△25.9	△28.5	△33.9

				新会計制度による移行数値							147,601	
				議決による処分額(予定)							626,385	
累積欠損金	(7)	千円	1,762,475	2,158,578	2,178,675	2,008,500	1,890,987	1,640,743	1,545,752	1,393,883	694,553	741,372

3 財務分析

※数値は決算統計から				単位(千円)		式 式 H25まで (会計基準見直し前)	式 式 H26から (会計基準見直し後)	説 明
区分	年度 ↑ = 改善 ↓ = 悪化	H27 9 月 5 日	H28 6 月 8 日					
(1) 固定資産構成比率	(%) 前年比 ↑	76.8 ↑	75.4 ↑	固 定 資 産 総 資 産 × 100	変 更 な し	固 定 資 産 総 資 産 × 100	変 更 な し	総資産中の固定資産(企業内に長期的に滞留させ短期間に回収されない資産)が、どのくらいの割合かを示す指標で、数値が高いほど、現金等の流動資産が少ないことを示す。
		固定資産 3,087,794	2,950,477	※総資産＝固定資産＋流動資産＋繰延勘定(H26から繰延資産)				
		総資産 4,020,508	3,914,835					
(2) 固定比率 (100以下が理想)	(%) 前年比 ↑	365.1 ↑	325.3 ↑	固 定 資 産 自己資本(自己資本金＋剰余金) × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 × 100	固定資産は、自己資本(自己資本金＋剰余金)から調達されるべきするという企業財政上の原則から、100%以下が理想である。 固定資産に投資した資金が返済義務のない自己資本でどれだけまかなわれているかを見るための指標。
		固定資産 3,087,794	2,950,477					
		資本金 1,377,315	1,505,027					
		自己資本金						
		剰余金 △694,553	△741,372					
		繰延収益 163,033	143,463					
(3) 固定資産 対 長期資本比率	(%) 前年比 ↑	88.5 ↑	86.8 ↑	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋固定負債 × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益 × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益 × 100	固 定 資 産 資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益 × 100	固定資産がどのような財源で構成されているかを判断するための指標であり、数値は低いほど良い。この数値は100%以下であることが要求され、100%を超える場合は、不良債務が発生していることを意味する。 (この場合不良債務は健全化法上の不良債務)
		固定資産 3,087,794	2,950,477					
		資本金 1,377,315	1,505,027					
		剰余金 △694,553	△741,372					
		固定負債 2,641,999	2,492,941					
		繰延収益 163,033	143,463					
(4) 流動比率	(%) 前年比 ↑	176.1 ↑	187.3 ↑	流 動 資 産 流 動 負 債 × 100	変 更 な し	流 動 資 産 流 動 負 債 × 100	変 更 な し	数値が100%以上であると、短期的な支払能力が支払義務をまかなって余りあるということで、支払余力があると推測することができる。
		流動資産 932,714	964,358					
		流動負債 532,714	514,776					
(5) 当座比率 (厳性試験比率)	(%) 前年比 ↑	168.9 ↑	184.8 ↑	現 金 預 金 ＋ 未 収 金 流 動 負 債 × 100	現 金 預 金 ＋ (未収金－貸倒引当金) 流 動 負 債 × 100	現 金 預 金 ＋ (未収金－貸倒引当金) 流 動 負 債 × 100	現 金 預 金 ＋ (未収金－貸倒引当金) 流 動 負 債 × 100	短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化しうる未収金が十分であることを示す。 当座比率は分子に棚卸資産等のすぐに換金できない資産を含めない点で流動比率とは異なり、流動比率より厳密な短期的な支払能力を示す指標となる。数値は100%以上が望ましい。
		現金預金 351,099	373,850					
		未収金 557,513	586,079					
		貸倒引当金 8,741	8,428					
		流動負債 532,714	514,776					
(6) 自己資本構成比率	(%) 前年比 ↑	21.0 ↑	23.2 ↑	自 己 資 本 金 ＋ 剰 余 金 負 債 資 本 合 計 × 100	資 本 金 ＋ 剰 余 金 ＋ 評 価 差 額 等 ＋ 繰 延 収 益 負 債 資 本 合 計 × 100	資 本 金 ＋ 剰 余 金 ＋ 評 価 差 額 等 ＋ 繰 延 収 益 負 債 資 本 合 計 × 100	資 本 金 ＋ 剰 余 金 ＋ 評 価 差 額 等 ＋ 繰 延 収 益 負 債 資 本 合 計 × 100	総資本(負債資本合計)と自己資本(自己資本金・剰余金)の関係を示す。 (1)固定負債構成比率が小さくであり、 <u>自己資本構成比率</u> が大であるほど、経営の安定度は大きいと言える。 自己資本比率が高い(総資本に占める自己資本の割合が多い)ほどその企業は返済不要の資本を元手に事業を行っているため経営が安定します。
		自己資本金 0	0					
		剰余金 △694,553	△741,372					
		資本金 1,377,315	1,505,027					
		繰延収益 163,033	143,463					
		負債資本合計 4,020,508	3,914,835	※負債資本合計＝固定負債＋流動負債＋繰延収益＋資本金＋剰余金				
(7) 自己資本回転率	(%) 前年比 ↓	3.2 ↓	2.6 ↓	医 業 収 益 (期首自己資本＋期末自己資本) × 1/2	医 業 収 益 (期首自己資本＋期末自己資本) × 1/2	医 業 収 益 (期首自己資本＋期末自己資本) × 1/2	医 業 収 益 (期首自己資本＋期末自己資本) × 1/2	回転率が高ければ、収益の源である医業収益が、投下された自己資本と比較して大きく、自己資本が効率的に使用されていることを示します。 ただし、急激に悪化している場合、短期借入金などに頼って売上が急上昇し回転率が上昇したり、業績が悪化している場合、自己資本の減少と売上の減少が同時に起こり回転率が悪化しない場合もあるので注意が必要。その他の指標と組み合わせて見る必要がある。
		医業収益 2,447,716	2,317,867					
		期首自己資本金 -	-					
		期首剰余金 △767,498	△694,553					
		期末自己資本金 -	-					
		期末剰余金 △694,553	△741,372					
		期首資本金 1,353,632	1,377,315	※自己資本＝ 自己資本金＋剰余金				
		期首繰延収益 185,517	163,033					
		期末資本金 1,377,315	1,505,027					
		期末繰延収益 163,033	143,463					
(8) 経常収支比率	(%) 前年比 ↓	102.9 ↓	98.4 ↓	経 常 収 益 経 常 費 用 × 100	変 更 な し	経 常 収 益 経 常 費 用 × 100	変 更 な し	経常費用に対する経常収益の割合で、数値は高いほど良い。
		経常収益 2,603,148	2,465,524					
		経常費用 2,529,952	2,505,020					
(9) 医業収支比率	(%) 前年比 ↓	101.8 ↓	97.6 ↓	医 業 収 益 医 業 費 用 × 100	変 更 な し	医 業 収 益 医 業 費 用 × 100	変 更 な し	医業費用に対する医業収益の割合で、数値は高いほど良い。
		医業収益 2,447,716	2,317,867					
		医業費用 2,403,344	2,374,936					
(10) 平均給与	(千円) 前年比 ↑	6,670 ↑	6,738 ↓	職 員 給 与 費 職 員 数	変 更 な し	職 員 給 与 費 職 員 数	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		基本給 540,525	543,639					
		手当 354,370	356,411	※職員給与費＝地方公営企業決算の状況25表の基本給+手当				
		年間延職員数 1,610	1,693	※職員数＝地方公営企業決算の状況25表の年間延職員数÷12				
(11) 労働生産性	(千円) 前年比 ↑	19,244 ↑	17,351 ↓	医 業 収 益 職 員 数	変 更 な し	医 業 収 益 職 員 数	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は高いほど良い。
		医業収益 2,447,716	2,317,867					
		年間延職員数 1,610	1,693	※職員数＝地方公営企業決算の状況25表の年間延職員数÷12				
(12) 労働分配率	(%) 前年比 ↑	36.6 ↑	38.8 ↓	職 員 給 与 費 医 業 収 益 × 100	変 更 な し	職 員 給 与 費 医 業 収 益 × 100	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		基本給 540,525	543,639					
		手当 354,370	356,411					
		医業収益 2,447,716	2,317,867	※職員給与費＝地方公営企業決算の状況25表の基本給+手当				
(13) 流動資産回転率	(回) 前年比 ↓	2.8 ↓	2.4 ↓	医 業 収 益 (期首流動資産＋期末流動資産) × 1/2	変 更 な し	医 業 収 益 (期首流動資産＋期末流動資産) × 1/2	変 更 な し	流動資産回転率が高ければ高いほど、流動資産が効率的に売上高に貢献していることになります。この回転率が低くなる要因としては、滞留在庫や滞留債権の増加などが考えられます。
		医業収益 2,447,716	2,317,867					
		期首流動資産 816,136	932,714					
		期末流動資産 932,714	964,358					
(14) 職員給与費比率	(%) 前年比 ↓	60.6 ↓	62.7 ↓	医 業 収 益 職 員 給 与 費	変 更 な し	医 業 収 益 職 員 給 与 費	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		医業収益 2,447,716	2,317,867					
		職員給与費 1,237,710	1,221,669	※職員給与費＝地方公営企業決算の状況20表の職員給与費				

V 各種統計資料

1 入院患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H28	1,601	1,814	1,651	1,711	1,651	1,504	9,932	1,619	1,507	1,730	1,803	1,624	1,771	10,054	19,986
	H27	1,603	1,633	1,525	1,938	1,989	1,740	10,428	1,934	1,665	1,883	1,842	1,600	1,501	10,425	20,853
	比較	△ 2	181	126	△ 227	△ 338	△ 236	△ 496	△ 315	△ 158	△ 153	△ 39	24	270	△ 371	△ 867
神 經 内 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	H28	560	532	473	640	442	436	3,083	501	578	489	624	504	554	3,250	6,333
	H27	657	627	458	629	586	698	3,655	584	400	491	596	502	494	3,057	6,712
	比較	△ 97	△ 95	15	11	△ 144	△ 262	△ 572	△ 83	178	8	28	2	60	193	△ 379
整 形 外 科	H28	1,051	1,034	1,051	710	644	863	5,353	771	803	1,108	1,243	1,151	1,064	6,140	11,493
	H27	1,326	1,225	1,198	924	1,090	1,005	6,768	900	1,088	1,286	1,269	1,215	1,019	6,777	13,545
	比較	△ 275	△ 191	△ 147	△ 214	△ 446	△ 142	△ 1,415	△ 129	△ 285	△ 178	△ 26	△ 64	45	△ 637	△ 2,052
産 婦 人 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	H28	9	5	9	12	0	4	39	14	6	10	16	11	8	65	104
	H27	16	29	21	7	15	8	96	12	11	4	2	6	3	38	134
	比較	△ 7	△ 24	△ 12	5	△ 15	△ 4	△ 57	2	△ 5	6	14	5	5	27	△ 30
耳 鼻 咽 喉 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮 膚 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	H28	3,221	3,385	3,184	3,073	2,737	2,807	18,407	2,905	2,894	3,337	3,686	3,290	3,397	19,509	37,916
	H27	3,602	3,514	3,202	3,498	3,680	3,451	20,947	3,430	3,164	3,654	3,709	3,323	3,017	20,297	41,244
	比較	△ 381	△ 129	△ 18	△ 425	△ 943	△ 644	△ 2,540	△ 525	△ 270	△ 317	△ 23	△ 33	380	△ 788	△ 3,328
果 計	H28	3,221	6,606	9,790	12,863	15,600	18,407	21,312	24,206	27,643	31,229	34,519	37,916			
	H27	3,602	7,116	10,318	13,816	17,496	20,947	24,377	27,541	31,195	34,904	38,227	41,244			
	比較	△ 381	△ 510	△ 528	△ 953	△ 1,896	△ 2,540	△ 3,065	△ 3,335	△ 3,652	△ 3,675	△ 3,708	△ 3,328			
合 計 (+ 退 院 患 者 数)	退院	205	232	188	222	199	205	1,251	225	218	243	220	229	218	1,353	2,604
	H28	3,426	3,617	3,372	3,295	2,936	3,012	19,668	3,130	3,112	3,580	3,906	3,519	3,615	20,862	40,520
	比較	△ 181	△ 505	△ 646	△ 1,203	△ 1,754	△ 1,935	△ 1,415	△ 1,320	△ 1,572	△ 1,318	△ 1,387	△ 1,196	△ 1,197	△ 1,491	△ 1,884
診 療 日 数	H28	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	H27	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	29	31	183	366
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	△ 1	△ 1
1 日 者 平 均 数	H28	107	109	106	99	88	94	101	94	96	108	119	118	110	107	104
	H27	120	113	107	113	119	115	114	111	105	118	120	115	97	111	113
	比較	△ 13	△ 4	△ 1	△ 14	△ 31	△ 21	△ 13	△ 17	△ 9	△ 10	△ 1	3	13	△ 4	△ 9
新 生 児	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平 均 在 院 数	新入院	200	236	207	190	218	198	1,249	217	223	245	229	221	207	1,342	2,591
	退院	205	232	188	222	199	205	1,251	225	218	243	220	229	218	1,353	2,604
	H28	16.9	15.7	17.5	16.3	14.3	15.4	16.0	14.2	13.9	14.7	17.7	15.8	17.4		15.8
日 間 滞 在 患 者 数	H27	16.5	16.2	14.0	13.9	15.7	15.3	15.2	16.0	16.1	17.0	17.6	15.9	14.3		15.7
	比較	0.4	△ 0.6	3.6	2.5	△ 1.4	0.1	0.8	△ 1.7	△ 2.2	△ 2.3	0.1	△ 0.1	3.1		0.1
	H28	24	36	32	35	34	38	199	34	24	34	32	34	34	192	391

2 外来患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H28	2,640	2,670	2,649	2,678	2,770	2,718	16,025	2,663	2,690	2,708	2,877	2,595	2,720	16,253	32,278
	H27	2,815	2,562	2,664	2,818	2,735	2,586	16,180	2,792	2,684	2,787	2,762	2,865	3,020	16,910	33,090
	比較	△ 175	108	△ 115	△ 140	35	132	△ 155	△ 129	6	△ 79	115	△ 270	△ 300	△ 657	△ 812
神 経 内 科	H28	148	143	188	143	153	145	920	155	138	146	151	118	144	852	1,772
	H27	174	160	169	176	158	140	977	184	169	158	168	157	173	1,009	1,986
	比較	△ 26	△ 17	19	△ 33	△ 5	5	△ 57	△ 29	△ 31	△ 12	△ 17	△ 39	△ 29	△ 157	△ 214
外 科	H28	723	705	773	690	830	821	4,542	680	753	705	669	714	705	4,226	8,768
	H27	746	752	773	872	802	795	4,740	837	764	744	704	768	802	4,619	9,359
	比較	△ 23	△ 47	0	△ 182	28	26	△ 198	△ 157	△ 11	△ 39	△ 35	△ 54	△ 97	△ 393	△ 591
整 形 外 科	H28	2,198	2,205	2,352	2,325	2,336	2,263	13,679	2,196	2,133	2,040	2,062	1,931	2,262	12,624	26,303
	H27	2,445	2,207	2,538	2,657	2,290	1,960	14,097	2,405	2,111	2,124	2,073	2,186	2,309	13,208	27,305
	比較	△ 247	△ 2	△ 186	△ 332	46	303	△ 418	△ 209	22	△ 84	△ 11	△ 255	△ 47	△ 584	△ 1,002
産 婦 人 科	H28	97	143	156	118	126	105	745	153	145	150	128	139	133	848	1,593
	H27	108	107	174	121	127	121	758	133	163	132	156	138	141	863	1,621
	比較	△ 11	36	△ 18	△ 3	△ 1	△ 16	△ 13	20	△ 18	18	△ 28	1	△ 8	△ 15	△ 28
小 児 科	H28	147	182	221	271	214	206	1,241	253	231	251	241	210	204	1,390	2,631
	H27	177	175	232	242	218	215	1,259	239	259	268	229	317	231	1,543	2,802
	比較	△ 30	7	△ 11	29	△ 4	△ 9	△ 18	14	△ 28	△ 17	12	△ 107	△ 27	△ 153	△ 171
眼 科	H28	486	502	575	466	495	397	2,921	522	484	489	393	418	454	2,760	5,681
	H27	591	536	614	599	566	426	3,332	575	530	550	470	541	479	3,145	6,477
	比較	△ 105	△ 34	△ 39	△ 133	△ 71	△ 29	△ 411	△ 53	△ 46	△ 61	△ 77	△ 123	△ 25	△ 385	△ 796
耳 鼻 咽 喉 科	H28	254	246	288	223	253	247	1,511	310	261	241	270	335	270	1,664	3,175
	H27	276	214	293	265	268	248	1,564	259	249	250	207	278	291	1,534	3,098
	比較	△ 22	32	△ 5	△ 42	△ 15	△ 1	△ 53	51	12	△ 9	40	△ 8	44	130	77
麻 酔 科	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H28	156	146	163	156	141	150	912	132	147	132	150	135	165	861	1,773
	H27	149	149	144	148	122	123	835	179	119	135	133	156	138	860	1,695
	比較	7	△ 3	19	8	19	27	77	△ 47	28	△ 3	17	△ 21	27	1	78
泌 尿 器 科	H28	192	187	229	199	202	207	1,216	250	209	248	206	183	253	1,349	2,565
	H27	206	195	218	206	216	183	1,224	207	217	210	200	193	190	1,217	2,441
	比較	△ 14	△ 8	11	△ 7	△ 14	24	△ 8	43	△ 8	38	6	△ 10	63	132	124
皮 膚 科	H28	215	211	213	249	267	215	1,370	221	214	181	209	157	182	1,164	2,534
	H27	204	177	263	225	234	211	1,314	240	156	208	221	193	236	1,254	2,568
	比較	11	34	△ 50	24	33	4	56	△ 19	58	△ 27	△ 12	△ 36	△ 54	△ 90	△ 34
合 計	H28	7,256	7,340	7,707	7,518	7,787	7,474	45,082	7,535	7,405	7,291	7,333	6,870	7,557	43,991	89,073
	H27	7,891	7,234	8,082	8,329	7,736	7,008	46,280	8,050	7,421	7,566	7,323	7,792	8,010	46,162	92,442
	比較	△ 635	106	△ 375	△ 811	51	466	△ 1,198	△ 515	△ 16	△ 275	10	△ 922	△ 453	△ 2,171	△ 3,369
累 計	H28	7,256	14,596	22,303	29,821	37,608	45,082		52,617	60,022	67,313	74,646	81,516	89,073		
	H27	7,891	15,125	23,207	31,536	39,272	46,280		54,330	61,751	69,317	76,640	84,432	92,442		
	比較	△ 635	△ 529	△ 904	△ 1,715	△ 1,664	△ 1,198		△ 1,713	△ 1,729	△ 2,004	△ 1,994	△ 2,916	△ 3,369		
平 日	H28	7,115	7,146	7,613	7,332	7,590	7,328	44,124	7,379	7,261	7,009	7,015	6,715	7,422	42,801	86,925
診 療 日 数	H28	20	19	22	20	22	20	123	20	20	19	19	20	22	120	243
	H27	21	18	22	22	21	19	123	21	19	19	19	20	22	120	243
	比較	△ 1	1	0	△ 2	1	1	0	△ 1	1	0	0	0	0	0	0
平 日 日 数	H28	20	19	22	20	22	20	123	20	20	19	19	20	22	120	243
1 日 平 均 患 者 数	H28	363	386	350	376	354	374	367	377	370	384	386	344	344	367	367
	H27	376	402	367	379	368	369	376	383	391	398	385	390	364	385	380
	比較	△ 13	△ 16	△ 17	△ 3	△ 14	5	△ 9	△ 6	△ 21	△ 14	1	△ 46	△ 20	△ 18	△ 13
1 日 平 均 患 者 数 (平 日)	H28	356	376	346	367	345	366	359	369	363	369	369	336	337	357	358

3 救急患者数実績

(1) 集計期間 平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

(2) 区分 休日：日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日、
12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日
平日：休日以外の日

(3) 男女別 (単位：人)

区分	男	女	合 計
休日	710	699	1,522
平日	1,330	1,420	2,750
合計	2,040	2,119	4,159

(4) 年齢別 (単位：人)

区分	0～9	10～19	20～59	60～	合 計
休日	29	79	582	719	1,409
平日	39	106	841	1,764	2,750
合計	68	185	1,423	2,483	4,159

(5) 地域別 (単位：人)

区分	三 浦 市	横 須 賀 市	県 内 (除： 三浦・横須賀)	県 外	合 計
休日	1,216	41	0	152	1,409
平日	2,401	137	0	212	2,750
合計	3,617	178	0	364	4,159

(6) 科別患者数 (単位：人)

区分	内科	外科	整形 外科	脳神経 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	泌尿 器科	皮膚科	その他	合 計
休日	1,002	232	162	0	0	0	0	0	10	2	1	1,409
平日	1,816	485	418	2	0	1	2	0	16	2	8	2,750
合計	2,818	717	580	2	0	1	2	0	26	4	9	4,159

(7) 来院手段別患者数

(単位：人)

区分	救 急 車	パ ト カ ー	そ の 他	合 計
休日	223	0	1,186	1,409
平日	1,104	0	1,646	2,750
合計	1,327	0	2,832	4,159

(8) 時間帯別患者数

(単位：人)

区分	17～18	18～22	22～24	0～6	6～8	8～8:30	8:30～9	9～17	合 計
休日	75	201	37	73	55	66	70	832	1,409
平日	244	745	198	202	154	76	60	1,071	2,750
合計	319	946	235	275	209	142	130	1,903	4,159

(9) 処置状況

(単位：人)

区分	外 来	入 院	他医療機関紹介	そ の 他	合 計
休日	1,211	123	3	72	1,409
平日	1,949	557	16	228	2,750
合計	3,160	680	19	300	4,159

VI スタッフ一覧

平成 29 年 3 月 31 日現在

総 病 院 長 小 澤 幸 弘

(薬 剤 科)

【診 療 部】

診 療 部 長 木 谷 勇 一

科 長 今 村 里 絵

主 任 薬 剤 師 福 本 哲 也

薬 剤 師 加 藤 慈

薬 剤 師 長 谷 川 澄 子

薬 剤 師 太 田 健 介

薬 剤 師 猪 崎 佐 和 子

(内 科)

医 長 齊 藤 真

担 当 医 長 兒 玉 康 史

担 当 医 長 兒 玉 末

担 当 医 長 堀 内 俊 治

担 当 医 長 森 琢 磨

担 当 医 長 林 路 子

(リハビリテーション科)

技 師 長 清 水 隆 人

主 任 技 師 水 野 智 明

理 学 療 法 士 藤 田 千 穂

作 業 療 法 士 後 藤 健 太 郎

理 学 療 法 士 重 枝 利 佳

理 学 療 法 士 藤 井 伸 行

理 学 療 法 士 鈴 木 和 美

理 学 療 法 士 池 田 正 孝

理 学 療 法 士 浅 田 浩 宜

作 業 療 法 士 竹 内 晃 雄

理 学 療 法 士 吉 田 朱 里

理 学 療 法 士 林 賢 治

理 学 療 法 士 押 越 里 枝

理 学 療 法 士 泉 谷 貴 之

理 学 療 法 士 斗 賀 佳 典

(外 科)

担 当 医 長 和 田 博 雄

医 師 川 邊 泰 一

(整 形 外 科)

科 部 長 内 川 健

医 長 石 田 良 太

(産 婦 人 科)

科 部 長 大 庭 信 彰

(小 児 科)

科 部 長 五 味 渕 一 三

(眼 科)

医 師 望 月 至

【診 療 支 援 部】

診 療 支 援 部 長 五 味 渕 一 三

(放 射 線 科)

技 師 長 久 保 隆

主 任 技 師 加 藤 静

診 療 放 射 線 技 師 月 松 望 由 紀

診 療 放 射 線 技 師 加 藤 大 己

診 療 放 射 線 技 師 齋 藤 正 樹

(臨 床 検 査 科)				看	護	師	阿 部 久 美 子
技 師 長	鈴 木 正 芳	看	護	師	鈴 木 雪 江		
主 任 技 師	島 崎 時 朗	看	護	師	大 林 嬢 子		
臨 床 検 査 技 師	渡 邊 真 由	看	護	師	鈴 木 安 代		
臨 床 検 査 技 師	足 立 直 彦	看	護	師	長 島 好 美		
		看	護	師	水 野 美 樹		
(地 域 医 療 科)				看	護	師	山 崎 渚
科 長	原 美 智 子	看	護	師	藤 平 麻 衣 子		
担 当 医 長	兒 玉 末	看	護	師	一 山 春 花		
主 任 社 会 福 祉 士	安 藤 麻 由 美	看	護	師	鈴 木 未 来		
主 任 看 護 師	中 川 恵	看	護	師	福 島 智 子		
看 護 師	石 川 智 子	看	護	師	鈴 木 裕 子		
社 会 福 祉 士	井 戸 友 美	看	護	師	関 本 藍		
		看	護	師	田 中 朋 美		
(医 療 安 全 管 理 室)				看	護	師	飯 島 彩 綾
室 長	大 庭 信 彰	看	護	師	鳴 海 芽 衣		
主 幹	今 村 里 絵	看	護	師	飯 島 悠 介		
主 幹	鈴 木 正 芳						
次 長	矢 尾 板 昌 克	(3 階 病 棟)					
担 当 看 護 師 長	園 田 恵 美 子	看	護	師 長	市 川 夏 実		
主 任 技 師	島 崎 時 朗	主 任 看 護	師		下 里 未 来		
主 任 看 護 師	杉 崎 絵 美	主 任 看 護	師		長 谷 川 嘉 寛		
薬 剤 師	長 谷 川 澄 子	看	護	師	大 井 雪 子		
作 業 療 法 士	竹 内 晃 雄	看	護	師	萩 原 京 子		
薬 剤 師	猪 崎 佐 和 子	看	護	師	竹 内 馨		
		看	護	師	瀬 古 澤 和 子		
		看	護	師	高 橋 さ つ き		
【看 護 部】				看	護	師	脇 本 共 子
看 護 部 長	嘉 山 静 子	看	護	師	石 塚 仁		
主 幹	中 條 郁 代	看	護	師	岡 野 恵 美		
主 幹	原 美 智 子	看	護	師	蛭 田 千 香 子		
		看	護	師	高 橋 宏 美		
(2 階 病 棟)				看	護	師	松 崎 彩
看 護 師 長	山 本 浩 文	看	護	師	伊 東 千 瑞 子		
主 任 看 護 師	原 田 左 和 子	看	護	師	伊 藤 愛		
看 護 師	松 井 紀 子	看	護	師	本 沢 志 織		
看 護 師	君 島 直 美	看	護	師			

看 護 師 荏 原 千 織
看 護 師 氏 家 弘 之

看 護 師 田 中 絵 利 香
看 護 師 四 竈 三 佳
看 護 師 立 川 弥 主 子

(4 階 病 棟)

看 護 師 長 鈴 木 三 恵 子
主 任 看 護 師 渡 辺 み ゆ き
主 任 看 護 師 中 尾 裕 子
看 護 師 吉 田 美 智 子
看 護 師 森 和 代
看 護 師 宮 村 純 子
看 護 師 池 田 安 弘
看 護 師 崎 山 美 緒
看 護 師 原 か お り
看 護 師 石 渡 綾 子
看 護 師 一 條 生 久
看 護 師 渡 辺 俊 孝
看 護 師 益 島 美 帆
看 護 師 水 野 佳 苗
看 護 師 和 泉 未 希

(看 護 教 育 室)

看 護 師 長 舘 林 美 加 子
看 護 師 長 園 田 恵 美 子
主 任 看 護 師 杉 崎 絵 美

【事 務 局】

事 務 局 長 佐 藤 安 志

(総 務 課)

課 長 矢 尾 板 昌 克
主 査 金 枝 晃 芳
主 任 南 雄 大
主 事 齋 藤 俊

(医 事 課)

課 長 石 塚 真 司
主 査 梅 木 麗 香

(手 術 室)

看 護 師 長 下 地 福 子
主 任 看 護 師 長 田 泰 代
看 護 師 安 田 佳 恵
看 護 師 三 浦 朋 夏

(栄 養 課)

課 長 矢 尾 板 昌 克
主 任 栄 養 士 嘉 山 有 太

(外 来)

看 護 師 長 中 條 郁 代
主 任 看 護 師 柴 田 弘 子
主 任 看 護 師 山 崎 静 枝
主 任 看 護 師 宮 越 郁 子
看 護 師 上 田 み どり
看 護 師 大 竹 民 子
看 護 師 岸 田 美 智 子
看 護 師 高 杉 有 希 子
看 護 師 上 田 峰 子

VII 編集後記

当院の年報委員会を再編してから、5回目の病院年報をお届けすることとなりました。

振り返りますと、平成 28 年度も当院にとって激動の 1 年であったと感じています。1 日当たり約 367 人の外来患者さん、約 104 人の入院患者さんに安全で質の高い医療を提供する日々の努力のほか、三浦市民健康大学オープンキャンパス開催など、“「三浦ならではの地域医療の確立」”のための新たな取組を職員が一丸となって進めて参りました。

「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、より良い年報の作成に傾注すること」をお約束いたしますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、乱筆、乱文、乱調をお詫び申し上げ、編集後記といたします。

三浦市立病院年報委員会

委 員 長	佐 藤 安 志 (事 務 局 長)
副 委 員 長	嘉 山 静 子 (看 護 部)
委 員	石 塚 真 司 (医 事 課)
	矢尾板 昌克 (総 務 課)
	藤 井 伸 行 (リハビリテーション科)
	加 藤 大 己 (放 射 線 科)
	足 立 直 彦 (臨 床 検 査 科)
	長谷川 澄子 (薬 剤 科)
	南 雄 大 (総 務 課)

三浦市立病院年報 第 29 号

発 行 日	2018 年 3 月
編 集 発 行	〒238－0222 神奈川県三浦市岬陽町 4 番 33 号 三浦市立病院年報委員会
電 話	046－882－2111
F A X	046－881－7527
発 行 責 任 者	事務局長 佐藤 安志